

一 吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一 救助料ヲ分テ二等トス

一等 俸給五箇月分日給百五十日分

二等 俸給三箇月分日給九十日分

一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一 療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○第廿三章 公債

○第一款 整理公債條例

▲明治十九年十月勅令第六十六號

朕整理公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十六號

整理公債條例

第一條 整理公債ハ従前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ

爲メニ募集スルモノトス

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ

漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓

五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トス

ルコトヲ得

第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募金拂込

度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第七條 整理公債應募高毎期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募

價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格

同シキモノハ申込ノ高キ割合減少スルモノトス

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マ

テニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分

ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證書ヲ交

○第一類 ○行政法 ○整理公債條例

付セズ且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得

抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還

ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス  
第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戶長ノ與書ヲ受ケ證書ヲ添へ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ヲ添へ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人ナルコトヲ證スル戶長ノ與書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺言ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受ケルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他へ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添へ前條名前

○第一類○行政法○整理公債條例

書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ  
二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省  
ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得  
此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證據明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證  
書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店  
又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ  
前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出  
人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又  
ハ代理店ハ之カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持  
參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參  
人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲ス  
ヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保

證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書  
ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ失紛利札其支拂  
期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付  
シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參  
スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ權アルモノトス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店  
又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求ス  
ルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑒別シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付  
シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條第十八  
條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七  
條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本  
銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本人ヨリ納メシムルコトヲ得  
第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店  
ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○第二款 整理公債取扱順序

△明治十九年十月大藏省令第三十號

本年勅令第六十六號整理公債條例第三十二條ニ據リ其取扱順序左ノ通相定ム

整理公債取扱順序

第一章 募集及證書發行

第二條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル日限マテニ應募ノ金額並ニ價格ヲ取扱店日本銀行本支店又ハ代理店ニ申込ムヘシ  
整理公債條例第四條但書ニ據リ記名證書ノ交付ヲ望ムモノハ前項申込

ト同時ニ其旨ヲ取扱店ヘ申出ヘシ

第二條 整理公債ノ應募者ハ申込ノ時キ大藏大臣ノ指定スル割合ヲ以テ保證金ヲ拂込ムヘキモノトス但取扱店ハ本文保證金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第三條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル期中ニ保證金ヲ扣除シタル跡金ノ拂込ヲナスヘキモノトス但取扱店ハ本文拂込金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第四條 保證金及拂込金領收證書ヲ受取リ未タ全額ノ拂込ヲ了ラズシテ本人死亡スルトキハ相続人ヨリ該證書ノ繼受及跡金拂込ノ旨ヲ書面ニ認メ取扱店ヘ差出スヘシ

第五條 保證金及拂込金領收證書ハ各應募者ニ於テ其申込ヲナシタル取扱店ヘ抵當ニ差入ル、ノ外一切之ヲ授受賣買スルヲ得ス

第六條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ大藏大臣其種類ヲ定メ日本銀行本店ヘ交付スルモノトス

第七條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ取扱店ニ於テ保證金領收證書及第一期以下ノ拂込金領收證書ト引換ニ交付スヘシ但最後ノ拂込金ニ對シテハ別ニ領收證書ヲ交付セズ現金及他ノ領收證書ト共ニ本證書

○第一類 ○行政法 ○整理公債取扱順序

ト引換ユルコトヲ得

第八條 整理公債條例第七條ニ據リ應募額ヲ減少スルトキハ保證金ヲ還付シ之ニ對スル利子ハ日割ヲ以テ支拂フモノトス

第九條 整理公債募集ノ時應募者ハ現金ノ代リトシテ從前發行六分以上利付ノ公債證書ヲ以テ申込ヲナスコトヲ得但本文ノ場合ニ於テハ最後ノ拂込ヲ除キ其割合ハ大藏大臣ノ指定スル金額ニ超過スルモ妨ナシ  
前項公債證書ノ價格ハ新ニ交付スル整理公債證書ト共ニ額面ノ金額ヲ以テ計算シ其種類ニ依リ七分利付金祿公債六分利付金祿公債起業公債等ヲ云フハ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定メテ告示スルモノトス

第十條 前條ニ據リ從前發行ノ公債證書ヲ以テ申込ノ高ハ需要額ニ超過スルモ之ヲ減少セズ整理公債證書發行ノ日マテ現拂込ヲナシタル從前發行公債證書ニ對スル利子ヲ交付スヘキニ由リ保證金並ニ第一期以下ノ拂込金ニ相當スル利子ヲ付セサルモノトス

第十一條 整理公債證書發行ノ後整理公債條例第三十條ニ據リ從前發行六分以上利付ノ公債償還元金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノアルトキハ其旨ヲ取扱店ニ申出ヘシ但此場合ニ於テ交付スヘキ整理公債證書ハ額面ノ金額ヲ以テ計算スルモノトス

第十二條 整理公債ノ保證金領收證書若クハ拂込金領收證書ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ取扱店ニ證明シ更ニ領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第二章 利子支拂

第十三條 整理公債ノ利子支拂期日ハ毎年六月一日ヨリ同二十五日マテ十二月一日ヨリ同二十五日マテトス

第十四條 整理公債ノ利金ハ各取扱店ニ於テ利札引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ利札ハ記名證印ヲナシタル取扱店ニ限リ記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第十五條 整理公債證書ノ發行及當籤又ハ滿期償還ノ時拂渡スヘキ利子ニシテ利札ノ金額ニ滿タサルモノハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ徴シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第十六條 整理公債條例第二十條第二十五條ニ據リ利子ノ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ徴シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第三章 元金償還

第十七條 整理公債條例第九條但書ニ據リ該公債償還元額ノ告示アルト

○第一類○行政法○整理公債取扱順序

キハ日本銀行本店ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ抽籤ノ期日ヲ定メ官報及五種以上ノ新聞紙ヲ以テ三日以上之ヲ廣告スヘシ

第十八條 前條ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ速ニ前條同様ノ手續ヲ以テ當籤證書ノ金額種類記號番號枚數等ヲ廣告スヘシ  
各地取扱店ニ於テハ前項ノ廣告ニ據リ更ニ適宜ノ方法ヲ以テ其地方限リ同様ノ廣告ヲナスヘシ

第十九條 整理公債元金支拂ノ期日ハ各取扱店ニ於テ現金ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日間ヲ過ルヲ得ス

第二十條 整理公債ノ元金ハ各取扱店ニ於テ證書引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ元金ハ記名證印ヲナシタル取扱店ニ限リ記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第二十一條 整理公債證書ノ當籤後紛失ノ届出アルトキ無記名證書ハ整理公債條例第二十五條ニ準テ其届出ヨリ滿六箇年記名證書ハ順序第十九條ノ支拂期日後三十日ヲ經過シ尙發見セサレハ元利金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徵シ之レカ支拂ヲナスモノトス

第二十二條 整理公債條例第二十條ニ該當スル證書ニテ當籤ニ係ルモノ

ノ及當籤後同條ニ該當スルモノハ代證書ヲ交付セズ取扱店ニ於テ保證人連署ノ請求書及領收證書ヲ徵シ元利金ヲ拂渡スヘシ

第四章 證書取扱

第二十三條 整理公債條例第二十四條第二十五條ニ據リ代證書代利札ノ交付ヲ請求スルモノハ其旨ヲ取扱店ニ申出ツヘシ取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徵シ之ヲ引換ニ代證書代利札ヲ交付スルモノトス

條例第二十條ニ於テ消滅ノ證據明確ナラザルトキハ記名證書ハ條例第二十四條無記名證書ハ條例第二十五條ニ準テ取扱フモノトス  
第二十四條 整理公債證書ノ消滅紛失又ハ毀損汚染ニ由リ交付スヘキ代證書ニハ前證書ニ當時附屬セシ利札ヲ附シ其種類ハ前證書ノ種類ト異ナルコトヲ示スルハシ

第二十五條 記名證書ヲ交付スルコトニ於テ取扱店ニ於テ其證書ニ證印シ記名簿ヲ割印スルハシ

第二十六條 無記名證書ヲ記名ニ變換スルニ請求アルトキハ取扱店ニ於テ本證書ニ對シテ預リ證書ヲ交付シ本店ハ(支店代理店ハ本店ヲ經由シテ)證書ニ記名印ノ捺捺ヲ大藏省ニ請求シ證書並ニ記名紙ヲ受取ルコトヲ先ニ交付シタル預リ證書ト引換ニ本證書ヲ交付スヘシ

第一類 行政法 整理公債取扱順序

第二十七條 整理公債條例第十七條第十八條及第十九條ニ據リ記名證書ノ名前書換ノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ證印ヲ記名簿ニ割印シテ證書ヲ交付スヘシ

第二十八條 整理公債記名證書ノ所有者其取扱店ヲ變換セントスルトキハ其旨ヲ甲店ニ申出テ其證書ヲ乙店ニ差出シ記名簿ニ登錄ヲ請フヘシ  
第二十九條 甲(讓渡又ハ賣渡人)乙(讓受又ハ買受人)取扱店ヲ異ニスルモノニシテ整理公債記名證書ノ賣買讓渡ヲナシタルトキハ順序第二十七條及第二十八條ノ手續ヲナスヘシ

第三十條 記名證書所有者ハ戶長ノ保證ヲ經テ其印鑑ヲ取扱店ニ差出スヘシ但改印改姓名ヲナシタルトキモ亦本條ノ手續ヲナスモノトス  
第三十一條 整理公債條例第二十八條ニ掲グル手数料ノ高ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

### ○第三款 海軍公債證書條例

▲明治二十年二月勅令第一號

朕海軍公債證書條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第一號

明治十九年六月勅令第四十七號海軍公債證書條例中第五條第九條左ノ通改正ス

第五條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トシ其様式ハ大藏大臣之ヲ定ム但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第九條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル

### ○第四款 海軍公債利子拂渡期限

▲明治二十年三月大藏省令第三號

海軍公債ノ利子ハ毎年五月一日ヨリ同二十五日マテ十一月一日ヨリ同二十五日マテニ拂渡スモノトシ其他ノ取扱ハ明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル但第九條第十條第十一條第十三條第十七條及第十八條ハ此限ニアラズ

### ○第五款 公債證書元利金支拂順序

○第一類 ○行政法 ○海軍公債證書條例 ○海軍公債利子 三百七十七  
拂渡期限 ○公債證書元利金支拂順序

▲明治十九年七月大藏省訓令第三十號

諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序左ノ通相定ム

諸記名公債元利賦金支拂方取扱順序

第一條 管廳ハ諸記名公債利賦金支拂期節ニ臨ミ其支拂期前月一日沖繩縣ハ前々月ハノ越高即其日ノ所管高表ヲ左ノ第一號書式ノ如ク取調日本銀行本店ハ又債主一人毎ニ其支拂ヘキ利賦札ノ金高ヲ左ノ第二號書式ノ如ク取調左ノ期日迄ニ其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

一新公債

毎年五月十五日

一舊公債

毎年十一月十五日

一金札引換公債

毎年四月十五日

一金祿公債

毎年四月十五日

第二條 諸記名公債當籤又ハ滿期償還ノトキ其償還スヘキ合金高ヲ左ノ第三號書式ノ如ク取調日本銀行本店ハ又其債主ノ姓名證書ノ金高ヲ左ノ第四號書式ノ如ク取調其支拂ヲ爲スヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

第三條 來ル十一月一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金ヲ請求スルモノアル

トキハ第一條第二條ニ據リ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ報告スヘシ

第四條 諸記名公債證書ノ所有者ヲシテ來ル十月十五日迄ニ其所有證書

取扱店ヲ指定セシメ届出サシムハ又其姓名住所印鑑ヲ戶長ハ區長ハノ保證ヲ得テ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ差出サシムハ但改

姓名代換リ改印等ノトキ并ニ新ニ公債ヲ讓受買入レタルモノモ本文同

様其印鑑ヲ差出サシムヘシ

第五條 管廳ニ於テハ前條届出ニ依リ其取扱店毎ニ帳簿ヲ設クル乎又ハ

數店ヲ一帳簿トスルモ適宜タルヘシ

第六條 日本銀行代理店ハ一管廳下便宜ノ場所ニ之ヲ定メ同行ヨリ廣告

セシムヘシ

用紙美濃半折

(一管廳所轄ノ證書ヲ土地ノ狀況ニ依リ數店ニテ支拂トキハ一店毎ニ

其支拂額ヲ區別製表シテ報告スヘシ) (書式略ス)

▲明治十九年七月大藏省令第二十四號

北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ儀來

十一月一日ヨリ總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ之ヲ取扱ハシム但

其代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ

○第一類○行政法○公債證書元利金支拂順序



北海道廳 府縣

▲明治二十年二月大藏省訓令第十二號  
明治十九年七月當省訓令第三十號諸記名公債元利賦金仕拂方取扱順序中左  
ノ通改正追加ス

但第一號第二號第三號及第四號書式別紙ノ通改正ス

(別紙ハ國債局ヨリ送付ス)

第一條中「所管高表ヲ」ノ五字ヲ「所管高ニ據リ」ノ六字ニ改メ第一號書式  
ノ如ク取調ノ下ニ「其翌日ヨリ五日以内ニ發遣シ」ノ十二字及「左ノ期日  
迄ニ」ノ下ニ「發遣シ」ノ三字ヲ加フ又期日ノ「十五日」トアルヲ都テ「十日」  
ト改ム

第二條中 第三號書式ノ如ク取調ノ下ニ「當籤又ハ滿期償還ノ告示到達  
ノ日ヨリ七日以内ニ發遣シ」ノ二十五字及第四號書式ノ如ク取調ノ下  
ニ「告示到達ノ日ヨリ十日以内ニ發遣シ」ノ十六字ヲ加フ

第三條中 來ル十一月一日以前ニ係ル未渡ノ元利賦金ヲ請求スルモノア  
ルトキ」ノ下「又ハ第一條所管高第二條償還合金高ニ増減ヲ生スルトキ  
ハ」ノ二十六字ヲ加フ又第一條第二條ニ「ノ下」ヲ據リ「ノ二字ヲ」準シ「ノ二  
字ニ改メ又日本銀行本支店」ノ下「又ハ」ノ二字ヲ「及」ノ一字ニ改ム

○第六款 公債證書當籤及交換方

▲明治二十年五月大藏省訓令第三十三號 北海道廳 府縣

記名諸公債元金償還ノトキ當籤證書ノ種類及記號番號等ハ當籤ノ告示到  
達ノ日ヨリ十日以内ニ其證書所有者ヘ通知スヘシ

▲明治二十年三月大藏省告示第二十九號

一七分利付金庫公債ニ限リ整理公債ニ交換スルヲ得ヘキ旨客年十一月大  
藏省告示第百十一號ヲ以テ告示ニ及候處自今六分以上利付各種公債共  
所有者ノ望ニ由リ其交換ヲ請フコトヲ得

一前項ノ交換ヲ望ムモノハ其請求書ニ本證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ  
代理店ヘ申込ムヘシ

但舊證書ハ當省ヨリ新證書發行ノ月マテ新證書ハ其翌月ヨリ利子ヲ  
付スルモノトス

▲明治二十年四月大藏省告示第四十四號

本年三月當省告示第二十九號ニ據リ起業公債證書ヲ以テ整理公債證書ニ  
交換センコトヲ望ムモノアルトキハ該證書ノ裏面ニ第一國立銀行若シハ  
三井銀行本支店又ハ代理店ノ證印ヲ受ケ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店  
ヘ持參シ其交換ヲ請求スヘシ

○第一類 ○行政法 ○公債證書當籤及交換方

但起業公債ニ屬スル利子ハ本文ノ證印ヲ受クルノ時其月マテノ分ヲ月割ヲ以拂渡スモノトス

○第七款 大藏省證券條例

▲明治十九年八月大藏省令第二十六號  
▲明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○第廿四章 會計

○第一款 歲入歲出出納規則

▲明治二十年二月閣令第二號 各官廳  
▲明治十九年三月閣令第三號歲入歲出出納規則第五條中國庫金取扱所、現金仕拂所ハ本年四月一日ヨリ國庫金出納所ト改稱シ第十二條及第七十六條「現金支拂所」トアルヲ「金庫」ト改ム  
▲明治二十年五月閣令第十五號 各官廳  
▲明治十九年三月閣令第三號歲入歲出出納規則第三十七條但書中「第二部」ノ三字ヲ削除ス

▲明治十九年九月大藏省訓令第四十四號 北海道廳 府縣  
本年三月當省令第三號歲入歲出出納規則書式第六號歲入下戻計算書中ハ該下戻金實際支出ヲ要スヘキ場所(即チ金庫局又ハ大阪金庫局出張所若クハ國庫金取扱所(出張場ハ除ク)ヲ云)ヲ記載スヘシ

但歲入報告未濟ノ下戻ヲ請求スル場合ニ在テハ該下戻計算書ヘ其納入セシ金庫ヲ明記シ差出スヘシ  
▲明治十九年十月大藏省訓令第五十號 北海道廳 府縣  
歲入歲出出納規則第三十三條ニ據リ過誤納ニ係ル下戻ヲ要スルトキハ歲入報告濟ノ後之ヲ請求スヘシ

但至急ニ下戻ヲ要スルモノハ彙ニ納入シタル科目金額ヲ掲ケ其請求ニ先ツテ臨時歲入報告書ヲ差出スヘシ  
▲明治二十年三月大藏省令第四號

明治十九年三月當省令第三號歲入歲出出納規則書式中第四號第八號第九號第十號第十七號甲書式並ニ第二十一號乙書式從前第二十一號書式明治二十年ヨリ別冊ノ通り更正並ニ追加ス  
但別冊ハ當省ヨリ別ニ各官廳ヘ送附スヘシ (別冊略ス)  
▲明治二十年四月大藏省訓令第二十九號 北海道廳 府縣

○第一類○行政法○大藏省證券條例○歲入歲出出納規則 三百八十三

歳入歳出出納規則第七十條ニ據リ毎月差出シ候歳入報告書ハ總テ金庫ノ領收ヲ證シタル月分ヲ以毎月ノ歳入報告書ヲ整理スヘシ

但甲月ノ歳入報告差出後ニ甲月ニ屬スル領收ノ報告ヲ得タルトキハ甲月分ノ追加トシテ報告スヘシ

裁判所

▲明治十九年九月司法省訓令第二十一號  
本年三月大藏省令第三號歳入歳出出納規則書式第六號歳入下戻計算書中ニ該下戻金實際支出ヲ要スヘキ場所記載方ハ本月同省訓令第四四號ニ據ルヘシ

參照(歳入歳出出納規則ハ第三編第一類第二十六章第一款ニ掲出ス)

○第二款 歳入取扱順序

北海道廳 府縣

▲明治十九年十月大藏省訓令第四十九號

歳入取扱順序第三條及第二十四條ニ係ル徵稅額表及歳入報告書ノ訂正及追加スヘキモノアルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一歳入徵稅額表及歳入報告書ノ誤記訂正方ハ別紙書式ニ據リ開申スヘシ(但別紙ハ主計局ヨリ送付ス)

(別紙零ス)

一同上ノ追加報告ニ係ルモノハ第十八號及第二十號書式ニ據リ何年度第何號徵稅額表追加及何年度何月分第何號歳入報告書追加ト表記スヘシ

▲明治三十年二月大藏省令第二號之内

從前大藏省令中國庫金取扱所現金支拂所トアルハ本年四月一日ヨリ都テ國庫金出納所ト改ム

明治十九年大藏省令第四號歳入取扱順序中第六條第二十九條本年四月一日ヨリ左ノ通改正ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ會計主務官ニ命シ支拂切符ヲ郡區長ニ交付シ其支拂案内書ハ國庫金出納所ニ送付セシメ其旨大藏省ニ報告スヘシ

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ第六條ノ順序ニ據リ執行ス

▲明治二十年六月大藏省訓令第四十一號

北海道廳 府縣

歳入取扱順序第四條第二十四條及ヒ第二十五條歳入報告書ノ儀ハ國庫金出納所事務順序ニ據リ同所ヨリ送付スル歳入金毎月報告表ト照合ノ上送付スル儀ト心得ヘシ

▲明治十九年十月農商務省訓令第十六號

北海道廳 府縣

第二部歳入ノ内當省所管免飭料手数料鑛山借區稅徵收方ハ歳入取扱順序第十六條以下ニ進據シ其應ヨリ納額告知書ヲ發シ納人ヲシテ直ニ現金ヲ

○第一類○行政法○歳入取扱順序

金庫ニ納付セシムヘシ

▲明治十九年十月司法省訓令第二十四號

裁判所

歳入中過誤納ニ係リ下戻ヲ要スルトキハ本年大藏省訓令第五十號ノ手續  
ヲ爲ス儀ト心得可シ

参照(歳入取扱順序ハ第三編第一類第廿六章第二款ニ掲出ス)

### ○第三款 歳出取扱順序

▲明治二十年二月大藏省令第二號ノ内

明治十九年大藏省令第五號歳出取扱順序中第十六條第九十二條第九十三  
條本年四月一日ヨリ左ノ通改正ス

第十六條中「接續ノ處」ノ五字ヲ削除ス

第九十二條 金庫ハ既ニ支拂フタル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納告知

書ニ接續シタル返納書用紙ニ第十六號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ

記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ返納告

知書ハ返納人ヘ交付ス

第九十三條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副返納書ニ書式ノ如ク納

濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟年月日ノ傍ニ取扱主

任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ正書ニ依リテ  
帳簿ニ記入シ副書ハ即日告知書ヲ發シタル廳ヘ送付ス

明治十九年大藏省令第三號歳入歳出納規則書式中第七號ヲ廢シ第十六  
號ハ本年四月一日ヨリ左ノ書式ニ改ム (書式零ス)

▲明治二十年四月大藏省令第七號

明治十九年<sup>三</sup>大藏省令第五號歳出取扱順序第二章各條ヲ刪除ス

▲明治二十年六月大藏省訓令第三十七號 廳 府 縣

本年<sup>四</sup>大藏省令第七號ハ二十年度以降ノ歳出ニ適用スルモノトス

### ○第四款 國庫金出納所事務順序

▲明治二十年二月大藏省訓令第七號

廳 府 縣 日本銀行

國庫金出納所事務順序左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但各廳現金管守順序中ノ諸書式類モ別紙書式ノ通り相心得ヘシ

(書式ハ別ニ頒ツ) (書式零ス)

國庫金出納所事務順序

第一章 總則

第一條 國庫金出納所ハ歳入歳出納規則、歳入取扱順序、歳出取扱順序

○第一類 ○行政法 ○歳出取扱順序 ○國庫金出納所事務順序 三百八十七

及管守順序ニ據リ其出納ヲ取扱フ所トス

第二條 國庫金出納本所及出納支所ノ位置區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 國庫金出納本所及其出納支所ノ名稱ハ各其地名ヲ冠シ某地國庫金出納所又ハ某地國庫金出納所某地出納支所ト稱ス

第四條 國庫金出納所ノ事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルモノトス

第五條 國庫金出納所ニ於テ執行スル事務ヲ分テ左ノ三部トス

第一 歳入部

第二 歳出部

第三 雜部

第六條 國庫金出納所ノ印章(即金庫印)ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 印面 方五分

一 文字 某地國庫金出納所

又ハ某地國庫金出納所某地出納支所

一 字體 楷書

第七條 國庫金出納所ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルカ又ハ納期ニ際シ事務輻湊スル如キ場合ヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第八條 國庫金出納所ニ於テ領收スル所ノ貨幣ハ納者ノ目前ニ於テ鑑査スヘシ若シ此際偽造變造ノ貨幣ヲ發見スルハ明治九年太政官第五十七號布告ニ照シ之ヲ處分スルモノトス

第九條 出納金取扱上ニ係ル電信ハ總テ官報ヲ以テ發スルモノトス

第十條 國庫金出納所ノ印章及事務取扱主任ノ姓名印章ハ出納局金庫局並ニ出納金ニ關係アル各官衙ニ差出置クモノトス

第十一條 出納局長次長金庫局長次長及各廳會計主務官ノ印章ハ其關係アル國庫金出納所ニ送付スルモノトス

第十二條 關稅及稅關諸收入ニ係ル取扱順序ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第二章 歳入部

第十三條 國庫金出納所ニ於テハ納者ヨリ徵稅令書又ハ納額告知書ヲ添ヘ現金ヲ納付スレハ之ヲ領收シ該令書告知書及正副上納書ニ式ノ如ク

領收及納濟ノ年月日ヲ記入シ取扱主任者及金庫ノ印ヲ捺シ其令書告知書ハ之ヲ納者ニ還付シ上納正書ハ國庫金出納所ニ留置キ上納副書ハ令書若クハ告知書ヲ發シタル廳ニ送付スルモノトス

第十四條 國庫金出納所ハ現金取扱ノ各廳主任官ヨリ納付書ニ現金ヲ添ヘ納付スレハ之ヲ領收シ該納付書正副ニ式ノ如ク領收及納濟ノ年月

日ヲ記入シ取扱主任及金庫ノ印ヲ捺シ副書ハ國庫金出納所ニ留置正書ハ該主任官へ還付スルモノトス

第十五條 國庫金出納所ニ於テハ納者ヨリ分納書ヲ添へ現金ヲ納付スレハ之ヲ領收シ該徵稅令書若クハ納額告知書ノ裏面ニ式ノ如ク分納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ納者ニ還付ス但分納書ノ取扱ハ第十三條上納書ノ取扱ニ同シ

第十六條 前條ノ分納ヲ爲シタル未完納ニ至ルトキ國庫金出納所ニ於テハ式ノ如ク該徵稅令書若クハ納額告知書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ上納書ノ取扱ハ第十三條ニ同シ

第十七條 第十五條ノ分納ヲナシタル未完納ニ至リ難キトキ其旨ヲ納者ヨリ國庫金出納所へ報告シ來ルトキハ式ノ如ク該徵稅令書若クハ納額告知書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之レヲ表面ニ移記シ其次行ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ該令書若クハ告知書ハ之ヲ納者ニ還付シ不納報告正書ハ國庫金出納所ニ留置其副書ハ令書若クハ告知書ヲ發シタル廳へ送付スルモノトス

第十八條 不納處分中上納ノ税金ニ分納書ヲ添へ納付スルトキハ國庫金

出納所ハ式ノ如ク領收ノ證箋ヲ製シ徵稅令書ノ下端ニ貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ納者ニ還付シ其分納書ノ取扱方ハ第十五條ニ同シ

第十九條 第二部歳入金ニシテ甲地ノ國庫金出納所へ現金ヲ預ケ入其預リ證書ヲ以テ乙地ノ官衙へ納付ヲ爲ストキ甲地ノ國庫金出納所ニ於テハ第五十六條ノ順序ニ據リ雜部金へ受入ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十條 前條預リ證書ニ納付書ヲ添へ主管廳ヨリ乙地ノ國庫金出納所へ納付アルトキハ之レヲ受入證書トシテ領收シ第十四條ノ順序ニ據リ歳入部へ受入ノ手續ヲ爲スモノトス但金庫局預リ證書ヲ以テ納付アルトキノ取扱方モ總テ本文ニ同シ

第二十一條 乙地ノ國庫金出納所ニ於テ前條ノ預リ證書ヲ以テ歳入部へ受入タルモノハ送金ノ傳達ヲ俟タス即日該證書ヲ甲地ノ國庫金出納所へ送付スルモノトス但金庫局ノ預リ證書ヲ以テ受入レタルモノハ即同局へノ送金トシテ之レヲ日本銀行へ送付シ同銀行ヨリ金庫局へ納付スルモノトス

第二十二條 甲地ノ國庫金出納所ハ發シ預リ證書ヲ乙地國庫金出納所ヨリ領受セハ之レニ對シ第三十二條ノ送金手續ニ據リ領收證書ヲ差出シ而シテ雜部金ヲ決算シ國庫科目へ受入ノ手續ヲナスモノトス

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

第二十三條 年度内ニ係ル各廳既納ノ歳入下戻金ノ支拂ハ歳出金支拂ノ

例ニ據ルモノトス

第二十四條 國庫金出納所ニ於テ領收スル所ノ現金ハ同所ノ支拂基ニ充ツルモノトス但時宜ニ寄リ金庫局又ハ他ノ出納所ヘ回送セシムルコトアルヘシ

第二十五條 前條收入金ヲ以テ支拂基ニ充テ尙不足ナルキハ金庫局及其出張所若クハ他ノ國庫金出納所ヨリ送金ヲサシムルモノトス

第二十六條 前條ノ場合ニ於テ金庫本局ヨリ國庫金出納所ヘ現金ヲ送付スルトキハ日本銀行ヘ交付シテ之ヲ送付セシム但金庫局出張所ノ現金ヲ交付スル場合ニ於テハ金庫本局ニ於テ拂出切符ヲ發シ之ヲ日本銀行ヘ交付スルモノトス

第二十七條 國庫金出納所ヨリ金庫局又ハ他ノ出納所ヘ送金セシムルトキハ出納局長ヨリ日本銀行ヘ通達ス同銀行ハ即時之ヲ國庫金出納所ヘ電信ヲ以テ傳達スルモノトス(電線架設ナキ地方ハ最寄電信分局迄通シトス) 信シ夫レヨリ郵便ヲ以テ傳達スルモノトス

第二十八條 前條ノ傳達ニ對シ金庫局ヘ送金ハ爲替ヲ以テ送付スルモノトシ豫メ郵便到達及猶豫ノ日限ヲ量リ納付期日ヲ定メ日本銀行本支

店ニ於テ完納スルモノトス

各地國庫金出納所ヘ送金ハ參着拂ノ爲替ヲ以テ送付スルモノトシ其發送期限ハ送金ノ傳達ヲ受ケタル翌日迄トス

第二十九條 特ニ現金ノ遞送ヲサシムルハ送金ノ傳達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ發送スヘキモノトス

第三十條 前條ノ送金ハ到着後其翌日迄ニ受授ヲ了スルモノトス但現送途中陸路事故アリテ一日十里詰ノ割合ヨリ延着セシキハ其地戶長又ハ通運會社ノ書面ヲ以テ之レカ證明ヲ爲スモノトス

第三十一條 第二十八條第二十九條ニ據リ國庫金出納所ニ於テ回送金ヲ發送シタルキハ即日之ヲ日本銀行ヘ電報シ該銀行ハ之レニ據テ集計表ヲ製シ翌日出納局ヘ報告スルモノトス

第三十二條 第二十六條及第二十八條ノ送金ヲ受タル國庫金出納所ニ於テハ之ヲ國庫ヨリ受入金トシテ計算スルモノトス

第二十八條ニ據リ國庫金出納所ヨリ送金ヲ受タルキハ其發送先ヘ對シ第一號書式ノ領收證書ヲ差出スモノトス

第二十六條ニ據リ金庫局ヨリ現金又ハ支拂切符ヲ以テ日本銀行ヘ交付セシトキ該銀行ニ於テハ領收ノ證書ヲ差出スモノトス

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

第二十八條ニ據リ日本銀行ヨリ金庫局ニ納金セシトキハ同局ヨリ領收ノ證ヲ交付スルモノトス

第三章 歳出部

第三十三條 國庫金出納所ニ於テ支出スヘキ經費金額ハ大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ支出ノ命令ヲ爲ス日本銀行ニ於テハ之ヲ該出納所ヘ傳達スルモノトス但支出命令ニ要電信ノ符號アルモノハ即刻電信ヲ以テ傳達ス

第三十四條 國庫金出納所ニ於テハ前條ノ支出命令額ヲ基トシ各廳會計主務官ヨリ支拂ノ案内書ヲ得タルキハ該支出命令額ニ對比シ支拂ノ準備ヲ爲スモノトス但案内書ノ金額支出命令額ニ超過スルキハ即時其案内書ヲ返付シテ支拂難キ旨ヲ通知ス

第三十五條 第三十三條ノ支出命令額ニ對シ其月中ニ各廳會計主務官ヨリ送付スル處ノ支拂案内書ノ金額ト差引殘額アルキハ之レヲ翌月ノ支出命令額ニ併算スルモノトス

第三十六條 國庫金出納所ニ於テハ各廳會計主務官ノ支拂切符ヲ以テ現金ノ支拂ヲ請求スルモノアルキハ第三十四條ノ案内書ニ對照シ其金額ヲ支拂フモノトス但現金支拂濟ノ支拂切符及案内書ノ表面ニハ支拂濟ノ印ヲ捺ス

第三十七條 國庫金出納所ハ前條ノ支拂切符成規ニ違フキ若クハ案内書ニ符合セサルキハ直ニ其事由ヲ支拂切符持參者ニ告ケ其住所姓名ヲ尋問シ該切符ノ金員番號記名者ノ姓名ヲ記載シタル預リ證書ヲ與ヘ該切符ヲ留置キ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該切符面記名ノ會計主務官ニ發スルモノトス但支拂期限ヲ經過シタル支拂切符ハ其支拂ヲ斷絶シ支拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參者ヘ告クヘシ

第三十八條 前條照會ニ據リ各廳會計主務官ヨリ該切符ノ正當ナルキ保證シ其保證書ヲ送付セシキハ國庫金出納所ハ曩ノ預リ證書ヲ引上ケ現金ノ支拂ヲ爲スヘシ若シ各廳會計主務官ニ於テ該切符ヲ其持參者ニ返付セシコトヲ請求セシキハ預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付スルモノトス

第三十九條 歳入歳出出納規則第五十九條ニ據リ國庫金出納所ヨリ各廳ヘ直ニ現金ヲ交付スルトキハ第三十三條ノ支出命令ヲ得テ各廳會計主務官ノ領收證書引換ニ現金ヲ交付スルモノトス

第四十條 國庫金出納所ニ於テ陸軍歸休兵豫備役後備軍艦員兵員臨時召集旅費支拂ヲ要スルキハ特ニ出納局長ヨリ電信ヲ以テ各出納所ヘ大藏大臣ノ支出命令ヲ傳達シ其支拂ヲ爲サシムルモノトス  
但本文支拂ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ據ル

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序



第四十一條 前條ノ場合ニ於テハ支出命令ヲ發スルト同時ニ其旨日本銀行へ通達スルモノトス

第四十二條 各廳ニ於テ會計主務官ノ在勤セサル小支部局臨時ノ經費又ハ官吏出張先へ經費金ヲ送付スル爲メ該支拂切符へ其旨ヲ裏書シ遞送方ヲ請求スルトキハ國庫金出納所ハ支拂金ノ手續ニ依リ之ヲ拂出シ送金手形又ハ郵便爲換券ニ換へ該廳へ交付スルモノトス但現金ヲ遞送スルキハ第二號書式ノ金員遞送證ヲ交付シ追テ受取人ノ領收證ト引換フルモノトス

第四十三條 前條但書ニ據リ現金遞送ヲナストキハ郵便金子入書狀又ハ内國通運會社便ヲ以テ遞送スルモノトス但本文兩便共ニ不便ノ場合ニアツテハ別仕立ヲ以テ之ヲ現送シ執行ノ後日本銀行へ報告スヘシ

第四十四條 國庫金出納所ニ於テハ返納者ヨリ返納告知書ヲ添へ現金ヲ納付スレハ之レヲ領收シ該告知書及正副返納書へ式ノ如ク領收及納濟ノ年月日ヲ記入シ取扱主任及金庫ノ印ヲ捺シ其告知書ハ之ヲ返納者へ還付シ返納正書ハ國庫金出納所ニ留置返納副書ハ告知書ヲ發シタル廳へ送付シ其返納額ハ第三十四條ノ支拂案内書ノ金額及第三十六條ノ支拂濟金額ヲ減スルモノトス

第四十五條 土地ヲ異ニスル各廳へ前條ノ返納金ヲ納付スルカ爲メ國庫金出納所へ現金ヲ納ルトキハ第五十六條ノ手續ニ據リ取扱フモノトス

第四十六條 前條預リ證書ニ返納告知書ヲ添へ返納者ヨリ其廳所在地ノ國庫金出納所へ返納スルキハ受入證書トシテ之ヲ領收シ第四十四條ノ順序ニ據リ取扱フモノトス但本文預リ證書處分方ハ第二十一條第二十二條ニ準シ取扱フモノトス

第四十七條 金庫局ニ於テ支拂フヘキモノヲ各地國庫金出納所ニ於テ支拂ハントスルトキハ金庫局ハ第三號書式ノ送納金振換證書ヲ調製シ其甲號ハ各廳へ交付シ其乙號ハ出納局へ送付シ同局ハ之レニ送納令達ヲ付記シテ日本銀行へ交付ス日本銀行ハ之レヲ該國庫金出納所へ傳達スルモノトス

第四十八條 前條甲號證書ヲ受取人ヨリ該出納所へ持參シ現金ヲ請求スルキハ之レヲ乙號證書ニ對照シ甲號切符ニ引換現金ヲ交付スルモノトス

第四十九條 第四十七條振替金至急ヲ要シ乙號證書ニ電信渡ノ捺印アルモノハ出納局ハ直ニ電話ヲ以テ之ヲ日本銀行へ通達ス該銀行ハ即刻國

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

庫金出納所ニ電信ヲ以テ傳達スルモノトス但本文ノ場合ニ在テハ甲號  
證書ハ電信ニテ渡濟ノ旨ヲ記シ交付スルモノトス  
乙號證書ハ出納局ニ於テ電話通達濟ノ印ヲ捺シ即日之ヲ日本銀行ニ送  
付スルモノトス

第五十條 國庫金出納所ニ於テハ前條電信ヲ得正當受取人ヨリ現金ヲ請  
求スルトキハ其請求者ヨリ請取人ハ宛タル電信文ヲ閱覽其金額姓名等  
ヲ日本銀行ノ電信ニ對查シ符合セハ受取人ヨリ領收證書ヲ徵シテ現金  
ヲ交付シ其旨直ニ日本銀行ハ電報ルモノトス但追テ正當受取人ヨリ  
甲號證書ヲ得テ本文領收證書ハ返戻スヘシ

第五十一條 第四十七條ノ振換金ヲシテ國庫金出納所ヨリ其請取先ハ遞  
送セシムルハ乙號證書ハ其遞送先等詳細記載シ之レヲ交付ス國庫金  
出納所ハ便宜爲換又ハ現金遞送ヲナシ甲號證書ト引換ユルモノトス但  
現金遞送ノ場合ニ在テハ第四十三條ニ準スルモノトス

第五十二條 支拂切符ノ支拂期限ヲ經過シテ尙支拂ノ請求ナキモノハ豫  
ネテ受入レタル案内書ヲ取纏メ其送付シタル廳へ還付ス但會計主務官  
ノ請求アルトキハ其都度案内書ヲ還付スルモノトス  
第五十三條 歲出支拂濟ノ支拂切符及案内書ハ一箇月分ヲ取纏メ帳簿上

ノ支拂額ニ照查シ之ニ第四號書式ノ仕譯書ヲ添ヘ國庫金出納所ニ保存  
スルモノトス

第四章 雜部

第五十四條 國庫金出納所ニ於テ管守順序ニ依リ取扱フヘキ各廳歲入出  
外雜部金ハ各廳ノ請求ニ據リ其收入支出ヲ執行スルモノトス

第五十五條 各廳ヨリ現金ニ雜部納付書ヲ添ヘ送付スルトキハ國庫金出  
納所ハ之ヲ領收シ該納付書ニ接續セシ領收證書用紙ニ第五號書式ノ如  
ク領收セシ金額及年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ領收證書ハ各廳へ送  
付シ納付書ハ國庫金出納所ニ留置モノトス

第五十六條 各廳へノ納金ヲ其納人ヨリ直ニ國庫金出納所へ納付スルハ  
ハ該出納所ハ預リ金トシテ之ヲ領收シ第六號書式ノ預リ證書ヲ調製シ  
其甲號ハ納人へ交付シ其乙號ハ案内トシテ納先各廳へ送付スルモノト  
ス

第五十七條 前條預リ證書ニ納付書ヲ添ヘ各廳ヨリ歲入金トシテ納付ヲ  
爲スルハ國庫金出納所ハ第十四條ノ順序ニ據リ取扱ヒ雜部金ヨリ歲入  
へ振換ノ計算ヲ爲スモノトス

第五十八條 第五十六條ノ納人へ交付セシ預リ證書ヲ以テ各廳ヨリ歲入

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

出外雜部金トシテ納付スルトキハ第五十五條ノ順序ニ據リ之ヲ領收ス  
ヘシ

第五十九條 各廳ニ於テ雜部金ノ支拂ヲ要スルキハ支拂切符ヲ調製  
ノ支拂切符ニハ「雜部」ノ印  
ヲ捺シ常用歳出金ト區分ス  
該切符ハ受取人ニ交付シ其案内書ハ國庫  
金出納所ヘ送付ス而シテ受取人ヨリ支拂切符ヲ以テ現金ノ支拂ヲ請求  
スルキハ該出納所ハ第三十六條第三十七條第三十八條ノ順序ニ據リ取  
扱フモノトス

官報買下代乘馬飼養料郵便爲換過超金等ノ如キ第五十五條ノ領收證書  
ヲ以テ主管廳ヘ納付スルモノハ支拂切符ヲ用ヒス原領收證書ヲ以テ歳  
入金又ハ金庫局ノ現金ト振替勘定ヲナスコトアリ此場合ニ於テハ出納局  
ヨリ日本銀行ヘ通知シ同行ヨリ國庫金出納所ヘ通達シテ雜部金ノ決算  
ヲナスモノトス

第六十條 前條案内書ノ金額第五十五條若シハ第六十三條ノ順序ヲ以テ  
領收セシ金額ニ超過スルキハ即時案内書ヲ返付シテ支拂難キ旨ヲ通知  
ス

第六十一條 第五十六條ノ納人ヨリ直ニ領收セシ現金ノ返戻ヲ要スルコ  
トアルキハ各廳ヨリ國庫金出納所ニ對シ下戻通知書ヲ發ス而シテ納人

兼テ預リ證書ヲ以テ現金ノ下戻ヲ請求スルキハ該通知書ニ照查シ預リ  
證書引換ニ現金ヲ交付スルモノトス

第六十二條 各廳ノ請求ニ據リ金庫局ニ領收セシ雜部ノ現金ヲ各地國庫  
金出納所ニ於テ支拂ヲ爲シムルキハ金庫局ヨリ送納金振替證書ヲ各  
廳ヘ交付ス其取扱ハ第四十七條ノ順序ニ據ル

第六十三條 國庫金出納所ハ各廳ヨリ前條送納金振替證書ニ納付書ヲ添  
ヘ送付スルハ第五十五條ノ順序ニ據リ之ヲ領收スルモノトス

第六十四條 前條ノ手續ニ依リ國庫金出納所ニ於テ受入レタル雜部金ハ  
預ケ先各廳ノ請求ニ據リ第五十九條ノ順序ヲ以テ漸次支拂フモノトス

第六十五條 各廳ニ於テ其廳所在地外ヘ雜部金ノ遞送ヲ要求スルキハ國  
庫金出納所ハ第四十二條第四十三條ノ順序ニ據リ取扱フモノトス

第六十六條 雜部金支拂濟ノ支拂切符及案内書ハ各廳各科目毎ニ一箇月  
分ヲ取纏メ帳簿上ノ支拂額ニ照查シ之ヲ國庫金出納所ニ保存シ置クモ  
ノトス

第五章 計算報告

第六十七條 國庫金出納所ニ於テ取扱フ出納金原簿勘定科目ヲ定ムルコ  
ト左列如シ

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

原簿貸方科目

六十年度歳入

雜部

國庫

原簿借方科目

現金

何年度歳出

回送

第六十八條 國庫金出納本所ニ於テ使用スヘキ帳簿左ノ如シ

(一) 日記簿

(二) 原簿

(三) 歳入金明細簿

(四) 歳出金明細簿

(五) 歳入金科目内譯簿

(六) 歳出金科目内譯簿

(七) 雜部金内譯簿

(八) 現金種類別簿

(九) 支出命令整理簿

(十) 支拂案内書差引簿

(十一) 回送内譯簿

(十二) 電信報告記入簿

第六十九條 出納支所ニ於テ使用スヘキ帳簿左ノ如シ

(一) 現金受拂簿

(二) 歳入金明細簿

(三) 歳出金明細簿

(四) 雜部金内譯簿

(五) 支出命令整理簿

(六) 支拂案内書差引簿

(七) 回送内譯簿

第七十條 日記簿ハ原簿勘定科目ニ隨ヒ歳入金明細簿及歳出金明細簿若

クハ雜部金明細簿各證書ニ據リ記載スルモノトス其書式第七號ノ如シ

但出納支所ノ收入支出ハ其報告表出納本所ヘ到着ノ日ニ於テ之ヲ記入

シ實際出納支所ニ於テ收支シタル日ヲ摘要ニ記載スルモノトス

第七十二條 原簿ハ日記簿ヨリ轉記スルモノトス其書式第八號ノ如シ

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

第七十二條 歲入金明細簿及歲出金明細簿ハ歲入金歲出金明細内譯ヲ記載スルモノトス其書式第九號ノ如シ

第七十三條 歲入金科目内譯簿及歲出金科目内譯簿ハ大藏省ヨリ達シタル歲入歲出科目表ニ據リ款項目ニ區分シ歲入金歲出金明細簿ヘ記入シテ了セシ證票ニ據リ其金額ヲ集計登記スルモノトス其書式第十號ノ如シ

第七十四條 雜部金内譯簿ハ第五十四條ノ各部類ヲ區分シ各證票ニ據リ其金額ヲ集計登記スルモノトス其書式第十一號ノ如シ

第七十五條 現金種類別簿ハ各部ノ金貨、壹圓銀貨、補助銀貨、兌換銀券、紙幣銅貨受入證書ノ六種類ニ區分シ其收支ヲ登記スルモノトス其書式第十二號ノ如シ

第七十六條 支出命令整理簿ハ支出命令額ヲ基トシ支拂案内書ニ據リ漸次扣除差引ヲナスモノトス其書式第十三號ノ如シ

第七十七條 支拂案内書差引簿ハ支拂案内書ノ金額ヲ基トシ現金支拂濟ノ支拂切符ニ據リ漸次扣除シ未拂額ヲ整理スルモノトス其書式第十四號ノ如シ

第七十八條 同送内譯簿ハ各證票ニ據リ其金額ヲ記載スルモノトス其書式第十五號ノ如シ

第七十九條 電信報告記入簿ハ歲入歲出及雜部金等ヲ區分シ各證票ニ據リ其金額ヲ登記スルモノトス其書式第十六號ノ如シ

第八十條 出納支所ノ現金受拂簿ハ歲入金歲出金明細簿及各證票ニ據リ記載スルモノトス其書式第十七號ノ如シ

第八十一條 出納支所ノ歲入金明細簿歲出金明細簿雜部金内譯簿支出命令整理簿及支拂案内書差引簿同送内譯簿記載方ハ國庫金出納本所ノ式ニ同シ

第八十二條 國庫金出納本所ニ於テハ第六十八條ノ諸帳簿ニ據リ左ノ計表ヲ調製シ報告式ニ據リ日本銀行ヘ差出シ同銀行ハ之ヲ大藏省ヘ差出スモノトス

(一) 歲入科目内譯表

(二) 歲出科目内譯表

(三) 同送及振換拂報告表

(四) 雜部金收支内譯表

(五) 歲入歲出科目内譯附錄表

(六) 雜部金收支内譯附錄表

(七) 現金納拂差引表

(八) 支拂案内書差引表  
 (九) 歳入金毎月報告表  
 (十) 雜部金出納報告表  
 第八十三條 出納支所ニ於テハ第六十九條ノ諸帳簿ニ據リ左ノ計表ヲ調製シ其出納本所ヘ送付スルモノトス  
 (一) 歳入科目内譯表  
 (二) 歳出科目内譯表  
 (三) 回送及振換拂報告表  
 (四) 雜部金收支内譯表  
 (五) 支拂案内書差引表  
 (六) 雜部金出納報告表  
 第八十四條 歳入歳出科目内譯表ハ歳入金科目内譯簿及歳出金科目内譯簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第十八號ノ如シ  
 第八十五條 回送及振換拂報告表ハ原簿(出納支所ニ於テ)ニ據リ調製スルモノトス其書式第十九號ノ如シ  
 第八十六條 雜部金收支内譯表ハ雜部金内譯簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十號ノ如シ

第八十七條 歳入歳出科目内譯附錄表及雜部金收支内譯附錄表ハ電信報告記入簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十一號ノ如シ  
 第八十八條 現金納拂差引表ハ現金種類別簿ニ據リ二通ヲ調製シ日本銀行ヘ送付シ其一通ハ該銀行ヘ留置其一通ハ大藏省ヘ送付スルモノトス其書式第二十二號ノ如シ  
 第八十九條 支拂案内書差引表ハ支拂案内書差引簿ニ據リ調製スルモノトス其書式第二十三號ノ如シ  
 第九十條 歳入金毎月報告表ハ歳入科目内譯簿ニ據リ二通ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ一通ハ該廳收支命令官ヘ送付シ一通ハ日本銀行ヘ送付シ該銀行ハ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス其書式第二十四號ノ如シ但出納支所ノ收入報告モ併算スルモノトス  
 第九十一條 出納支所ニ於テ收入セシ金額翌月ニ至リ國庫金出納本所ヘ報告表到着セシ此金額ニ限リ前月ノ追加トシテ別ニ報告表ヲ製シ送付スルモノトス  
 第九十二條 雜部金出納報告表ハ雜部金内譯簿ニ據リ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該廳會計主務官ヘ送付スルモノトス其書式第二十五號ノ如シ  
 第九十三條 國庫金出納所ニ於テハ原簿日計表ヲ調製シ之ヲ備ヘ置クモ

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

ノトス其書式第二十六號ノ如シ  
第九十三條 國庫金出納所ニ於テ其收入支出セシ金額ヲ報告式ニ依リ日本銀行ヘ電報シ日本銀行ハ集計表ヲ製シ翌日(電報到着セシ)之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス

第九十四條 國庫金出納所及其出納支所ニ於テ使用スル帳簿ハ會計年度毎ニ之ヲ設置スルモノトス  
第九十五條 諸帳簿ニ記載サテシタル各證票ニハ記帳濟ノ年月日ヲ記載シ保存スルモノトス

▲明治二十年六月大藏省訓令第四十二號 應府縣 日本銀行 國庫金出納所事務順序及書式中左ノ通り改正シ來ル七月一日ヨリ之ヲ施行ス

但書式ハ別ニ頒ツ

(書式略ス)

- 一 第八十二條第五項第六項第九項及第十項ヲ削除シ更ニ左ノ二項ヲ加フ
- (五) 歲入歲出電信報告照查表
- (六) 雜部金收支電信報告照查表
- 一 第八十七條第九十條及第九十二條ヲ左ノ如ク改メ

第八十七條 歲入歲出電信報告照查表及雜部金收支電信報告照查

表ハ電信報告記入簿ニヨリ調製スルモノトス其書式別紙第三十七號(國庫金出納所事務順序書式追加)ノ如シ

第九十條 國庫金出納所ニ於テハ歲入金科目内譯簿ニ據リ歲入金  
毎月報告表ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該廳收支命令官ヘ送付スルモノトス其書式第二十四號ノ如シ

出納支所ニ於テ收入セシ金額翌月ニ至リ本所ヘ報告表到着セシ  
分ハ前月ノ追加トシテ別ニ報告表ヲ製シ送付スルモノトス  
第九十一條 國庫金出納所ニ於テハ雜部金内譯簿ニ據リ雜部金出納報告表ヲ調製シ翌月初旬ニ其地ヲ發シ該廳會計主務官ヘ送付スルモノトス其書式第二十五號ノ如シ

但シ本文報告表ハ各廳會計主務官ヨリ調査濟差違ヲキ旨ノ回報ヲ得テ其報告表ノ寫一通ヲ日本銀行ヘ差出シ同銀行ヨリ大藏省ヘ差出スモノトス

- 一 書式第十六號ヲ別紙ノ如ク改メ
- 一 書式第二十二號ヲ刪除ス
- 一 書式第十三號第十四號及第二十三號上段欄外記載ノ樣式申「第二部

○第一類○行政法○國庫金出納所事務順序

歲出恩給(又ハ第二部歲出神社費)(第二部歲出何廳主管經費何府縣支  
出)トアルヲ左ノ如ク改ム

第一節 歲出  
其仕拂切符ヲ發セシ  
何廳(廳名ヲ記載スルハ) 支出  
又ハ何廳(何廳名ヲ記載スルハ) 支出  
又ハ何廳(何廳名ヲ記載スルハ) 支出  
又ハ何廳(何廳名ヲ記載スルハ) 支出

一書式第十八號戊第二十四號甲上段欄外右側ニ「某郡(區)役所分」ノ墨書  
六字其下段「內國稅」限リ郡(區)役所毎ニ別表ニ調製シテ報告スルモ  
ノトス」ノ朱書説明二十七字ヲ追加ス

一書式第十八號己第二十四號乙ノ下段ニ「第二部歲入ノ內郡區役所ニ  
テ納領告知書ヲ發シタルモノアルトキハ第一部歲入科目內譯表ニ準  
シ其上段欄外ニ某郡(區)役所分ト記載シ一郡區役所毎ニ別表ニ調製  
スルモノトス」ノ朱書説明七十七字ヲ追加ス

一第十號甲書式摘要欄內「出納本所ニテ收入」並ニ「何地出納支所ニテ  
收入」ノ末文へ「何郡區役所分」ノ六字ヲ追加ス  
一書式第二十四號乙中「貸下料」免許料「拂下代」ノ三項上段へ各其款名  
ヲ追加ス

▲明治二十年二月司法省訓令第九號 裁判所  
本人大藏省訓令第七號ハ裁判所ニ於テモ亦適用スル儀ト心得可シ

### 第五款 國庫金出納所位置區域

▲明治二十年二月大藏省告示第十八號  
國庫金出納本所及出納支所位置並ニ出納區域別冊ノ通相定ム

凡例

○第二部歲入ニシテ其廳ノ便宜ニ因リ出納區域外ノ金庫へ納入セシムル  
ヲ必要トナストキハ假令出納區域外ト雖モ該納領告知書ニ記載シアル  
金庫ニ於テ領收ヲ取扱フモノトス (本文ノ如キハ各廳ニ於テ便宜ヲ量  
ニ限リ豫メ當省ノ認可ヲ受ケタルモノ  
ニ限ル)

○歲出ノ內各廳ニ於テ支拂ノ便宜ニ因リ出納區域外ノ金庫ニテ支拂ヲナ  
サシムルコトアルトキハ假令出納區域外ト雖モ該支拂切符ニ記載シア  
ル金庫ニ於テ支拂ヲ取扱フモノトス (本文ノ如キハ各廳ニ於テ月額仕  
掲ケ豫メ當省ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル) 譯書へ其支拂ヲ要スルハ金庫ヲ

○第二部歲入ニシテ在東京各廳ヨリ納入スルモノ及在東京各廳ノ歲出ハ  
金庫局ニ於テ直ニ其出納ヲ取扱フモノトス



○第二部歳入ニシテ在大阪各廳ヨリ納入スルモノ及在大阪各廳ノ歳出ハ  
 金庫局大阪出張所ヨリ於テ直ニ其出納ヲ取扱フモノトス  
 ○別表出納區域欄内郡區名ノ下出納支所名記載ナキ分ハ該本所ニ於テ直  
 ニ其出納ヲ取扱フモノトス  
 ▲明治二十年二月大藏省訓令第六號 應 府 縣  
 從前當省訓令中國庫金取扱所若シハ現金支拂所トアルハ本年四月一日ヨ  
 リ都テ國庫金出納所ト改ム  
 ▲明治二十年二月大藏省告示第十三號  
 從前當省告示中國庫金取扱所若シハ現金支拂所トアルハ本年四月一日ヨ  
 リ都テ國庫金出納所ト改ム  
 ▲明治二十年四月大藏省告示第五十壹號  
 本年第十八號告示國庫金出納本所及出納支所位置並ニ出納區域中北海道  
 廳ニ係ル分ハ本年六月一日ヨリ鹿兒島縣ニ係ル分ハ本年七月一日ヨリ左  
 ノ通改定ス

北海道國庫金 廳府縣出納所	置	出納區域	支所	位	置
		函館區			

函 館									
渡島國函館區末廣町									
渡島國		後志國		膽振國		膽振國		沙流郡	
龜田郡	上磯郡	松前郡	檜山郡	兩志郡	茅部郡	山越郡	久遠郡	奧尻郡	太櫛郡
渡島國龜田郡龜田村	渡島國龜田郡龜田村	同國松前郡福山小松前町	同國檜山郡江刺中歌町	同國檜山郡江刺中歌町	渡島國茅部郡森村		久遠郡久遠村	後志國壽都郡壽都岩崎町	後志國壽都郡壽都岩崎町
								室蘭郡室蘭港	室蘭郡室蘭港
								勇拂郡勇拂	勇拂郡勇拂
								白老郡白老	白老郡白老
								勇拂郡勇拂	勇拂郡勇拂
								千歳郡千歳	千歳郡千歳
								沙流郡沙流	沙流郡沙流

○第一類○行政法○國庫金出納所位置區域

北海道廳											
石狩國				天鹽國				北見國		根室國	
樺 戶 郡	空 知 郡	濱 益 郡	厚 田 郡	石 狩 郡	上 川 郡	雨 龍 郡	空 知 郡	樺 戶 郡	增 毛 郡	留 萌 郡	苦 前 郡
樺 戶 郡 樺 戶 郡		石 狩 郡 石 狩 郡		上 川 郡 雨 龍 郡		空 知 郡 空 知 郡		天 鹽 郡 天 鹽 郡		中 川 郡 上 川 郡	
樺 戶 郡 同 國 樺 戶 郡 月 形 村		石 狩 郡 石 狩 郡 親 船 町		上 川 郡 雨 龍 郡		空 知 郡 空 知 郡 市 來 知 村		天 鹽 郡 天 鹽 郡 增 毛 郡 增 毛 郡 天 鹽 郡 天 鹽 郡 增 毛 郡 增 毛 郡 天 鹽 郡 增 毛 郡 天 鹽 郡 增 毛 郡		中 川 郡 上 川 郡	

札幌區南一條西											
日高國				後志國				十勝國		日高國	
夕 張 郡	幌 泉 郡	古 岩 郡	積 丹 郡	美 古 郡	余 市 郡	忍 路 郡	高 島 郡	小 樽 郡	十 勝 郡	河 東 郡	中 川 郡
夕 張 郡	幌 泉 郡	古 岩 郡	積 丹 郡	美 古 郡	余 市 郡	忍 路 郡	高 島 郡	小 樽 郡	十 勝 郡	河 東 郡	中 川 郡
日高國 幌泉郡 幌泉村		後志國 岩內郡 岩內橋町		後志國 古平郡 濱町		後志國 高島郡 小樽港色 內町		十勝國 浦河郡 浦河村		日高國 浦河郡 浦河村	

○第一類○行政法○國庫金出納所位置區域

鹿兒島鹿兒島																							
薩摩國鹿兒島郡築町																							
薩摩國		大隅國			薩摩國																		
桑原郡	東嶺郡	始羅郡	馭模郡	熊毛郡	黑島	硫島	竹島	內島	川邊郡	菱刈郡	北伊佐郡	阿多郡	日置郡	出水郡	穎娃郡	楫宿郡	給黎郡	川邊郡	甌島郡	南伊佐郡	高城郡	薩摩郡	
木加治村	同國始羅郡加治木反土			島種	島種	島種	島種	島種	島種		牛山	同國北伊佐郡里村	同國日置郡下谷口村	同國出水郡武本村		知覽	同國給黎郡知覽村			城限	薩摩國薩摩郡東手村		
				大隅國熊毛郡種少島																			

廳	北海道										
府	國庫金										
縣	出納所										
出納所	根室梅枝町四町										
位置	北見國 千島國										
出納區域	釧路國 川上郡 厚岸郡 川上郡 厚岸郡 川上郡 厚岸郡 川上郡 厚岸郡 川上郡 厚岸郡 川上郡 厚岸郡										
支所	釧路國川上郡熊牛村 釧路國厚岸郡灣月町 釧路國釧路郡釧路村										
位置											

▲明治二十年六月大藏省告示第八十六號  
本年第五十一號告示鹿兒島國庫金出納所及加治木外三出納支所ニ係ル出納區域左ノ通改定ス

大隅國 大島郡 金久同國大島郡金久村		日向國 南諸縣郡
肝屬郡	鹿屋同國肝屬郡中名村	日向國 南諸縣郡
南大隅郡	鹿屋同國肝屬郡中名村	
北大隅郡		岩川同國西嶺嶽郡五十町村
西嶺嶽郡		

北海道國庫金出納所		置出納區域	支出納支所	位置
薩摩國	鹿兒島郡	加治同國始羅郡加治木反土村		
	谿山郡			
大隅國	北大隅郡	木村		
	始羅郡			
	西嶺嶽郡			
	桑原郡			
大島郡				
川邊郡				
內島				
口島				

鹿兒島 鹿兒島 薩摩國 鹿兒島郡築町		日向國 南諸縣郡
薩摩國	平島	日向國 南諸縣郡
中島	金久同國大島郡金久村	
惡石島		
諏訪瀬島		
寶島		
肝屬郡	鹿屋同國肝屬郡中名村	日向國 南諸縣郡
南大隅郡	鹿屋同國肝屬郡中名村	
東嶺嶽郡		岩川同國東嶺嶽郡五十町村
日向國		

▲明治二十年三月大藏省告示第二十七號  
國庫金出納所開庫時間ノ儀ハ各廳及各郡區役所ノ官吏上廳時限ヨリ退廳時限迄トハ臨時急施ヲ要スルモノハ此限ニアラス  
但客年五月第四十號告示ハ本年三月三十一日限リ廢止ス  
參照(明治十九年五月大藏省第四十號告示)  
歲入歲出出納規則第六條ノ旨意ニ據リ國庫金取扱所現金支拂所ノ金庫ハ當分ノ内開庫時間ヲ定ムルコト左ノ如シ尤東京金庫局ノ金庫大阪金庫局出張所ノ金庫開扉時間ハ臨時別ニ之ヲ

定ム

但當該廳會計主務官ヨリ特ニ急施ノ通報アルモノハ左ノ限ニアラヌ

四月一日ヨリ九月十日迄午前九時ヨリ午後五時迄 九月十一日ヨリ三月三十一日迄午前九時ヨリ午後三時迄

▲明治二十年三月大藏省告示第三十五號

當省告示第十八號別冊中廣島國庫金出納所海田市支所ヲ刪除シ同出納所吳支所ノ位置宮原村第二海軍區御用地トアルヲ和庄村ト改正ス

▲明治二十年四月大藏省告示第四十二號

本年當省告示第十八號國庫金出納所位置出納區域表ノ内隱岐國出納支所ノ儀同國周吉郡西郷西町へ置き西郷出納支所ト稱ス

▲明治二十年五月大藏省告示第六十六號

兵庫縣下姫路國庫金出納所出納區域内飾西郡手野村ニ手野出納支所ヲ増設シ來ル七月一日ヨリ同郡全部ニ係ル國庫金ノ出納事務ヲ取扱ハシム

▲明治二十年五月大藏省告示第六十八號

茨城縣下本宗道國庫金出納所ノ區域中下妻出納支所ハ來六月一日ヨリ廢止ス

▲明治二十年五月大藏省告示第七十號

福岡縣下久留米國庫金出納所區域内筑後國三池郡下里村へ下里出納支所ヲ設置シ來ル六月一日ヨリ三池鐵山局及三池集治監ニ係ル收支金ノ事務ヲ取扱ハシム

福岡縣下須賀川國庫金出納所ヲ來ル六月一日ヨリ郡山へ移シ郡山國庫金出納所ト改メ郡山國庫金出納支所ヲ須賀川へ移シ須賀川國庫金出納支所ト改ム

但須賀川田島白河棚倉石川ノ五出納支所ハ同日ヨリ郡山國庫金出納所區域ニ屬セシム

▲明治二十年六月大藏省告示第八十壹號

東京國庫金出納所所轄本所出納支所ヲ本所區相生町へ移ス

▲明治二十年六月大藏省告示第八十二號

岐阜縣下御嵩國庫金出納所所轄多治見出納支所ハ本月三十日限り廢止ス

▲明治二十年六月大藏省告示第八十七號

鳥取國庫金出納所所轄倉吉出納支所ヲ來ル七月一日ヨリ同所東岩倉町へ移ス

▲明治二十年六月大藏省告示第九十一號

○第一類○行政法○國庫金出納所位置區域

鳥取國庫金出納所所轄河原出納支所ヲ來ル七月十日ヨリ八上郡郡家村へ移シ郡家出納支所ト改稱ス

○第六款 諸貸付金整理順序

▲明治二十年二月大藏省訓令第十三號 北海道廳 府縣

明治十九年<sup>四</sup>當省第五號訓令諸貸付金整理順序中左ノ通改正ス

諸貸付金整理順序

第五條

四 負債主失踪シタルトキ及ヒ失踪後三十六箇月經過シタルトキ

第十二條

二 前項報告書ニ對シ其増減ヲ毎年八月一日十二月一日及ヒ四月一日ノ現狀ニ依リ増減報告表<sup>(書式第三號)</sup>ヲ調製スルコト

○第七款 歳入歳出計算記簿規程

▲明治十九年十二月大藏省訓令第五十九號 北海道廳 府縣

歳入歳出計算記簿規程別冊ノ通改定候條右ニ據リ來二十年度ヨリ施行スヘシ尤モ別冊ハ當省ヨリ別ニ送付スヘシ<sup>(別冊零ス)</sup>

但内國稅徵收費ニ係ル帳簿ハ別ニ定ムル所ニ據ル

▲明治二十年二月大藏省訓令第十四號 北海道廳 府縣

明治十九年<sup>十二</sup>當省訓令第五十九號各廳歳入歳出計算記簿規程第三條及

第四條中郡區役所每ノ下<sup>(連合ノ役所)</sup>ノ割注十字ヲ追加ス

○第八款 納額告知書發付ノ件

▲明治十九年十一月大藏省訓令第五十五號 北海道廳 府縣

北海道廳長官府縣知事ヨリ郡區長ニ委任シタル事務條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徵收ハ郡區役所會計主任ノ書記ヲシテ納額告知書ヲ發セシムルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

▲明治二十年四月大藏省訓令第二十三號 北海道廳 府縣

諸貸付金ヲ徵收スル納額告知書ニ限リ該書式ニ行目上段ノ年度ハ記載スルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

▲明治二十年六月大藏省訓令第四十四號 北海道廳 府縣

第二部歳入ニ屬スル納額告知書及納付書ヲ發付スルトキハ金員ノ右方ニ納金ニ當該スル款名ノ印ヲ押捺セシムヘシ

○第一類 ○行政法 ○諸貸付金整理順序 ○歳入歳出計算記簿規程 ○納額告知書發付ノ件 四百二十三

○第九款 交際官領事費用條例

▲明治十九年七月勅令第四十九號

朕交際官並領事費用條例ノ改正ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第四十九號

交際官並領事費用條例

- 第一條 海外在勤ノ公使領事以下官員ノ年俸ハ第一號表ニ照シテ之ヲ支給ス但任所着翌日ヨリ起算シ任所出發ノ前日マテ日割ヲ以テ支給ス
- 第二條 公使領事參事官書記官赴任前許可ヲ得テ妻ヲ攜帶スル者及赴任後許可ヲ得テ任所へ妻ヲ呼寄スル者ハ總テ其妻任所着翌日ヨリ起算シ任所出發歸朝ノ前日マテ日割ヲ以テ妻攜帶ノ俸給ヲ支給ス
- 第三條 出發前ノ俸給ハ新拜命ノ官員出發前滯京ノ日數ヲ六十日ト定メ第二號表ニ照シ通貨ヲ以テ支給ス妻攜帶ノ許可ヲ得タル公使領事參事官書記官ニハ其給額ノ二割増ヲ支給ス
- 第四條 前條ノ期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ出發前ノ俸給ヲ六十日ニ分割シ前任所後任所ニ從ヒ支給ス又出發ノ延期ヲ命セラレタル者ハ六十日以後ハ第四號表公用滯京ノ項ニ照シテ支給シ病氣ニテ出

發ノ延期ヲ願出タル者ハ同表養痾歸朝ノ項ニ照シテ支給ス

第五條 出發前三十日以内ニ於テ免官セラレタル者及赴任ヲ免セラレタル者ハ出發前俸給ノ半額ヲ返納セシムヘシ又免官免任ノ期三十日以後ニ方レハ其給額ヲ六十日ニ割リ之ヲ返納セシムヘシ

其願ニ依リ赴任ヲ免セラレタル者ハ悉皆返納セシムヘシ

第六條 往返旅中俸給ハ本邦任所往返旅中上陸賄料馬車代公用郵便稅電信料接待費等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第七條 往返旅中俸給ハ現日數ニ拘ハラス又赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景况視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ地方へ巡回スルニ拘ハラス第二號表本任所ノ項ニ就テ支給ス

第八條 養痾歸省等願ニ依リ歸朝スル者ニモ亦前條ノ俸給ヲ支給スト雖モ任所ニ於テ免官ノ者ニハ之ヲ支給セズ

第九條 任所往返ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡回シ或ハ航行中非常ノ事故アリテ郵船ヲ待合セ又ハ某港ニ滯留スル者之カ爲メ第三號表中限日數ヨリ延着スルトキハ外務大臣定ムル所ノ費額ヲ支給ス

第十條 甲地在勤ノ者乙地へ任所替ヲ命セラレタルトキハ旅中俸給トシテ甲地出發ノ日ヨリ乙地着任ノ日マテヲ算シ本邦任所往返旅中俸給ノ

○第一類○行政法○交際官領事費用條例

額ヲ日割トシ現日數ニ乘シテ支給ス

第十一條 公使領事交代スルトキ公使ハ解任狀捧呈謁見濟ノ日ヲ以テ事務ヲ引繼キ領事ハ新任領事到着ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ引繼キ共ニ其當日ヨリ三週間内ニ其任所ヲ發程スヘシ

第十二條 公使領事歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ノ許可ヲ得或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ三週間内ニ事務ヲ其代理者ニ引繼キ任所ヲ發程スヘシ

第十三條 參事官書記官交際官試補書記生ノ交代并歸朝任所替發程期日ハ第十一條第十二條ノ例ニ同シ

第十四條 發程ノ延期ヲ命セラレタル者ノ外公館ノ公務ニ依リ發程ノ延期ヲ要スル者ハ外務大臣ノ許可ヲ得テ仍ホ一週間延期スルコトヲ得ヘシト雖モ此延期中ハ公使領事ハ年俸二分ノ一參事官以下ハ年俸三分ノ二日割ヲ以テ支給ス

病氣其他事故ニ依リ出發ヲ延期セシ公使領事ニハ年俸三分ノ一參事官以下ニハ年俸二分ノ一日割ヲ以テ支給ス

第十五條 任所ヲ轉スル者ニハ事務引繼濟ニ拘ハラヌ新任ノ年俸ヲ支給ス

第十六條 公使領事公用ニテ在留國內外ニ旅行スルトキ其代理ヲ任スルコトアルモ事務ノ引繼ヲ爲スニ及ハヌ故ニ代理者ニ代理年俸ヲ支給セシテ公館費用ハ公使領事ノ擔任トス

第十七條 公使領事任所不在中其代理者ニハ本任官出發ノ日ヨリ起算シ本官ノ年俸ヲ支給セス代理年俸ヲ支給ス本任官歸任スルカ或ハ新任公使領事到着スルトキハ事務引繼ノ日數ニ拘ハラヌ着翌日ヨリ代理者ニ代理年俸ヲ支給セス

第十八條 交代濟歸朝ノ後無任所外交官ヲ命セラレサル者ニハ着京翌日ヨリ百八十日ヲ限リ第四號表交代濟歸朝日當ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス此期滿レハ官吏非職條例ニ依リ非職ヲ命ス但非職俸ハ交代濟歸朝日當ノ三分ノ二ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 在勤滿三箇年以上ニ滿リ外務大臣ノ許可ヲ得往復順路ノ日數ヲ除キ六箇月間賜暇歸朝ノ者ニハ着京翌日ヨリ第四號表賜暇歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

休暇期日ヲ過キ病氣其他ノ事故ニ依リ歸任ヲ延期スル者ニハ同表養病滯京ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十條 公用ニテ歸朝ヲ命セラレタル者及航海不便ノ港ニシテ毎歲冬

○第一類○行政法○交際官領事費用條例



季例ニ從ヒ閉館シ隨テ歸朝スル者ノ日給支給法亦前條ニ同シ

第二十一條 歸省養病等ノ許可ヲ得テ歸朝スル者ニハ着京翌日ヨリ第四號表養病歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十二條 臨時代理公使ニハ代理公使ノ年俸ヲ支給ス

第二十三條 貿易事務官其他特設ノ官名ヲ以テ領事ノ職務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ其官等ニ應シ領事ノ例ニ照シテ年俸其他ノ支給ヲ爲スヘ

第二十四條 公使領事以下死亡シタルトキハ第四號表一時賜金年俸三分ノ一ヲ給與ス海外ニ於テ死亡シタル者ニハ別ニ在勤年俸一箇月分ヲ支給ス

赴任前死亡シタルトキハ出發前ノ俸給ヲ返納セシムルニ及ハス

第二十五條 移轉費、交際費、事務所費、公館雇員費、妻并從者旅費、航行費、陸路費、在留國內外公用旅行雜費、公館借入、公館備付品科目買上代價并修理費、事務引繼前後經費負擔ノ區分、公館經費、公館非常準備金其他計算等ニ關スル細則ハ外務大藏兩大臣ノ定ムル所ニ依ル

(自第壹號表至第四號表畧ス)

### ○第十款 交際官領事費用條例細則

▲明治十九年七月外務省令第壹號

交際官并領事費用條例細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

交際官並領事費用條例細則

#### 第一章 在勤年俸

第一條 條例第一條ニ載スル在勤年俸日割支給ノ計算ハ其年ノ現日數ヲ以テ除シ割リ得タル額ヲ日數ニ乘シ支給スヘシ

第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴シ難キトキハ其事情ヲ具シ其妻ノ出發延期ヲ外務省ヘ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在スルトキハ妻携帶費ヲ支給スルコトアルヘシ

#### 第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限り支給シ歸朝中他所ヘ在勤替ヲ命セラレ、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セス尤歸朝滯京中委任ヨリ勅任ニ轉シ再ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノ、例ニ依リ出發前ノ俸給ヲ支給ス

明治二十年三月外務省令第壹號ヲ以テ第一條ヘ一項追加ス

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中斷可テ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ユルトキハ外國ニ在テハ乙號表旅行雜費內國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外移轉諸費トシテ丙號表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラス交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓又領事館書記生ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナキ者ハ手當トシテ同三百圓月割(十五日前後)ヲ以テ支給ス其他公館ノ費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ尤モ公使領事不在中ト雖モ公館ノ費用ヲ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアラス

第八條 副領事ニテ總領事又ハ領事管轄內ノ一地ニ常住シテ事務ヲ擔任スルトキハ事務扱所借料其他一切ノ公費トシテ一箇年五百圓以上貳千

五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後)支給シ精算ニ及ハス

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用ヲ要スルトキハ五百圓以上千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアルヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國ニ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ兼任地着翌日ヨリ同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨壹磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通辯等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一館ニ一人ヲ限リ許可シ其給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省ニ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキトキハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具ニ外務省ニ申出ヘシ勿論假雇間ノ給料公使館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同貳百圓以内タルヘシ

第十二條 公館雇員ノ内不時缺員アルトキノ外公館使用ノ爲メ我國人ヲ雇入ル、コトヲ許サス但雇間ノ給料ハ歐米各國ニ在テハ一箇月英貨貳

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

拾磅以內亞細亞地方ハ銀貨五拾圓以內タル可シ

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ攜帶スル者ニハ任所往復及ヒ在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限り妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ一等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替ノトキニ限り其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照ラシ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限り航行費及陸路費ヲ支給スヘシ  
但御用歸朝及賜暇歸朝ノ節ハ其都度之レヲ支給スヘシ

第十六條 公館附雇書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻並從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路費

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運搬費船人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第十八條 航行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セズ  
第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニハ迂迴ノ距離ニ準シ航行費並陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セズ

第二十一條 歸省願濟日數滿チ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滞在ヲ命セラレ出發ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス

第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費支拂ノ精算ニ依テ支給スヘシ但私屬荷物運賃勅任ハ七十貫目奏任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所ニ往復スル者ハ航行費ヲ給セズ官船乗組膳料トシテ勅任ハ一日壹圓五十錢奏任ハ同壹圓貳拾錢判任ハ同九拾錢ヲ支給ス但官仕膳ノ節ハ之レヲ給セズ

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中膳料接待費馬車船人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第一類 ○ 行政法 ○ 交際官領事費用條例細則

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄 航行費ヲ要スル日數ヲ除クニ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ其日數ニ應シテ之レヲ支給スヘシ但往復一日ノ者ニハ之レヲ給セス

第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル證明書ヲ添フヘシ

第二十七條 旅行雜費ハ出張先ニ二週間（着翌日ヨリ起算ス）ヲ限リ全額ヲ支給シ二週間後ハ半額ヲ支給ス兼任國滞在ハ五週間（同上）ヲ限リ全額ヲ支給シ其後ハ半額ヲ支給ス但國書捧呈等ノ爲メ兼任國政府ノ都合ニ依リ此期ヲ經過スルトキハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキニ限リ期日後ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地着發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添へ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ニヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲廳ノ官員ヲシテ乙廳ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其俸給ハ甲廳ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙廳ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セス但乙廳留勤中

其廳ノ公用ニテ旅行スルトキハ其廳ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ  
第三十條 在哥爾薩港領事館管内漁場巡迴中日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且賄道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費タルヘシ

第十章 公使領事以下恩給并一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例

第四號表恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依ル

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシトキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ支給ス

第十一章 公館借入及移轉

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ムル所ノ豫算額ヲ超ユヘカラス若シ此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ヒタル家屋ニシテ借料定額ヲ超エタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支給スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通ト爲シ其副書ヲ外務省へ差出スヘシ

第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若シ什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辨ト

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

ス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一箇月ニ限り官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使領事ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手數料謝金其他新館ノ窓掛ケ敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辨スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレバ移轉スヘカラス此許可ヲ得スシテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス

第三十八條 公館移轉ノ際荷物運搬ノ費用ハ總テ官費ヲ以テ支辨スヘシ  
第十二章 公館備付品科目買上代價額並修理

第三十九條 公館備付品科目ハ丁號表ニ依ル

第四十條 公館諸什器買上代定額ハ歐米公使館ハ銀貨壹万五千六百圓 清國公使館ハ同壹万三千七百圓 朝鮮國公使館ハ通貨壹万貳千圓 領事館ハ總テ銀貨四千圓 (朝鮮國領事館ハ通貨) 公館創立ノ際一度限り之レヲ支給スヘシ

第四十一條 公館備付ノ諸什器ハ官費ヲ以テ修理若シハ買足ヲ爲シタルモノト公使領事ノ自費ヲ以テ修理スヘキモノトヲ分テ什器目錄ヲ製シ

其一冊ハ外務省ニ差出シ二冊ハ公館ニ備置キ物品検査ノ用ニ供スヘシ故ニ物品缺損アルガ又ハ買足等ノ爲メ員數ニ増減ヲ生スルトキハ其時々外務省ヘ報告ノ上目錄帳ヲ加除スヘシ

第四十二條 公館備付什器ノ官費修理ハ其定額ヲ超ユヘカラス若シ之レヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自費トス但年曆ヲ經タル等ニテ修理費定額ニ超過スヘキトキ及公使領事自費ヲ以テ修理スヘキ什器ニテモ年曆ヲ經タル爲メ其自力ニ及ヒ難キ巨多ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ニ具申スヘシ外務省於テハ其申請ヲ至當ト認ムルトキハ公使館ハ銀貨貳千圓 朝鮮國以下領事館ハ同八百圓 朝鮮國以下ノ修理費若シハ買足料ヲ支給スルトアレヘシ

第四十三條 公使館庖厨具及庶務雜具ノ費用トシテ銀貨五百圓 朝鮮國ハ公使初赴任ノ節一度限り支給シ精算ニ及ハス 通貨百圓

第十三章 公館經費

第四十四條 公使領事館ノ經費ニ立ツヘキ各件左ノ如シ

一 雇人料ノ内

公使領事館雇人料

裁判所及護衛并警察所ニ使役スル押丁并小使雇料ニ限ル

一 器具及圖書費ノ内

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

器具 丁號表一類備付ノ内公務所  
書房具ヲ除キ其他ノ諸器具  
戒具 朝鮮國領事館ニ限ル

書籍地圖

製本費

一被服費ノ内

一巡查徽章帶具費

徽章、帶劍、捕繩、  
手帖、呼子笛等  
(清國并朝鮮國ニ限ル)

一通信運搬費ノ内

電信料

運搬費

保險料

一地所家屋借料

公館借料

公館用地借料

一雜費ノ内

諸謝金

公館借入或ハ購買等ノ節其約定書ニ付其地法律家ノ檢閱  
ヲ依頼スルトキ又ハ臨時公館ヨリ訴訟若クハ要求ヲ爲サ  
ルヘカヲサル場合ニ於テ其地ノ法律取調ニ關シ代官  
ニ依頼スルトキニ限ル

廣告料

諸手數料

道路疏水手當及家屋地稅等

火災保險料 公館、公館備付器具

爲換料

印紙料

一修繕費

家屋修繕費

帝國政府ニ屬スル家屋ノ修繕又ハ借家ナレハ契  
約書ニ依リ貸主ニ於テ負擔セサル修繕ニ限ル

一裁判及囚徒費

一警察及護衛費

但巡查死傷手當并賄料ニ限ル

一右實費精算スヘキモノニ付證書ヲ添ヘテ之レヲ證明スヘシ

一雇人料ノ内

一公使館雇人料

僕長、馭者、馬車附添、門番、公  
務所小使、玄關番、轎夫等

一器具及圖書費ノ内

新聞雜誌類

内外各種ノ新聞、雜誌、アルマナック、ダイレクトレ  
人員錄、路程表等ノ類

一筆紙墨文具

用紙

各種ノ日本紙、西洋紙、計算表用紙、諸封袋等一切ノ紙類  
但野引公館記名印刷費等

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

筆墨印肉類

各種ノ筆類、常用墨、朱墨、墨汁、繪ノ具、白墨、印肉等ノ類

硯小道具類

硯石、硯箱、墨壺、墨汁入、同臺、圖引道具、石盤、算盤、水入、糊入、肉池、繪ノ具皿、簿記具、筆架、文鎮、鈔裁刀、小刀、錐、綴金、留針、字消エム、刷毛、海綿、復寫版、其他文房一切ノ諸具新規買入並修復共

諸帳簿 新規修補共

一 消耗品

薪炭油茶類 朝鮮國護衛所及警察所ニ限ル

雜品 糊、封蠟、付木、除蟲藥品、書類綴絲、緋紐、緋絲等ノ類

一 被服費ノ内

雇人被服 前項ニ細記スル雇人ノ仕被セ衣服、冠物、手袋、雨具、靴ノ類

一 通信運搬費ノ内

公用郵便稅 一切ノ郵便賃、不足稅及郵便發送ノ爲メニ要スル費用等

一 雜費ノ内

舟車馬類雇賃 舟、馬車、借馬、雜乘物等ノ類、但領事館ハ端舟雇賃ニ限ル

馬飼料 飼食費、馬毛妨料、蹄鐵打替、馬匹治療費等但公使館ニ限ル

一 宴會費

天長節其他交際ニ係ル宴會諸費 但領事館ハ天長節ニ限ル

右費用ハ一箇年定額ヲ十二分シ一箇月毎ニ各科目定額ノ高ヲ拂ニ立テ過不足ヲ問ハス渡切ノ分ニ付證書ヲ添ユルニ不及又明細品名ヲ掲シルニ不及

右月費精算ノ事

但此箇條ニ明文ナキ費用ハ公使領事ノ自辨タルヘシ

第四十五條 經費金ノ内定額ヲ以テ渡切ノ費用ハ不足アルモ追給セヌ又餘リアルモ返納ニ及ハス其定額金ヲ以テ彼此流用支辨スヘシ

第四十六條 經費金ノ内實費精算ノ分ハ年々外務省ヨリ通知スル處ノ豫算ニ基キ支出シ各科目ニ就テ超過セサラシヲ豫計スヘシ

第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事務引續濟ノ當日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ

第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓 朝鮮國ハ通領事館ハ總テ同三千圓 朝鮮國ハ貨四千圓 貨迄ハ非常已ムヲ得サルトキニ限リ公使領事ニ於テ大藏省預ケ金ノ内或ハ預ケ金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ル、コトヲ得ヘシ右ハ公館

屬員等ノ定員ニ缺員アルトキ一時雇員費及漂民窮民貸與費患者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ銷還ノ手續ヲ

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則

爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金スヘキ銀行ナキトキハ本文ノ金額ヲ豫メ送致シ置ヘシ

第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館

ニ送達シ右送金ニ對スル明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レヲ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領收證書ヲ發シ其旨外務省ヘ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日(假令ハ一月ヨリ三月迄ノ分ハ其二月ノ初日)ニ渡方取計ヒ經費金ハ第十三章ノ科目ニ照ラシ支出

ニ於ケル如シ)ニ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ事ノ大小ヲ不論總テ外務省ヘ申請シ許可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ヘ繰替支出スルコトヲ許サス萬一非常ノ場合ニ際シ一時繰替ヲ爲サ、ルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外

務省ヘ報告シ償還ノ手續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形ニ倣ヒ調製シ翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對シテハ正當請取證書寫或ハ事故アリテ請取證書

ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官ノ證明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領收證書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ屬スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フコトヲ得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラズ甲月分ノ勘定帳ニ記載スヘシ但借家料及ヒ保險料ノ類前

拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニアラス

第五十七條 各館於テハ每一月其出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙雛形ニ據リ調製シ毎月精算書ト共ニ外務省ヘ差出スヘシ

第十八章 収入金及返納金

第五十八條 旅券其他諸手数料及ヒ用品拂下代金等總テ収入金ハ一箇月分取纏メ兼テ外務省ヨリ回付シアル明細仕譯書用紙ニ書載セ外務省及各主管處ヘ報告シ現金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

○第一類○行政法○交際官領事費用條例細則



第五十九條 公使領事以下官員歸朝ナルカ或ハ任所替ヲ命ゼラレタルトキハ兼テ回付シタル本人年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無遲滯外務省ヘ報告スヘシ尤殘餘アルトキハ預リ證書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但任所替ノ者ハ便宜之レヲ新任所ヘ轉送スルモ妨ケナシ

第六十條 年度末ニ至リ經費金等殘餘ヲ生スルトキハ預リ證書ヲ以テ其年度末期勘定帳差出ノ節共ニ返納スヘシ

第十九章 雜

第六十一條 官金ハ其公館ヘ堅牢ナル器物ヲ備ヘ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行ヘ預ケ置ク等便宜ニ任スト雖モ銀行ヘ預ケ入ルハトキハ其銀行名等豫テ外務省ヘ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケテ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ伺出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費ニ仕用スルヲ許サズ

第六十三條 公使領事館ヘ各省廳ヨリ依頼スル注文品代價ハ其依頼應ノ通知額ヲ目途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼應ニ向テ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲナシ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘガナシ

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若クハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以

テ在勤スル者ニ費用條例ニ據ラテ左ノ通支給ス

- 一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ム
- 一 本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス

一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス

一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ二十貫目迄ヲ限リ官費支給スヘシ

一 航海中ノ日當ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日當ノ外附料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ

一 内地滯在中ハ日當金三拾五錢ヲ支給シ前欸ノ航海日當ハ支給セズ

一 外國諸港ニ滯在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料ハ一日金七拾錢ヲ支給スヘシ

第六十五條 在勤中公用ニテ旅行ノ節ハ旅行雜費トシテ一日金壹圓三拾錢ヲ日數ニ應シ支給スヘシ

第六十六條 妻呼寄願ハ本人ノ願書ニ限リ留守宅或ハ親戚等ヨリ願出ルモ之レを許サズ尤本人ヨリノ依頼狀等其情願ヲ證スル丈ケノモノアル

第一類 ○ 行政法 ○ 交際官領事費用條例細

トキハ此限ニアラズ

▲明治二十年三月外務省令第一號  
交際官並領事費用條例細則第一條へ左ノ一項ヲ追加ス

公使領事以下官員海外ニ於テ新任轉任増俸減俸ノ節其俸給ハ現ニ本人  
其辭令ヲ受ケン翌日ヨリ起算支給スヘシ

(自甲號表畧ス  
至丁號)

○第廿五章 旅費

○第一款 内國旅費規則

▲明治二十年三月閣令第六號

各官廳

明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則第二十條中「武官」ノ下ニ「文官」ノ  
二字ヲ加フ

▲明治二十年六月閣令第十七號

各官廳

明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則第十九條ヲ削除ス  
參照(内國旅費規則ハ第三編第一類第廿七章第一款ニ掲出ス)

○第三款 内國旅費規則附則

▲明治十九年十二月閣令第三十四號

各官廳

明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ附則ヲ追加スルコト左ノ如シ  
内國旅費規則附則

第一條 北海道廳、沖繩縣、東京府、小笠原島廳、長崎縣、對馬島廳、鹿兒島  
縣、大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島内ハ管内巡回ト雖モ管外旅行  
ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳、沖繩縣管轄内ハ車馬賃ニ限り管外額ノ五割以内ヲ増給  
スルコトヲ得

但北海道廳管轄内ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ  
限り管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通  
知スヘシ

○第二款 外國旅費規則

▲明治二十年五月閣令第十二號

各官廳

外國旅費規則左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス  
外國旅費規則

○第一類 ○行政法 ○内國旅費規則 ○内國旅費規則附則 四百四十七

- 第一條 外國旅費ハ官吏公務ニ依リ外國ニ旅行スルトキ其行程日數ニ應  
シ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
- 第二條 外國旅費ハ船舶料・汽車料・客舎料・食卓料・日當及支度料ノ六種ト  
ス
- 第三條 客舎料・食卓料・日當・支度料ハ各官等ニ依リ分テ五等トシ第一號  
表ニ照シ船舶料・汽車料ハ勅奏判任官ハ一等・僱員ハ二等ノ額ヲ以テ第  
二號表ニ照シ之ヲ支給ス
- 第四條 表面外ノ地ニ旅行スルトキ勅奏判任官ハ汽船・汽車賃ノ一等定  
價・僱員ハ二等定價ヲ支給ス其二等ナキ場合ハ一等ヲ支給ス  
汽船・汽車ノ設ナキ地方ヲ旅行スルトキハ舟車馬賃ノ實費ヲ支給ス  
定價及實費ヲ支給スル場合ニ於テハ私屬ノ荷物三十五貫目マテノ運賃  
ハ官費支給スルコトヲ得
- 第五條 前條ノ場合ニ於テハ旅行者ヨリ旅行日記・受取書等精確ナル證  
明書ヲ出サシメ之ニ基キ支給スヘシ  
旅行者ハ精密ナル旅行日記ヲ作り毎日ノ行程・宿泊ノ場所・旅店名稱船  
名・賃銀等ヲ記入スヘシ  
旅行者ハ成ルヘシ運輸會社或ハ運輸營業人ノ受取書其他舟車馬賃ノ

- 證明トナルヘキモノヲ取置ヘシ
- 第六條 船舶料・汽車料ハ官ヨリ船車ヲ供スルトキハ之ヲ支給セス
- 第七條 食卓料ハ官ヨリ船舶ヲ供スルモ賄ヲ爲サルトキニ限り航海ノ  
日數ニ應シ之ヲ支給ス  
食卓料ハ客舎料ト重複ニ支給セス
- 第八條 客舎料ハ陸地宿泊ノ數ニ應シ之ヲ支給ス  
航海途中汽船ノ寄港シタル場合ニ於テ自己ノ便宜ヲ以テ上陸宿泊スル  
トキハ客舎料ヲ支給セス
- 第九條 日當ハ本邦出發港・抵埠ノ日ヨリ本邦歸着港ニ抵埠ノ日マテ日數  
ニ應シテ支給ス
- 第十條 支度料ハ各省大臣ニ於テ豫メ旅程ノ遠近・日數ノ多少・公務ノ性  
質等ヲ斟酌シ第一號表ニ掲グル範圍内ニ於テ相當ノ額ヲ定メ支給スヘ  
シ
- 支度料ハ本邦ヨリ外國ニ旅行ヲ命シタルトキ之ヲ支給シ其外國ニ在テ  
甲國ヨリ乙國ニ旅行ヲ命スルコトアルモ之ヲ支給セサルモノトス
- 第十一條 奏任官四等以上ノ者從者ヲ伴ヒ外國ニ旅行スルトキ從者一人  
ニ限り願ニ依リ表面二等ノ船舶料・汽車料 表面外ノ地ハ 第四條ニ據ル  
及五等ノ食卓

○第一類○行政法○外國旅費規則

料ヲ支給スルコトアルヘシ

第十二條 外國へ旅行ヲ命セラレタル者出發前死去又ハ官ノ都合ニ由リ旅行ヲ免シタルトキハ支度料ノ半額ヲ支給ス

第十三條 外國旅行中退官ノ者ハ其地ヨリ本邦出發地マテ舊官相當ノ旅費ヲ支給ス但自己ノ便宜又ハ刑事裁判ニ由リ退官ノ者ハ此限ニアラス  
外國旅行中死亡ノ者ハ其地ヨリ本邦出發港マテ舊官相當ヲ以テ第二號表瀛車料、船舶料ノ一割増ヲ支給シ第一號表ノ旅費ハ支給セズ

第十四條 外國旅行中許可ヲ得テ公務ヲ終ルノ後尙私事ノ爲メ滞在スルトキ其間ハ一切旅費ヲ支給セズ但病氣ハ此限ニアラス  
許可ヲ得テ私事ノ爲メ迂路ヲ經過スルトキハ其迂路ニ就キタル日若クハ場所ヨリ其再ヒ順路ニ就クノ日若クハ場所マテハ順路ニ應スル船舶料、瀛車料ノ一割増ヲ支給シ日當、客舍料ハ支給セズ

第十五條 第十三條及第十四條ニ據リ死亡者及許可ヲ得テ迂路ヲ經過スル者ニ順路船舶料、瀛車料ヲ支給スルトキ表面外ノ地ニ於テハ陸地ハ一英里ニ付金七錢海路ハ一海里ニ付金六錢ノ割ヲ以テ支給ス  
表面外ノ地ノ里程ハ各地運輸會社或ハ各國政府ノ公認セル里程表ニ基キ旅行者或ハ遺族ヨリ精確ノ證明書ヲ出サシムルモノトス

第十六條 備員中特別ノ取扱ヲ要スル者(備外國人等)及其他本則ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ムヘシ

第十七條 交際官、領事等別段ノ旅費規則アルモノニハ本則ヲ適用セズ

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

附 則

外國旅費ハ內國旅費ト重複ニ支給スルコトナシ

外國旅行ノ爲メ本邦内ヲ通過シ及出發港ニ滞在スルトキハ內國旅費規則ニ據リ旅費ヲ支給ス  
出發港振盪ノ後郵船ノ都合ニ由リ本邦内ニ寄港シ上陸滞在スルトキハ

其間ハ內國旅費規則ニ據リ日當ヲ支給ス

歸朝ノ際目的ノ港ニ達スヘキ直航船ナキカ爲メ一旦本邦内ニ寄港シ其地ヨリ瀛船ヲ乗替ルトキハ其寄港シタル日以後ニ起ル旅行ハ內國旅費規則ニ據リ旅費ヲ支給ス

第一號

官 級	旅 費		食卓料	日 當	支 度 料
	客	舍 料			
親任官	一等八圓七圓四	圓壹圓七拾錢四			圓六百圓以内

○第一類○行政法○外國旅費規則

勅任官	二等七圓六圓三圓	壹圓五拾錢	三圓	圓四百圓以內
奏任官	三等六圓五圓	貳圓	壹圓貳拾錢	貳百五拾圓以內
判任官	四等五圓四圓	圓貳圓九拾	錢壹圓三拾錢	百三拾圓以內
備員	五等四圓三圓	壹圓	六拾錢	六拾圓以內

第二號表ノ甲

漁船賃表

橫濱香港間	百四圓	一等	八拾三圓貳拾錢	二等
同 柴檣間	百九拾五圓		百五拾六圓	
同 新嘉坡間	百九拾五圓		百五拾六圓	
同 マニラ間	二百五拾三圓五拾錢		三百二圓八拾錢	
同 バタヴィヤ間	二百四拾七圓		百九拾七圓六拾錢	
同 カルカッタ間	三百五拾壹圓		貳百八拾圓八拾錢	

同 ホンデナユリマドレラヌ間	三百三拾壹圓五拾錢	貳百六拾五圓貳拾錢
同 錫蘭	三百拾貳圓	貳百四拾九圓六拾錢
同 コロンボ	三百九拾圓	三百拾貳圓
同 亞丁間	五百七圓	四百五圓六拾錢
同 蘇西間	五百貳拾圓	四百拾六圓
同 ポルトサイト	五百三拾九圓五拾錢	四百三拾壹圓六拾錢
同 那不塞馬	四百六拾八圓	貳百八拾六圓
同 メルボルン	五百拾三圓五拾錢	貳百九拾貳圓五拾錢
同 フリンデス	四百六拾八圓	貳百八拾六圓
同 シドネー	三百貳拾五圓	貳百圓
同 サンフランシスコ	六拾五圓	三拾九圓
同 上海間	九拾七圓五拾錢	五拾七圓貳拾錢
同 天津間	八拾四圓五拾錢	四拾九圓四拾錢
同 芝罘間		

○第一類○行政法○外國旅費規則

同 元山間	七拾圓貳拾錢	四拾壹圓六拾錢
同 釜山間	五拾五圓貳拾錢	三拾貳圓五拾錢
同 仁川間	七拾圓貳拾錢	四拾壹圓六拾錢
同 浦潮斯德間	八拾八圓四拾錢	五拾貳圓
米國桑港ホノル、間	九拾七圓五拾錢	三拾貳圓五拾錢
米國紐育英國リハプール間	百三拾圓	五拾貳圓
橫濱英國サウスアンプトン間	五百四拾六圓	三百貳拾五圓

第二號表ノ乙 歐米各所氣車賃表

佛國馬耳塞里昂間	拾壹圓貳拾錢	八圓三拾錢
佛國馬耳塞里昂間	貳拾七圓六拾錢	貳拾圓五拾錢
佛國里昂巴里間	拾六圓四拾錢	拾貳圓貳拾錢
佛國馬耳塞里昂間	拾壹圓貳拾錢	八圓三拾錢
佛國馬耳塞里昂間	貳拾七圓六拾錢	貳拾圓五拾錢
佛國里昂巴里間	拾六圓四拾錢	拾貳圓貳拾錢

佛國巴里英國倫敦間	拾九圓五拾錢	拾四圓六拾錢
佛國巴里和蘭海牙間	拾三圓八拾錢	拾圓拾錢
佛國巴里澳國維也納間	四拾七圓八拾錢	三拾五圓九拾錢
佛國巴里伊國羅馬間	五拾五圓七拾錢	四拾圓
佛國巴里伊國ナトブル間	六拾圓六拾錢	四拾三圓四拾錢
佛國巴里瑞西國ヘルン間	拾七圓七拾錢	拾三圓三拾錢
佛國巴里瑞典國ストックホルム間	五拾九圓三拾錢	四拾四圓七拾錢
佛國巴里丁抹國コペンハーゲン間	四拾貳圓九拾錢	三拾貳圓
佛國巴里白耳義國フラスセル間	拾圓拾錢	七圓五拾錢
佛國巴里西班牙國マドリット間	五拾壹圓	三拾八圓七拾錢
佛國巴里葡國リスボン間	七拾六圓七拾錢	五拾八圓
佛國巴里那威國クリスチヤンナ間	六拾六圓八拾錢	四拾九圓七拾錢
佛國巴里獨國伯林間	三拾三圓	貳拾四圓貳拾錢

第一類〇行政法〇外國旅費規則

佛國巴里士國コンスタンチン ブル間	百三拾壹圓六拾錢	九拾八圓
佛國巴里露國彼得堡間	八拾三圓七拾錢	六拾貳圓拾錢
露國彼得堡モスコイ間	貳拾貳圓四拾錢	拾壹圓七拾錢
露國彼得堡オデッサ間	七拾九圓	五拾四圓六拾錢
露國彼得堡アポノ港間	貳拾壹圓四拾錢	拾貳圓七拾錢
露國彼得堡澳國クラコイ間	四拾八圓七拾錢	三拾六圓拾錢
露國彼得堡獨國エードクネン 間	三拾圓貳拾錢	貳拾貳圓四拾錢
獨國エードクネン伯林間	拾九圓貳拾錢	拾四圓三拾錢
獨國伯林澳國維也納間	拾九圓八拾錢	拾四圓九拾錢
獨國伯林白耳義ブラッセル間	貳拾圓八拾錢	拾三圓三拾錢
獨國伯林英國倫敦間	三拾六圓四拾錢	貳拾六圓六拾錢
獨國伯林蘭國アムステルダム 間	拾壹圓四拾錢	八圓四拾錢
伊國ナールブル羅馬間	六圓八拾錢	四圓九拾錢

伊國羅馬ヴェニス間	拾七圓四拾錢	拾貳圓
伊國ヴェニス澳國維也納間	拾八圓七拾錢	拾三圓八拾錢
伊國ヴェニス澳國トリース ト間	四圓四拾錢	三圓拾錢
澳國トリースト維也維間	貳拾圓八拾錢	拾五圓六拾錢
澳國維也納クラコイ間	拾貳圓三拾錢	九圓拾錢
英國倫敦リバプール間	九圓四拾錢	七圓拾錢
英國倫敦サウサンプトン間	五圓	三圓六拾錢
瑞典ストックホルムマルモ間	拾五圓六拾錢	拾壹圓六拾錢
丁抹國コペンハーゲンコルセ ル間	貳圓九拾錢	貳圓貳拾錢
米國桑港華盛頓間	貳百〇四圓拾錢	百三拾六圓五拾錢
米國桑港紐育間	貳百〇四圓拾錢	百三拾六圓五拾錢

○第四款 軍人内國旅費規則

○第一類○行政法○軍人内國旅費規則

海軍一般

▲明治十九年七月海軍省令第七十壹號

海軍軍人内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍軍人内國旅費規則

- 第一條 海軍軍人命ヲ受ケ本邦内ヲ旅行スルトキハ本則ニ依テ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ左表ノ如ク官等ニ應シ分テ七等トシ順路ノ路程ニ依リ瀛車賃瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス
- 第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行瀛船賃ハ瀛船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ルヲメ之ヲ支給ス
- 第四條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ陸里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セズ
- 第五條 二十里外ニ涉ル旅行ハ車馬賃及日當ノ甲額ヲ支給シ二十里内ニ止ル旅行ハ其乙額ヲ支給ス瀛車哩數及海上里數ハ陸路里程ノ計算ヲ以テ二十里内外ヲ區分スヘシ但第十二條及第十三條ニ依ルヘキモノハ此限ニ在ラス
- 第六條 艦船乘員旅行中本艦碇泊所ヲ轉シ第五條ノ行程距離内外ニ跨ルトキハ各片道ヲ以テ區分シ其相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第七條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算

シテ之ヲ支給ス但其一位未滿ノ端數ハ支給スルノ限ニアラス

第八條 日當ハ陸路六里未滿瀛車拾哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應テ支給スヘシ

第九條 准士官以上艦船乗退若クハ轉乘下士卒各應艦船營ニ移轉ノトキハ車馬賃瀛車賃或ハ瀛船賃ノ三割ヲ増給ス

▲(明治十九年十二月本省令第三百二十四號ヲ以テ左ノ一項追加)

甲任地ヨリ乘艦セシ准士官以上ノ者ニ乙地ニ赴任ヲ命シタルトキハ其退艦地ヨリ乙任地マテハ通常ノ旅費ヲ支給シ別ニ甲任地ヨリ乙任地マテノ直路ニ從ヒ車馬賃瀛車賃或ハ瀛船賃ヲ支給ス

第十條 准士官以上赴任ノ旅費ハ舊任地或ハ待命地ヨリ新任地ニ到ルマテノ車馬賃瀛車賃或ハ瀛船賃ノ二倍ヲ支給ス

▲(明治十九年十二月本省令第三百二十四號ヲ以テ左ノ一項追加)  
出張又ハ舊任地ニ非ラサル地方ニ於テ待命中赴任ヲ命シタルトキハ其出張又ハ待命地ヨリ新任地マテハ通常ノ旅費ヲ支給シ別ニ舊任地ヨリ新任地マテノ直路ニ從ヒ車馬賃瀛車賃或ハ瀛船賃ヲ支給ス但乘艦者ニ待命ヲ命シタルトキハ乘艦以前ノ任地ヲ以テ舊任地トス

○第一類 ○行政法 ○軍人内國旅費規則



第十一條 水路地理ノ測量又ハ炭質地質ノ調査又ハ土木工事等ノタメ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃或ハ漁船賃ヲ支給セズ日當ニ三割ヲ増給ス但乘艦職員其本艦ニ在テ測量或ハ巡視スルトキハ本條ニ依テ支給スルノ限ニ在ラス

第十二條 艦隊或ハ對抗運動見學或ハ學術研究等ノタメ旅行スルトキハ漁車賃及漁船賃ハ其實費ヲ支給シ車馬賃及日當ハ第五條ニ拘ハラズ其乙額ヲ支給ス

第十三條 傷痍疾病ニ罹ル下士卒海軍病院へ入院スルトキハ第十二條ニ準シ旅費ヲ支給ス退院其他治療場所移轉ノトキモ之ニ準ス但路次險惡或ハ重傷若クハ病症ニ依リ別ニ舟車若クハ肩輿等ヲ要スルトキハ所屬長官ノ認許及軍醫ノ診斷ニ依テ其實費ヲ支給ス

第十四條 官有ノ艦船車馬及官ニ於テ借入傭入レ或ハ實費ヲ支拂シ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本則ノ漁車賃漁船賃及車馬賃ヲ支給セズ

第十五條 轉營其他行軍ニ類スル旅行ハ漁車漁船或ハ車馬若クハ草鞋ヲ要スルトキハ其實費ヲ支拂ヒ又賄料ハ其地普通ノ下等賄料ハ一日一八ニ付金五錢以内ヲ以テ其實費ヲ支拂ヒ本則ノ漁車賃漁船賃車馬賃及日當ヲ支給セズ

第十六條 待命ヲ命シタル者ハ指定ノ地ニ到ルマテ旅費ヲ支給ス

第十七條 非職又ハ退職罷役或ハ退役免役トナリ其日ヨリ三十日以内ニ許可ヲ得テ本人ノ居室ニ歸住シ或ハ歸郷スルトキハ本官或ハ前役相當旅費額ノ四分ノ三ヲ支給ス非職若クハ退職ノ者復職出廳ノトキハ其全額ヲ支給ス

第十八條 豫備兵後備兵及歸休兵歸郷及召集ノトキハ現役相當旅費額ノ三分ノ二ヲ支給ス

第十九條 旅行中歸省其他私事ノタメ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルコトアルモ順路ノ路程ニ應シテ旅費ヲ支給ス

第二十條 旅行中廢官或ハ死亡若クハ諭旨退官ノトキハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス

第二十一條 第十七條以下第二十條以上ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スルタメ其日數ヲ計算スルハ漁車旅行ハ一日二百哩詰漁船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近ニシテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トス

第二十二條 下士以上ノ官ニ新ニ任用スルタメ召喚スルモノハ其新任官

○第一類○行政法○軍人内國旅費規則

相當ノ旅費ヲ支給ス  
 第二十三條 退職退官或ハ廢官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノタメ旅行セシムルトキハ前官相當之旅費ヲ支給ス  
 第二十四條 第十二條以下第十五條以上ノ場合ニ於テ瀛車賃及瀛船賃ノ實費ヲ支給シ又ハ支拂フトキハ旅費等級四等以上ハ上等五等ハ中等六等以下ハ總テ下等トス  
 第二十五條 命ヲ受ケ旅行スルモ准士官以上ニシテ一身上ノ事ニ止ルモノ及下士以下ニシテ被告人トナリ召喚ヲ受ルモノハ本則ニ依テ旅費ヲ支給スルノ限ニ在ラス  
 第二十六條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ其旅費ヲ各年度ニ區別スヘシ但瀛車賃及瀛船賃ハ會計年度分界ノ日ニ拘ハラズ其瀛車及瀛船出發當日ノ會計年度ニ編入スヘシ  
 第二十七條 第九條及第十條ニ依テ給スル旅費ハ新任應ニ於テ支給スヘシ  
 第二十八條 各廳兼務ニ依リ往返スル場合ニ於テ給スル旅費ハ本人到着ノ應ニ於テ支給スヘシ  
 第二十九條 會計ノ性質ヲ異ニスル應ヨリ借用スル職員ニ給スル旅費ハ

往返共借用應ニ於テ支給スヘシ  
 第三十條 第二十七條第二十八條及第二十九條ニ依テ給スル旅費ノ外ハ總テ本人所屬ノ廳ニ於テ支給スヘシ  
 海軍軍人内國旅費表

等級	區別	旅費			
		瀛車賃	瀛船賃	甲車馬賃	乙車馬賃
一等	大將	一哩毎ニ	一海里毎	一里毎ニ	一里毎ニ
二等	中將少將及三總監	金十五錢	金十五錢	金五十六錢	金三十二錢
三等	上長官	金十二錢	金十二錢	金四十二錢	金二十四錢
四等	士官	金九錢	金九錢	金二十八錢	金十六錢
五等	試補及准士官	金六錢	金六錢	金二十二錢	金十二錢
六等	下士	金六錢	金六錢	金十四錢	金八錢
七等	卒	金五錢	金五錢	金八錢	金六錢
		金五錢	金五錢	金七錢	金六錢
		金五錢	金五錢	金六十錢	金五十錢
		金五錢	金五錢	金四十錢	金三十錢

○第五款 海軍文官旅費支給方

▲明治十九年七月海軍省令第八十一號 海軍一般  
文官公務旅行ノトキハ府縣管内外ニ拘ハラヌ二十里外ニ涉ルモノハ車馬  
賃及日當ハ管外ノ額ヲ支給シ二十里内ニ止ルモノハ管内ノ額ヲ支給ス瀛  
車哩數及海上里數ハ陸路里程ノ計算ヲ以テ二十里内外ヲ區分スヘシ

○第六款 集治監典獄以下旅費規則

▲明治二十年二月內務省訓令第十號 集治監 假留監  
集治監及假留監官制被定候ニ付テハ典獄副典獄書記看守長監獄醫ノ旅費  
ハ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ據リ官等相當ノ旅費ヲ支給  
スヘシ

○第七款 警察官月額旅費支給法

▲明治二十年四月內務省訓令第二十五號 廳 府 縣  
警察官吏ニシテ其特區内ニ巡迴スルトキ給與スヘキ日當ハ特ニ其月額ヲ  
定メ本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ支給スルコトヲ得

○第八款 租稅檢査員旅費規則

▲明治十九年八月大藏省訓令第三十六號 府 縣 沖繩縣  
租稅檢査員旅費規則ノ儀八月一日以後旅費規則第十七條ニ據リ檢査ニ從  
事中左ノ月額ヲ以テ支給スヘシ  
一 租稅檢査員旅費月額ハ府縣廳下ノ檢査區内金十五圓廳下外ノ檢査區内  
金拾九圓五十錢トス  
一 檢査員本廳ヨリ檢査區ニ往復シ及ヒ甲乙轉區スル途中旅費ハ旅費規則  
第二條ニ依リ支給スヘシ  
一 旅費月額ハ檢査區着ノ月ハ其翌日ヨリ出發ノ月ハ其前日マテ本額三十  
分一ノ割ヲ以テ其日數ニ應シ支給スヘシ  
一 廳下ノ檢査區内ニ於テ檢査ニ從事セサルコトアルトキハ其日數ヲ除キ  
前項ニ依テ支給スヘシ  
一 府縣知事ハ大藏大臣ノ允可ヲ請フテ月額ヲ減スルコトヲ得

○第九款 郡區書記旅費規則

▲明治十九年九月內務省令第十五號 北海道廳 府縣 沖繩縣  
ヲ除ク

○第一類 ○行政法 ○海軍文官旅費支給方 ○集治監典獄以下旅費規則 ○警察官四百六十五  
月額旅費支給法 ○租稅檢査員旅費規則 ○郡區書記旅費規則

郡區書記ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給スヘ  
但地方ノ情况ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

### ○第十款 官林巡邏旅費規則

▲明治十九年七月農商務省訓令第十一號 府縣 大林區署設置アル府  
縣及沖繩縣ヲ除ク  
明治十三年七月内務省丙第五十四號達中旅費ニ關スル事項ヲ廢シ更ニ左ノ  
通り相定メ本年八月一日ヨリ施行ス

#### 一 雇及官林巡邏旅費規則

第一條 官林保護費ヲ以テ支給スル雇及官林巡邏旅費ハ左表定ムル所ニ  
一從ヒ之ヲ支給ス

第二條 官林巡邏擔當官林ヲ巡視スルハ其常務ナルヲ以テ旅費ヲ給セス  
殊更ニ出張申付及官林被害事件ニ付地方廳又ハ警察署等へ出張スル時  
ニ限リ旅費ヲ支給スルモノトス

第三條 前條ノ外支給方法ハ内國旅費規則ニ據ル

雇 官林巡邏	一哩每ニ	一海里每	一里每ニ	一里每ニ	一日每ニ	一日每ニ
	金四錢	金四錢	金七錢	金四錢	金五十錢	金三十錢
	漚車賃	漚船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當

參照 (明治十九年十一月農商務省訓令第十七號ヲ以テ本令表中管内日當  
金二十五錢ヲ金三十錢ト改正)

### ○第十一款 海軍生徒及雇員旅費規則

▲明治十九年七月海軍省令第七十二號

海軍一般

海軍生徒及雇員内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

#### 海軍生徒及雇員内國旅費規則

第一條 (明治十九年十月本省令第二百二十八號改正) 生徒并雇員及定備夫  
ニ旅行セシムルトキハ第一表ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第二條 華士族及平民ニ公務ノタメ旅行セシムルトキハ第二表ニ從ヒ旅  
費ヲ支給ス

第三條 生徒ニ給スル旅費ノ支給法ハ海軍々人内國旅費規則中其率ニ準  
ズ但兵學校機關學校醫學校及主計學校ノ生徒ニ漚車賃及漚船賃ノ實費

○第一類 ○行政法 ○官林巡邏旅費規則 ○海軍生徒及雇員旅費規則 四百六十七

ヲ支給スルトキハ總テ中等トス其實費ヲ支拂フトキモ亦之ニ準ス  
 第四條 艦船營備夫ハ旅費額及支給法トモ總テ海軍々人内國旅費規則中  
 其卒ニ準シテ支給ス但艦船營備夫規則第十三條ニ據テ給スル旅費ハ本  
 則ニ依ル

第五條 前各條ニ掲ル支給法ノ外ハ海軍々人内國旅費規則其他ノ成規ニ  
 據ルヘシ但同則中故ラニ官職名等ヲ掲ルモノハ此限ニ在ラス  
 海軍生徒及備員内國旅費表

區別	海軍賃		海船賃		甲車馬賃		乙車馬賃		甲日常		乙日常	
	一哩毎ニ	每ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一哩毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ		
第一 生徒并事務備及 技術備	金五錢	金五錢	金七錢	金六錢	金五錢	金五十	金四十錢					
用使給仕小使職 工及諸夫丁	金三錢	金三錢	金六錢	金四錢	金四十	金三十錢						
華族及從六位勳 六等以上ノ士民	金九錢	金九錢	金二十二	金十二錢	金一圓	金一圓						
正七位及勳七等 以下ノ士民	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七十	金五十錢						
第二 無位無勳ノ士民	金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五十	金三十錢						

参照(明治十九年十月本省令第百二十八號ヲ以テ第一表中(生徒並事務

備及技術備)ヲ(生徒並筆生技工工夫長器械手兵器保護手及監護  
 ト改正)

○第十二款 備外國人其他旅費定則

▲明治十九年七月司法省訓令第十三號

裁判所

備外國人及備員以下内國旅費定則左ノ通相定ム

但七月十日ヨリ施行スヘシ

備外國人及備員以下内國旅費定則

第一條 旅費支給ノ方法ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル

第二條 備外國人ハ旅費額三等ヲ給ス

但勳任取扱ノモノハ此限ニ非ス

第三條 備月給金十二圓以上日給金四十錢以上ハ旅費額六等ヲ給ス

第四條 備月給金十二圓以下日給金四十錢以下及給仕小使等ハ左ノ表面  
 金額ヲ給ス

第五條 赴任旅費ヲ給スルハ始審裁判所管内本支廳治安裁判所ノ間轉在  
 勤ニ限ル

○第一類○行政法○備外國人其他旅費定則

給仕小使馬丁職工等	三錢	三錢	五錢	四錢	錢三十	錢二十五
附屬雇寫字生省中取 締門番立關番駁者等	六錢	六錢	八錢	六錢	錢五十	錢四十
每哩	一	每	一	每	一	每
海	里	海	里	海	里	海
管外車管內車	管外馬管內馬	管外馬管內馬	管外馬管內馬	管外馬管內馬	管外馬管內馬	管外馬管內馬
管外日常	管內日常	管外日常	管內日常	管外日常	管內日常	管外日常

### 第十三款 徵兵検査醫旅費支給方

明治二十年二月内務省訓令第九號

府 縣

徵兵検査ノ節醫師等一時限リ雇入ノ者解雇スルトキハ該地ヨリ最初採用セシ節ハ本人居住地迄旅費ヲ支給スヘシ

### 第十四款 内國旅費支給方區分

明治十九年七月司法省訓令第十四號

裁判所

新官等級ニ就任セサル官吏旅費ノ儀ハ判事檢事年俸月割八十圓以上ハ三等旅費同六十五圓以下ハ四等旅費及判事補檢事補書記等ノ判任月俸四十圓以上ハ五等旅費同三十五圓以下ハ六等旅費支給スヘシ

明治十九年十月司法省訓令第二十六號

裁判所

管内外公務ヲ兼出張スル者及ヒ管外出張中臨時管内ノ公務ヲ爲ス者並赴任途中同斷ノ者ハ自今管外旅費ヲ支給ス但管内出張ノ者更ニ管外ニ出張スル者ハ管外ニ向テ出發ノ日ヨリ管外旅費ヲ支給ス可シ

明治二十年一月司法省訓令第二號

裁判所

旅費規則第二條ニ基キ旅費支給方左ノ通相定ム

一海路旅行ハ瀛船ノ都合ニ依リ寄港スト雖モ直路ノ瀛船賃ヲ支給スヘシ

但瀛船ノ乗替ヲナサレハ難到場所ハ此限リニ非ラス

明治二十年三月司法省訓令第十四號

裁判所

客年十二月閣令第三十四號ヲ以テ内國旅費規則附則被定候ニ就テハ其第一條ハ管外額ヲ給シ第二條ハ管外額ノ五割ヲ増給シ同條但書ハ二倍ヲ支給ス

但明治二十年度以後施行スヘシ

明治二十年五月司法省訓令第十七號

裁判所

轉任又ハ新任ノ爲メ他所ノ者ヲ呼出シ其採用應ヘ到着スルモ休暇又ハ其應ノ都合ニ依リ即日辭令書ヲ交付セサルキハ辭令交付ノ當日マテ内國旅

第一類 ○行政法 ○徵兵検査醫旅費支給方 ○内國旅費支給方區分四百七十一

費規則ノ日當ヲ支給スヘシ

▲明治二十年六月内務省訓令第三十七號

府 縣

▲明治十九年勅令第六十五號同年閣令第三十五號ノ學校職員及ヒ郡區書記  
 戶長等國庫費支辨ニ屬スル用務ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ其奏  
 任待遇ヲ受クルモノ年俸千圓ニ改算ス 已上ハ三等旅費年俸千圓未滿ハ  
 月俸ハ年額  
 四等旅費到任待遇ヲ受クルモノ月俸四十圓ニ改算ス 已上ハ五等旅費月  
 俸四十圓未滿ハ六等旅費郡區書記戶長ハ其官等準官相當旅費ヲ同年閣令  
 第十四號内國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

○第十五款 内國航路里程表

▲明治十九年七月海軍省令第八十二號 海軍一般

閣令第十四號内國旅費規則省令第七十一號同第七十二號内國旅費規則ニ  
 依リ支給スル汽船賃ハ左表ノ里數ニ依リ其給額ヲ算定ス

第一  
横濱ヨリ神戸ニ至ル航路

横濱	12
賀横須	17
賀浦	54
海熱	67
田下	74
水清	113
田半	122
市四日	183
戸神	200
戸神	228
戸神	217
戸神	279
戸神	279
戸神	309
戸神	332
戸神	340
戸神	347

第二  
東京ヨリ浦賀ニ至ル航路

東京	19
浦賀	25
横濱	12
賀横須	17
賀浦	30

第三  
東京内灣ノ航路

東京	21	葉千
浦賀	21	津更木
山館	44	山館
浦長	26	浦長
賀横須	26	賀横須
賀浦	30	賀浦
崎三	39	崎三
横濱	25	横濱
葉千	20	葉千
山館	47	山館
浦長	30	浦長
賀横須	29	賀横須
賀浦	33	賀浦
崎三	42	崎三

第四  
東京永代橋ヨリ各燈臺ニ至ル航路

品川	3
羽根	17
本燈	27
親	3
城	39
野	55
犬	121
金山	233
神子	8
石室	91
前	122
島	188
野	254

第五  
豆南諸島航路

利島	20	81
新島	24	91
式根島	26	94
神津島	29	101
三宅島	45	100
佃島	57	116
神子燈臺	5 $\frac{1}{2}$	
石室	7	

○第一類○行政法○内國航路里程表

第一類行政法内國航路里程表

**第十六**

戸神	27	島ケ管燈
	12½	埼江臺

**第十三**

戸神	65	山岡	108	156	218	240
		道尾	56	104	156	218
				島廣	50	104
						尻三

**第十七**

大坂ヨリ	航セル	神戶ヨリ	航セル	二里ヲ	ハ七里ヲ	大坂船場
西海諸港ニ	トモ	ノハ	ハ	ノ	ハ	ハ
14	8	82	14	8	82	14

**第十八**

呉ヨリ諸港航路

呉	9½	島品字
	16½	島宮
	147	戸神
	108	關馬
	27	ク濱
	90	分大
	95	山岡
	163	多博
	229	保世佐
	250	崎長

**第十四**

戸神	51	島徳	142	152	176
		知高	108	142	152
				崎須	27

**第十五**

日本内海諸港航路

濱三津	山岡	戸神	26	須
			18	石明
			30	津萬飾
			59	島豆小
			66	松高
			70	比日
			76	井津下
			76	出坂
			80	鎌丸
			98	鞆
			112	原三

**第六**

東京ヨリ	父島二見港	68
同	浮波	70
伊豆新島	108	165
内ノ島	10	531
八丈立	103	477
小笠原	880	471
父島	471	477
島群	880	471
見二島	880	471

**第七**

静岡縣下海岸航路

狩野川	18½
甲戸	15½
里瓦安	19½
子田	20½
良女	29
呂津長	37
腰ノ城	19
崎前御	34
坂舞海	71
賀氣	79
所新	78

**第九**

熱田	195
羽鳥	178
矢的	177

**第十**

勢參尾各港航路

熱田	17
津	19
社神	17
橋豐川	85

**第八**

愛知縣下海岸航路

大野	12
常須	20
師須	31
篠伊	34
須伊	37
久佐	37
神	88
坂平	43

**第十一**

和歌山川口ヨリ近港航路

日高	30
島徳	30
神	32
田	44
大	77
高	115

**第十二**

戸神	82
多度	40
今	120
三津	30
濱	68
長	18
府別	48
府別	53
府別	69
府別	96
府別	135
府別	214
府別	212
府別	182
府別	120
府別	202
府別	216
府別	187
府別	222
府別	143
府別	222



第三十 肥後諸港航路

				崎長	
			貫百		
		深牛	68	50	
	津口ノ	40	26	48	
	岡富	11	31	40	
池三	45	36	74	23	82

第二十六 呼子

10	島子帽烏
----	------

第二十七 福岡縣下海島航路

9	津今
16	島相
24	島大
25	島地
28	島呂於
42	島沖
38	屋口川

第三十一 長崎ヨリ鹿兒島ニ至ル航路

				崎長
			原島	66
		貫百	12	72
	津若後筑	85	28	92
島鹿兒	198	178	172	162

第二十八 壹岐對馬エノ航路

			崎長	
		浦郷ノ	77	
	本勝	19	86	
	戸平	32	28 $\frac{1}{2}$	54 $\frac{1}{2}$
原巖	54	81	41	

第三十二 鹿兒島ヨリ石垣ニ至ル航路

			崎長
		島鹿兒	202
	瀬名	176	373
山重八垣石	242	418	615

第二十九 長崎ヨリ竹敷ニ至ル航路

			崎長	
		島五江	55	
	同浦ノ玉	38	83	
	原巖	104	96	106
敷竹	36	115	108	121

第二十三 高知縣下海岸航路

毛宿	知高	
50	51	田下
32		水清
20		目古浦
12	86	島柏
10		地安浦
	96	毛宿

第十九 津度多

山岡	31	30	道尾ノ
----	----	----	-----

第二十 三津ヨリ馬關ニ至ル航路

				三津
			島廣	35
		關上ノ	41	30
	尻三田	29	70	59
關馬	40	61	101	92

第二十四 佐賀ヨリ鹿兒島ニ至ル航路

					關賀佐
				浦上	16
			梓白	25	28
		伯佐	25	68	66
	島細	52	105	115	119
津油	57	105	212	216	
島鹿兒	100	154	202	212	216

第二十一 自山口縣下至大分縣下航路

關馬			津中
16			74
	府別		72
	分大		69
	關賀佐		40
	島姫		

第二十五 馬關ヨリ長崎ニ至ル航路

					關馬	
				多博	60	
			津唐	30	72	
		子呼	12	30	71	
	里伊萬	30	41	60	99	
	保佐世	51	58	68	82	121
崎長	46	73	75	85	105	142

第二十二 宇和島近海航路

島字和			島月浦本
11			16
	島海明		19 $\frac{1}{2}$
	松岩		29
	越船		31
	城平		37
	浦福		39
	浦深		44
	毛宿		

第四十二 船川ヨリ近港航路

10 $\frac{1}{2}$	埼土
62	田酒
125	瀧新
241	木伏
141	館函

第四十一 新潟縣下海岸航路

39	木小
32	港夷
61	茂加
38	島生粟
197	井坂

第三十八 島根縣下海岸航路

10 $\frac{3}{4}$	來安
18 $\frac{3}{4}$	子米
12 $\frac{3}{4}$	境
17	關保美
26	屋來御
30	浦笠
37	浦賀加
57	港郷西
82	田濱

松江ヨリ各港ヘノ里程  
程三十三里ヲ加フヘシ

第四十三 横濱ヨリ函館ニ至ル航路

288	濱横
286	濱石 15
358	濱萩 90 96
360	石釜 17 96 102
377	田山 25 32 118 119
436	古宮 75 86 93 172 178
529	戸八 109 169 179 188 266 272
529	館函

第三十九 隠岐海岸航路

17	郷土海
18	府列
25	浦ノ郷

第四十五 宮城縣下近海航路

8 $\frac{1}{2}$	巻ノ石
12 $\frac{1}{4}$	濱ノ折
22	山華金
33	濱ノ野
34	川女
68	仙氣
75	渡舟大

第四十四 茨城縣下近海航路

37	瀧平
39	子鏡川

第四十 自敦賀至近港航路

36	井坂
69	石金
84	濱小
49	鶴舞
51	津宮
45	根伊

第三十五 沖繩縣下海島航路

44	港天運
49	島米久
187	島古宮 切間地下
21	島間良慶
284	島國那與
212	島東大

第三十七 山口縣下北海岸航路

9 $\frac{1}{2}$	六連島 百洲部 崎角島
11 $\frac{3}{4}$	燈臺
4	
88	82
88	48
	66
21	77
27	82
28	68

第三十四 鹿兒島ヨリ各海島航路

56	島竹
60	島黃硫
71	島黒
62	島子種 木尾赤
73	島久屋 湊一
75	島良口 部永
180	島瀨訪誠
200	島界鬼
281	島部良永

第三十三 鹿兒島縣下海岸航路

93 $\frac{3}{4}$	木加治
26 $\frac{1}{2}$	川山
39	岬佐田
79	浦片
160	根阿久
98	島額
80	浦内ノ

第三十六 馬關ヨリ小樽ニ至ル航路

208	關馬
327	境
463	賀敦 146
458	津直江 68 199 289
496	瀧新 68 194 284
547	田酒 68 121 281 322
587	崎土 54 116 175 229 372 547
689	館函 144 189 247 302 347 489 529 689
822	樽小 221 280 325 388 438 484 570 661 822

第四十六

函館	野邊地	函館	青森	大湊	野邊地
根室ニ至ル	ヨリ	ヨリ	ニ至ル		
	路	航			
	館	函			
	森	76	59	森青	
	蘭室	22	79	67	34
室根	287	290	295	63	27
					23

第四十七

函館	函館	函館	函館	函館
46	崎矢	神	白	
8				
124				
247	山	華	金	
121				
225				

第四十八

青森	既三	前松
33		50

第四十九

室根	西	納	花	中	岸	岬	走	湖
7½	列	布	咲	64	88	64	115	123
18	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
82	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
64	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
88	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
64	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
115	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬
123	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬	岬

第五十一

前松	42	82	158	170	221	330
差江	40	84	110	128	178	287
郁壽	84	96	149	178	221	330
内岩	20	79	149	178	221	330
樽小	70	79	149	178	221	330
谷宗	152	179	187	256	287	330

第五十

室根	泊	丹古	保	冠	府	別	別	取
23		63	126	157	207	152	217	

第五十二

樽小	119	182	149
奥			
島			
島			

備考

日本内海即チ瀬戸内ノ諸港ニ至ツテハ大漁船航路ト小漁船航路ト海里ノ差違ヲ生スルモノ多シ故ニ其小漁船ノミノ定期航海アル各港間ハ小漁船航路ニ依リ大小漁船共ニ航海スル各港間ハ大漁船航路ニ依リ算出スヘシ表中ノ里數ハ何レモ皆各港間ノ直航路ヲ示ス故ニ若シ横濱ヨリ萩ノ濱ニ寄港シテ函館ニ至ル海里ヲ算スルニハ横濱萩ノ濱間ノモノト萩ノ濱函館間ノモノトヲ加フヘシ

横濱神戸間ノ某港ヨリ神戸馬關間ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其神戸迄ノ里數ト神戸ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ十六里ヲ減スヘシ例ハ横濱廣島ノ直航路ヲ得ントセハ横濱神戸間ノ里數三百四十七里ニ神戸廣島間ノ里數百五十五里ヲ加ヘ十六里ヲ減スヘシ即チ横濱廣島間直航路四百八十六里ヲ得

神戸佐賀ノ關間ノ某港ヨリ佐賀ノ關鹿兒島間九州東ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其佐賀ノ關迄ノ里數ト佐賀ノ關ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ八里ヲ減スヘシ例ハ三津ヶ濱細島ノ直航路ヲ得ントセハ三津ヶ濱佐賀關間ノ里數五十六里ニ佐賀關細島間ノ里數六十六里ヲ加ヘ八里ヲ減スヘシ即チ三津ヶ濱細島間ノ直航路百十四里ヲ得

第一類○行政法○内國航路里程表

馬關以內ノ某港ヨリ同以外ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其以內以外ノ里程ヲ加フルノミヨテ別ニ某數ヲ減スルニ及ハス例ハ廣島長崎ノ直航路ヲ得ントセハ廣島馬關間ノ里數百〇一里ニ馬關長崎間ノ里數百四十二里ヲ加フヘシ即チ廣島長崎間ノ直航路二百四十三里ヲ得  
 神戸ヨリ馬關ヲ經テ長崎ニ至ル間ノ某港ヨリ長崎鹿兒島間ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其長崎迄ノ里數ト長崎ヨリ某港ニ至ル里數ヲ加ヘ二十里ヲ減スヘシ例ハ神戸ヨリ馬關ヲ經テ鹿兒島ニ至ル直航路ヲ得ントセハ神戸馬關間ノ里數二百四十里馬關長崎間ノ里數百四十二里長崎鹿兒島間ノ里數百六十二里ヲ連加シ二十里ヲ減スヘシ即チ神戸ヨリ馬關ヲ經テ鹿兒島ニ至ル直航路五百二十四里ヲ得  
 東京永代橋ヨリ觀音崎外各港ノ里程ヲ算スルニハ横濱ヨリノ里程ニ十二里ヲ加フヘシ例ハ東京永代橋ヨリ神戸マテノ里程ヲ得ントセハ横濱神戸間三百四十七里ニ十三里ヲ加フヘシ即チ其里程三百六十里ヲ得  
 犬吠崎以北ノ各港ヨリ津輕海峽ヲ經テ兩羽北陸道山陰道海岸及ヒ北海道海岸各港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ起程各港ヨリ函館ヘノ里數ト函館ヨリ到着スヘキ地ヘノ里數ヲ合セ十九里ヲ減スヘシ例ハ横濱ヨリ新潟ニ至ル直航路ヲ得ントセハ横濱ヨリ函館ヘノ里程五百二十九里ニ函館ヨリ

新潟ヘノ里程二百四十七里ヲ加ヘ十九里ヲ減スヘシ即チ横濱ヨリ新潟ヘノ直航路七百五十七里ヲ得

○第廿六章 印紙

○第一款 印紙類賣下賣捌規則

▲明治十九年八月大藏省訓令第三十八號 北海道廳 府縣

印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙類代金下付方ノ儀ハ本年當省令第二十一號印紙賣捌規則ノ改正實施前後ヲ以テ區界ヲ立テ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付該代金下付ノ請求書差出方左ノ通心得ヘシ

一 本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入出入納規則第三十三條ニ據リテ歲入下戻計算書ヲ以テ其代金ノ下戻方ヲ請フコト從前ノ通タルヘシ

一 本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ當省訓令第二十二號第十四項ニ據リテ別途之ヲ買戻スヘキモノナルヲ以テ別紙離形ニ照準買戻仕譯書ヲ副ヘ其代金下付方ヲ稟議スヘシ

但シ離形ハ主稅局ヨリ別ニ頒布ス (離形略ス)

▲明治十九年九月大藏省令第二十九號

○第一類○行政法○印紙類賣下賣捌規則

明治十七年五月三十一日以前ニ係ル印紙類賣捌人中特ニ印紙類賣下代金延納ヲ許可セシ者及身代限ノ處分ヲ受ケ賣下代金不納ノ者爾後右代金ヲ納付スル分ハ別ニ賣捌手数料ヲ給セズ納付金ノ内ヨリ該手数料相當ノ金額ヲ減スヘシ

參照(印紙類賣下賣捌規則ハ第三編第一類第二十八章第一款ニ掲出ス)

○第二款 印紙及手形用紙買上條件

▲明治十九年八月大藏省訓令第四十號 北海道廳 府縣

明治十七年當省第七十三號達中本文損傷汚染ノ分ヲ除キノ下手數料以下但書共刪除シ更ニ「手形用紙及ヒ印紙面價額十分ノ一ヲ減シタル代價ヲ以テ之ヲ買上ルコトヲ得但買上タル印紙類ハ各廳元受ニ組入レ買上代金ハ別途請求スヘシ」ノ六十二字ヲ加フ

○第三款 小切手税印捺換條件

▲明治二十年六月大藏省令第拾號

明治十二年第三拾壹號布告ニ依リ税印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第三拾壹號布告ニ依リテ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニ

シテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ税印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ルモノハ手数料トシテ一割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九拾枚ノ割合ヲ以テ税印ヲ捺換スルモノトス

參照(明治十二年第三十一號布告ハ明治七年第八十一號布告證券印稅規則ニ依リ印稅押捺ノ一項ヲ追加セラレタルモノナリ)

(明治十七年第三拾壹號布告ハ明治七年第八拾壹號布告證券印稅規則ノ改正トス即チ本書前編第一類第廿二章第壹款ニ掲出ス)

○第廿七章 貨幣

○第一款 造幣規則

▲明治十九年十二月大藏省令第三十三號

明治十九年四月大藏省令第十六號造幣規則第十三條左ノ通り改正ス

第十三條 金銀地金類ヲ大阪本局ニ輸入シテ東京又ハ橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京橫濱又ハ大阪神戸ニ於テ其拂渡ヲ望ムモノ其運賃保險料ノ割合ハ實費ニ基キ大藏大臣時々之ヲ定メ告示スヘシ

○第一類 ○行政法 ○印紙及手形用紙買上條件 ○小切  
手税印捺換條件 ○造幣規則

▲明治十九年十二月大藏省告示第百十三號  
造幣規則第十三條金銀地金ノ類ヲ東京出張所ニ輸入シ第十條ニ揭示セル  
代リ貨幣拂渡場所ノ内何レノ場所ニ於テ拂渡ヲ望ムモ運賃保險料ハ左ノ  
割合ヲ以テ納ムヘシ  
運賃保險料 成貨百圓ニ付 金參拾貳錢五厘

○第二款 貨幣通用期限

▲明治十九年十一月勅令第七拾號  
朕舊銅貨天保通寶通用禁止延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
御名 御璽

勅令第七十號

明治十七年十月第二十六號布告舊銅貨天保通寶通用禁止期限ハ更ニ明治二  
十四年十二月三十一日迄延期ス

▲明治二十年三月大藏省告示第三十四號

舊銅貨天保通寶交換ノ儀東京ハ金庫局大阪ハ同局出張所ニ於テ取扱來リ  
候處來ル四月一日ヨリ東京ハ東京國庫金出納所大阪ハ大阪國庫金出納所  
ニ於テ交換ヲ爲サシム

○第二款 紙幣通用期限

▲明治十九年七月勅令第五十號

朕拾錢紙幣通用禁止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十號

拾錢紙幣來ル明治二十年六月三十日限通用ヲ禁止ス

▲明治二十年六月大藏省令第九號

拾錢紙幣交換期限ノ儀來ル六月三十日限ノ處更ニ本年十二月三十一日迄  
延期ス依テ右期限内ニ於テ日本銀行本支店又ハ代理店へ交換方申出ツヘ

○第四款 兌換銀行券取扱方

▲明治十九年九月大藏省訓令第四十二號 北海道廳 府縣

當省令第二十八號贋造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十  
四年十一月十一日當省乙第四十號達ニ準據スヘシ

參照(明治十四年十一月大藏省乙第四十號ハ銀行紙幣贋造札描改札處分

○第一類 ○行政法 ○貨幣通用期限 ○紙幣通用期限 四百八十七

○第廿八章 火藥

○第一款 火藥取締規則

▲明治十九年十月勅令第六十七號  
除火藥取締中改正削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十七號

明治十七年<sup>十二月</sup>第三十一號布告火藥取締規則中左ノ通改正削除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟花製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用途ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用途ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百箇  
大砲一門ニ付 火藥 五十發分 導火管類 七十箇  
船舶設備銃砲用 小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十箇

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用途 火藥 二百貫目  
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第二十條 坑業土工其他職業用途ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳<sup>東京府ハ</sup>ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除ス

○第廿九章 警察

○第一款 警察巡閱規則

▲明治二十年六月内務省訓令第三十六號 警視廳 府縣<sup>東京府</sup>ヲ除ク  
警察巡閱規則左ノ通之ヲ定ム

警察巡閱規則

○第一類○行政法○火藥取締規則○警察巡閱規則

第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル紀律ノ張弛、服務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ視察シ、警察ノ實効ヲ收メシムルカ爲メニ設ケルモノトス

第二條 巡閱ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警部長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ

第三條 巡閱官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ查閱スヘキモノトス

- 一 執行事務及其報告ノ方法
- 二 執行官吏ノ配置及警邏
- 三 執行事務ノ監督及警邏ノ監督
- 四 非常召集ノ方法
- 五 司法警察即チ被告人ノ搜查、逮捕、訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等
- 六 留置人取扱及遞傳護送
- 七 諸願伺書等ニ關スル諸文書ノ取扱
- 八 違警罪及諸規則違反者處分
- 九 戸口調査及監視人ノ取扱
- 十 文書統計記錄ノ整理
- 十一 服裝姿勢及禮式

十二 教習及訓授

十三 會計經理及被服給與

十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造裝置

十五 火災消防及器具ノ使用

十六 警察上緊要ノ器具

十七 集會ニ關スル取締

十八 衛生警察殊ニ傳染病撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締

十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等

二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締殊ニ料理店貸座敷宿屋古物商質商及危險物賣買商等

第四條 巡閱官ハ警察官吏ノ風儀動作其他人民ニ對スル關係若クハ過度ナル浪費ヲナスヤヲ視察スルモノトス

第五條 警察處務ニ關スル便否及ヒ警察官ノ處分ニ關スル意見ヲ巡閱官ニ申告スルモノアルトキハ之ヲ受理查閱スヘシ

第六條 巡閱官巡閱ヲ終レハ其狀況ヲ盡シ意見ヲ付シ巡閱中ニ係ル日誌ヲ添ヘ警視總監又ハ知事ニ復命シ警視總監又ハ知事ハ其概況ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

○第一類○行政法○警察巡閱規則



○第二款 警察官吏禮式

▲明治十九年九月內務省令第十八號

廳府縣 東京府  
警察官吏禮式左ノ通之ヲ定ム

警察官吏禮式

第一條 警察官吏制裝ヲ爲シタルトキハ以下各條ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ

第二條 凡ソ禮式ヲ行フニハ姿勢ヲ正シ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ

第三條 禮式ヲ別ツコト左ノ如シ

- 一 最敬禮
- 二 敬禮

第四條 最敬禮ハ五步前ニ於テ正面ノ方向ヲ取リテ直立シ兩足ヲ整ヘ兩

手ヲ垂下シ首ヲ禮式ヲ受クヘキ人ニ對向シ其人ノ通過シ了ルノ間之ニ  
注目スヘシ

警部補以上ニ在テハ前項ノ外仍ホ禮式ヲ受クヘキ人ノ正面ニ來リタル  
トキ右手ヲ舉テ帽ニ當ツヘシ

第五條 敬禮ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ對シ五步前ニ於テ左手ヲ垂下シ右手  
ヲ舉テ五指ヲ整閉シ其第一關節ヲ帽ノ下端ニ當テ之ニ注目スヘシ

第六條 警部補以上ハ 天皇三后皇太子及皇族ニ對シテ最敬禮ヲ行フヘシ

馬上ニ在ルモノハ正面ノ方向ヲ取リ馬ヲ駐メ禮式ヲ行フヘシ道路狹隘  
ニシテ之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ韁ヲ縮メテ馬首ヲ舉テ通過ノ際右  
手ヲ舉テ帽ニ當ツヘシ

內閣總理大臣各省大臣正式勅使及東京ニ在テハ警視總監東京府知事其  
他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事並ニ上班ノ警察官ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七條 巡查ハ 天皇三后皇太子皇族內閣總理大臣各省大臣正式勅使及  
東京ニ在テハ警視總監東京府知事其他ノ府縣ニ在テハ所屬ノ知事ニ對  
シ最敬禮ヲ行ヒ其他上班ノ警察官ニハ敬禮ヲ行フヘシ

第八條 本邦駐在ノ各國公使タルコトヲ認知シタルトキハ警部補以上ニ  
在テハ敬禮ヲ行ヒ巡查ハ最敬禮ヲ行フヘシ

第九條 物品ヲ攜帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ禮式ヲ受クヘキ人  
ニ行達フタル際之ニ注目シ若シ一手ニ攜帶スルトキハ他ノ一手ハ之ヲ  
垂下スヘシ

第十條 駐立スル際禮式ヲ受クヘキ人ノ通過スルトキハ正面ノ方向ヲ取  
帽ヲ冠セサルトキ亦之ニ注目シ兩手ヲ垂下スヘシ

○第一類 ○行政法 ○警察官吏禮式

リ其儘兩手ヲ垂下シ直立スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本  
 文ノ禮式ヲ行フヘシ  
 第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌  
 ル者ノミ相當シ禮式ヲ行ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ入ニ注目スヘシ  
 第十二條 同班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ  
 第十三條 警備消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ従事スル  
 トキハ禮式ヲ行フノ限ニアラス

○第三款 警察官吏禮式心得

▲明治十九年九月內務省訓令第十九號 東京府 廳府縣ヲ除ク

警察官吏禮式心得

第一 警察官吏禮式心得  
 第二 警察官吏者ハ其上官ニ對シ從順ナルヘキハ勿論之ニ對シ禮讓  
 ナ盡サ、ル可ラズ上官タル者亦言語ハ勿論舉動ニ於テモ決シテ下班ノ  
 者ヲ凌侮シ又ハ之ヲ狎暱スヘカラス  
 第三 一般ノ官吏ニシテ公務ヲ帶ヒ其管内ヲ巡廻スル等ノコトアルトキ  
 ハ場合ニヨリ適宜之ニ對シ禮式ヲ行フコトアルヘシ

第三 禮式ヲ行フニハ如何ナル場合ト雖トモ其禮式ヲ受クヘキ人ヲシテ  
 其體ヲ轉回スル等ノ勞ナカラシメ之ニ對シ常ニ便利ノ道ヲ讓ルハ下班  
 ノ者ノ上官ニ對シ從順ナル義務ナルヲ以テ途上上官ニ出會シタルトキ  
 ハ其宜シキニ應シ右又ハ左ニ避クヘシ殊ニ狹隘ノ道路及ヒ橋梁廊下階  
 子段等ニ於テハ立止マリ上官ノ通行ヲ待ツヘシ若シ如此場所ニ於テ下  
 班ノ者既ニ進行中ナルトキハ立戻リ上官ヲシテ己レノ通過ヲ待タシメ  
 サル様注意スヘシ  
 第四 禮式ヲ行フ際ハ決シテ喫煙又ハ談笑等ヲ爲ス可ラス  
 第五 城門橋梁及ヒ狹隘ノ道路ニ於テ最敬禮ヲ行ハントスルニ方リ通行  
 人ノ妨トナルノ恐アルトキハ敬禮ヲ行ヒ最敬禮ヲ行フニ及ハス其他禮  
 式ヲ受クヘキ人合圖ヲ爲シ又ハ其他ノ舉作ニ由リ最敬禮ヲ停メタルト  
 キ亦同様タルヘシ  
 第六 下班ノ者上官ト同行スルトキハ常ニ二三歩ノ後ニ從フヘシ上官若  
 シ己レニ對シ談話セルトキハ其左側ニ副ヒ上官ト足並ノ違ハサル様注  
 意スヘシ但左側ニ副フトキハ上官ヲシテ不便利ナラシメ又ハ危險ナラ  
 シムルノ恐レアルトキハ其宜キニ應シ右側ニ副フヘキモノトス  
 第七 下班ノ者途上ニ於テ上官ニ出會シ申告ヲ爲サントスルトキハ凡ソ

○第一類 ○行政法 ○警察官吏禮式心得

其三步前ニ進ミ直立シテ申告スヘシ上官若シ歩ヲ止メスシテ進行スルコトヲ示シタルトキハ下班ノ者ハ上官ノ左側ニ副ヒ同歩シテ其申告ヲ爲スヘシ但左側ニ副ヒ上官ヲシテ不便利又ハ危険ナラシムルノ恐レアルトキハ前項但書ノ例ニ同シ

第八 上官他人ト談話スルトキハ成ルヘク之ヲ妨ケサル様注意シ此際自ラ申告セント欲スルコトアルモ先ツ暫ク差扣ヘ談話ノ終ルヲ待テ申告スヘシ

第九 上官ト同歩スル際家屋若クハ室内ニ入ラントスルトキハ下班ノ者其戸ヲ開キ先ツ上官ヲシテ之ニ入ラシムルハ勿論ナリトス

第十 警部補以上ニ在テ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘシ但下班ノ者ノ室内ニ入ルトキハ脱帽セサルモ妨ナシ

第十一 巡查帶劔シテ官署室内ニ入ルトキハ帽ヲ脱スヘカラス其劔ヲ帶セザルトキハ脱帽スヘシ

第十二 下班ノ者上官ノ室内ニ入ルトキハ其入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ

第十三 室内ニ於テ上官ニ申告ヲ爲ストキハ其三步前ニ進ミ警部補以上ニ在テハ劔ヲ左手ニ握シ帽ヲ右手ニ持テ帽ノ裏面ヲ體ニ着ケ徽章ヲ前

面ニ向ケ直立スヘシ巡查ニ在テハ劔ヲ左手ニ握シ右手ハ垂下スヘシ其劔ヲ帶セザルトキハ帽ヲ左手ニ持テ右手ハ垂下スヘシ申告ヲ終リタルトキハ徐ニ左回シテ舊席ニ復スヘシ上官ノ招呼ニ應シタルトキ亦同シ

第十四 室内ニ於テ公務ヲ談スルトキ下班ノ者上官ノ許可ヲ得ルトキハ着席スルヲ得ヘシ

第十五 上官物品ヲ下班ノ者ニ交付スルニ際シテハ其三步前ニ進ミ右手ヲ以テ之ヲ受クヘシ下班ノ者上官ニ物品ヲ呈スルトキ亦同シ

第十六 途上ニ於テ上官ノ答禮ハ舉手スヘキモノトシ下班ノ者ハ假令上官ノ答禮ナシト雖モ決シテ己レヲ輕侮シタリトシテ念ヲ懷クヘカラス

第十七 凡ソ禮式ニ上班ト稱スルハ巡查ノ警部警部補以上ニ於ケル警部警部補ノ警視以上若クハ警部長ニ於ケルカ如シ但署員ノ其署長ニ於ケル亦同シ

第十八 職務上人民ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキ之ニ答禮スルハ勿論ナラトス

○第三十章 度量衡

○第一類○行政法○警察官吏禮式心得

○第一款 毀損權衡使用方

▲明治十九年十月農商務省令第十二號  
權衡毀損シ若クハ其一部ヲ紛失セントキハ之ヲ修補シ検査ヲ經タル後使  
用スルコトヲ得  
但修補及検査ヲ受クルコトハ權衡製作人ニ於テ之ヲナスヘシ

○第二款 權衡製作ノ件

▲明治十九年十二月農商務省令第十二號  
北海道廳 府縣 沖繩縣  
度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ハ自今製作ヲ願出ルモ之ヲ許可セス

○第卅一章 標準

○第一款 道路新設變換方法標準

▲明治十九年八月內務省訓令第十三號  
北海道廳 府縣 沖繩縣  
國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自今左ニ掲クル所ノ標準ニ從ヒ其築  
造保存方法等取調差出ス可シ  
但在來ノ道路ト雖モ可成此標準ニ據リ漸次改良ヲ加フル儀ト心得ベシ  
(別紙標準ハ本編第一類第十五章第二款ニ掲ク)

○第二款 馬車人力車取締規則標準

▲明治二十年四月內務省訓令第二十八號  
應 府縣  
明治十九年六月第七號訓令乘合馬車取締規則標準第五十二條及營業人力車  
取締規則標準第十三條中驛遞局貯金預貯帳ハ八字ヲ削除ス

○第卅二章 預金

○第一款 預金取扱手續

▲明治二十年六月大藏省告示第八十五號  
明治十八年六月當省第八十八號告示預金取扱手續第一條ニ左ノ通但書ヲ追  
加シ本年七月一日ヨリ施行ス  
(但東京府下郡部ニ設置ノ國庫金出納支所ニ於テモ 各地方 預金ノ受  
渡ヲ取扱フモノトス)

○第卅三章 外交

○第一款 海上法要義宣言

▲明治二十年三月十九日勅令

朕西曆千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ澳地利佛蘭西大不列

○第一類行政法

○毀損權衡使用方○權衡製作ノ件○道路新設變換方法標準○四百九十九  
馬車人力車取締規則標準○預金取扱手續○海上法要義宣言

領普魯西、露西亞、サルチニア、及土耳其之間ニ締結セル海上法要義ニ關スル宣言ニ加盟シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

海上法ノ要義ヲ確定スル爲メ西曆千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ決定セシ宣言

千八百五十六年三月三十日巴里條約ニ署名セル各全權委員ハ茲ニ會議ヲ開キ戰時海上法ノ古來久シク痛嘆スヘキ紛議ノ原因ト爲リ且本件ニ關スル法律及ヒ義務ノ明確ナラサルハ局外中立國ト交戦國トノ間意見ノ相合ハサルハ基ニシテ隨テ容易ナラサル困難或ハ葛藤ヲ惹起スルノ恐レアルコトヲ悟リ此緊要ナル事項ニ關シ一定ノ主義ヲ設クルノ利益アル事並ニ巴里公會ニ參集セル各全權委員ニ於テ本件ニ關スル列國交際上一定ノ原則ヲ議定スルハ最モ能ク各自政府ノ希圖ニ應スルモノナル事ヲ認メリ因テ右全權委員ハ各其政府ヨリ妥當ノ委任ヲ受ケ此目的ヲ達スルノ方法ヲ協議セシコトニ決シ評議ノ上左ノ宣言ヲ採用セリ

第一 私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルハ自今之ヲ廢止スル事

第二 局外中立國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載セル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿獲スヘカラサル事

第三 敬國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載セル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿獲スヘカラサル事

第四 港口ノ封鎖ヲ有効ナラシムルニハ實力ヲ用ヰサルヘカラス即チ敵國ノ海岸ニ接到スルヲ實際防止スルニ足ルヘキ充分ノ兵備ヲ要スル事

▲明治二十年三月外務省告示第壹號

本年三月十九日勅令ヲ以テ公布相成タル西曆千八百五十六年巴里公會ニ於テ締結シタル海上法要義ニ關スル宣言ニ加盟ノ國々ハ左ノ如ク  
海上法ノ要義ヲ確定スル爲メ千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ決定ノ宣言ニ加盟セル諸國ノ名簿

第一該宣言ニ署名セシ國

佛蘭西 (France)

澳地利 (Autriche)

大不列顛 (Grande Bretagne)

普魯士 (Prusse)

露西亞 (Russie)

サルチニア (Sardaigne)

○第一類○行政法○海上法要義宣言

土耳其 (Turquie)

第二該宣言署名後ニ加盟セシメ國

バード (Bade)

千八百五十六年七月三十日

バイエルン (Baviere)

千八百五十六年七月四日

白耳義 (Belgique)

千八百五十六年六月六日

ブレム (Breme)

千八百五十六年六月十一日

ブラジル (Brasil)

千八百五十八年三月十八日

ブルンメツキッシュ (Brunswick)

千八百五十七年十二月七日

智利 (Chili)

千八百五十六年八月十三日

アルゼンチン

千八百五十六年八月十三日

イタリヤ共和國

千八百五十六年十月一日

獨逸聯邦 (Confederation Germanique)

千八百五十六年七月十日

瑞西聯邦 (Confederation Suisse)

千八百五十六年七月十六日(二十八日)

丁抹 (Danemark)

千八百五十六年六月二十五日

兩シロニア (Deux Siciles)

千八百五十六年五月三十一日

エクアドル (Equateur)

千八百五十六年十二月六日

羅馬諸州 (Etats Romains)

千八百五十六年六月二日

フランコンホルト (Frankfort)

千八百五十六年六月十七日

希臘 (Grece)

千八百五十六年六月二十日

グアテマラ (Guatemala)

千八百五十六年八月二十日

ハンブール (Hambourg)

千八百五十六年六月二十七日

ハンノーヴァ (Hanovre)

千八百五十六年五月三十一日

ハイチ (Haïti)

千八百五十六年九月十七日

ヘッセン・カッセル (Hesse-Cassel)

千八百五十六年六月四日

ヘッセン・ダルムシュタット (Hesse-Darmstadt)

千八百五十六年六月十五日

リュベック (Lunbeck)

千八百五十六年六月二十日

メクレンブルク (Mecklenbourg-Schwerin)

千八百五十六年七月二十二日

メクレンブルク

千八百五十六年七月二十二日

メクレンブルク・シュテリッツ (Mecklenbourg-Strelitz)

千八百五十六年八月二十五日

ナッサウ (Nassau)

千八百五十六年六月十八日

オルデンブーグ (Oldenbourg)

千八百五十六年六月九日

パルメ (Parme)

千八百五十六年八月二十日

和蘭 (Pays-Bas)

千八百五十六年六月七日

秘露 (Perou)

千八百五十六年十一月二十三日

葡萄牙 (Portugal)

千八百五十六年七月二十八日

○第一類○行政法○海上法要義宣言

サルヴァドル (Salvador) 千八百五十八年一月二日  
 サクソニア・アルテンブルク (Saxe Altenbourg) 千八百五十六年六月九日  
 サクソニア・コブレンツェ (Saxe Cobourg Gotha) 千八百五十六年六月二十二日  
 サクソニア王国 (Saxe Royale) 千八百五十六年六月十六日  
 サクソン・ヴァイマール (Saxe Weimar) 千八百五十六年六月二十二日  
 瑞典及諾威 (Suede et Norwege) 千八百五十六年六月十三日  
 トスカニー (Toscane) 千八百五十六年六月五日  
 ウルテンブルク (Wurtemberg) 千八百五十六年六月二十五日  
 日本 千八百八十六年十月三十日

○第二款 漂民經費償還法

▲明治二十年六月勅令第二十壹號

朕帝國ト朝鮮國トノ間ニ於ケル漂民經費償還法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十一號

一帝國ト朝鮮國トノ間ニ於テ此國政府ニテ彼國漂民ヲ救護解送シ衣食ヲ

給與シ傷病ヲ醫治シ屍身ヲ埋葬スルカ爲メニ出ス所ノ諸費用ハ彼國政府ヨリ實費ヲ計算シテ償還ス可シ  
 一船隻ヲ救護シ貨物ヲ打撈スルノ費用ハ原主ヨリ償還シ相互ニ其政府ニ向テ請求スルヲ得ス

○第三款 犯罪人引渡條約

▲明治十九年十月六日勅令

朕帝國ト亞米利加合衆國トノ間ニ締結シタル兩國犯罪人引渡條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

日本國亞米利加合衆國犯罪人引渡條約譯文

日本皇帝陛下及ヒ亞米利加合衆國大統領ハ兩國内並ニ其管轄内ニ於テ司法事務ヲ益周到ナラシメ及ヒ犯罪ヲ防止センカ爲メ下ニ掲グル犯罪ニ付有罪ノ宣告若シハ告訴告發ヲ受ケ未タ處分ヲ經スシテ逃亡スル者ハ其情狀ニ據リ互ニ之ヲ引渡スノ便宜ナルヲ認メ之レカ爲メ條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ外務大臣伯爵井上馨ヲ亞米利加合衆國大統領ハ日本駐節特命全權公使リチャード・ビー・ハッパードヲ各其全權委員ニ命

○第一類 ○行政法 ○漂民經費償還法 ○犯罪人引渡條約 五百五

セリ因テ雙方全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ誠實適式ナルヲ認メ左ノ條々ヲ議定ス

第一條 締約國一方ノ管轄内ニ於テ第二條ニ掲クル犯罪ニ付有罪ノ宣告若シハ告訴告發ヲ受ケタル者他ノ一方ノ管轄内ニ於テ發見セラレタルトキハ締約兩國政府ハ本條約ニ開列スル情狀及ヒ制限ニ遵ヒ互ニ之ヲ引渡スヘシ

第二條

- 一 謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪
- 二 貨幣ノ偽造若シハ變造、偽造若シハ變造貨幣ノ發行或ハ行使、公債證書、其利札、銀行紙幣、其他公衆ノ信用ヲ受クヘキ證書類ノ偽造並ニ其發行若シハ行使
- 三 文書ノ偽造若シハ變造並ニ其行使
- 四 監守盜即チ官吏又ハ監守人締約國一方ノ管轄内ニ於テ公金ヲ私用スル罪並ニ傭主ノ損害トナルヘキ被傭人ノ監守盜
- 五 強盜若シハ五拾弗以上ノ竊盜
- 六 重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ夜間若シハ晝間他人ノ家宅ヲ破壊シ之ニ侵入スル罪

七 重刑ニ當ル罪ヲ犯ス目的ヲ以テ官衙、國立銀行、私立銀行、貯蓄銀行、財產管理會社、及保險會社並ニ其他會社ノ家屋ヲ破壊シ若シハ破壊セシメテ之ニ侵入スル罪

- 八 偽證及偽證教唆
- 九 強姦
- 十 放火

十一 國際法ニ於テ海賊ト認ムル罪

十二 引渡ヲ請求スル國ノ旗章ヲ掲ケタル船舶大洋航行中其船内ニ於テ犯シタル謀殺、謀殺未遂犯、及ヒ其他殺人罪

十三 惡意ヲ以テ鐵道、馬車鐵路、船舶、橋梁、家屋及ヒ公用建物並ニ其他ノ建物ヲ破壊シ若シハ破壊セント謀リ其所爲人命ニ危害ヲ生スヘキモノ

十四 銀行營業者、受託人、銀行若シハ財產管理會社ノ頭取役員ノ詐偽ニシテ現行法律ニ據リ罪トナルヘキモノ

第三條 請求ニ係ル人引渡ノ請求ヲ受ケタル國ニ於テ審判中ナルトキハ之ヲ引渡スト引續キ之ヲ審判スルトハ該國ノ隨意タルヘシ但其審判該逃亡人ノ引渡ヲ請求スル罪ノ爲メニアラサルトキハ一時其引渡ヲ遲滯

○第一類行政法○犯罪人引渡條約



スルコトアルモ終ニ之ヲ拒クコトヲ得ス

第四條 若シ請求ニ係ル人ヲ政事上ノ犯罪ニ付審判シ若クハ處刑セントスルノ目的ヲ以テ引渡ヲ請求シタリト認ムルトキハ其引渡ヲ爲サハルヘシ又引渡サレタル人ハ其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪ニ付審判若クハ處刑セラレ、コト無ルヘシ

第五條 引渡ノ請求ハ締約國相互ノ外交官ヲ經テ之ヲ爲スヘシ若シ外交官其國內又ハ其政府所在ノ地ニ駐留セサルトキハ高等領事官之ヲ爲スヘシ

已ニ有罪ノ宣告ヲ受ケタル逃亡人ノ引渡ヲ請求スルニハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告文寫其裁判官ノ職權ニ付相當行政官ノ證明書及ヒ其行政官ノ職權ニ付日本又ハ合衆國ノ公使若クハ領事ノ證明書ヲ添フヘシ若シ逃亡人告訴發テ受ケタルノミナルトキハ請求國ニ於テ發シタル逮捕狀ノ公寫及其逮捕狀ヲ發スルノ根據トナリタル證據書類ノ公寫ヲ添フヘシ

逃亡人ノ引渡ハ之ヲ發見シタル國ニ於テ本罪ヲ犯シタルモノトセハ該國ノ法律ニ遵ヒ之ヲ逮捕シ及ヒ審判ニ付スヘキ刑事上ノ證據充分ナル場合ニ限ルモノトス

第六條 本條約第二條ニ掲グル犯罪ニ付告訴發テ受ケタル逃亡人逮捕

ノ爲メ相當官吏ヨリ逮捕狀ヲ發シタル旨外交官ヲ經由シ電報ヲ以テ通知アリ且該逃亡人引渡ノ請求ハ追テ本條約ノ條款ニ從ヒ之ヲ爲スヘキ

旨該外交官ヨリ保證シタルトキハ締約國政府ハ假ニ之ヲ逮捕シ相當ノ期限内即チ二月ヲ超過セサル間之ヲ監禁シ其引渡請求ノ根據ト爲ルヘキ書類ノ提出ヲ待ツヘシ

第七條 締約國ハ本條約ノ條款ニ因リ互ニ其臣民ヲ引渡スノ義務ナキモ

ノトス但其引渡ヲ至當ト認ムルトキハ之ヲ引渡スコトヲ得ヘシ

第八條 被告人ノ逮捕監禁訊問及ヒ送致ノ費用ハ其引渡ヲ請求シタル政府ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第九條 本條約ハ其批准交換後六十日ヲ經テ効力ヲ有スヘシ而シテ締約國ノ一方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシト雖モ其廢止ノ通知ヲ爲シタル後六月間ハ仍ホ其効力ヲ存スヘシ

本條約ハ可成速ニ批准シ華聖頓府ニ於テ其批准ヲ交換スヘシ

右確證トシテ雙方ノ全權委員ハ各本條約ニ通ニ署名調印スルモノナリ

明治十九年四月二十九日即チ西曆第一千八百八十六年四月二十九日東

京ニ於テ書ス

○第一類○行政法○犯罪人引渡條約

リヤイロヒトハッパード

亞米利加合衆國政府ハ前條約ニ左ノ修正ヲ爲サシコトヲ請求セリ  
第二條第一項「謀殺、謀殺未遂犯、其他殺人罪」トアルヲ「謀殺及ヒ其未  
遂犯」ト改ム

同條第四項「私用スル罪」ノ下「並ニ傭王云々」ノ十九字ヲ削除ス

同條第五項「強盜」ノ下「若クハ五拾弗以上ノ竊盜」ノ十一字ヲ削除ス

同條第十四項全文ヲ削除ス

第四條中「其引渡前ニ犯シタル政事上ノ犯罪」ノ下「若クハ其引渡ヲ許シ  
タル犯罪ノ外」ノ十五字ヲ追加ス

第六條中「相當官吏ヨリ」ノ下「妥當ノ證據アルニ依リ適法」ノ十三字並  
ニ「電報」ノ下「又ハ其他書面」ノ六字及ヒ「締約國政府ハ」ノ下「法律ノ範圍

内ニ於テ」ノ九字ヲ追加ス

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣  
示ス

帝國及亞米利加合衆國兩全權委員ノ締結記名調印シタル兩國犯罪人引渡  
條約及ヒ亞米利加合衆國政府ノ發議ニ係ル該條約ノ修正事項ヲ朕親シク

閱覽點檢セシニ能ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ總テ之ヲ嘉納批  
准シ日本帝國ニ於テ該修正ヲ加ヘタル兩國犯罪人引渡條約ヲ履行遵奉セ  
シムルコトヲ茲ニ約ス

神武天皇即位紀元二千五百四十六年明治十九年九月二十五日東京帝宮ニ  
於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 御璽

外務大臣伯爵井上 馨

西曆千八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ日本帝國及ヒ亞米利加  
合衆國ノ兩全權委員カ調印シタル犯罪人引渡條約ニ華聖頓府ニ於テ  
其批准ヲ交換スヘキノ明文アリト雖モ兩締約國ハ其批准ヲ東京ニ於  
テ交換スルコトニ議定シ又條約ノ末文ニ西曆第一千八百八十六年四  
月二十九日東京ニ於テ書スト明文アリト雖モ兩締約國ハ之ヲ西曆千  
八百八十六年四月二十九日東京ニ於テ書スト解スルコトニ議定シタ  
リ因テ今下ニ連署シタル兩名ハ本件ニ關シ各其政府ヨリ委任ヲ受ケ  
右條約批准交換ノ爲メ互ニ相會同シ雙方ノ批准ヲ精密ニ比照セシニ  
孰レモ能ク符合スルヲ以テ定式ニ隨ヒ本日之ヲ交換セリ  
右證トシテ下ニ連署シタル兩名ハ此交換證書ニ其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

○第一類○行政法○犯罪人引渡條約

西曆千八百八十六年九月二十七日東京ニ於テ

井 上 馨

リチャード・ビー・ハッパード

○第卅四章 雜則

○第一款 內務報告例

▲明治十九年九月內務省令第十七號

廳府縣 憲兵本部  
集治監 假留監

內務報告例別冊ノ通相定メ本年分ヨリ施行ス

但本例ニ矛盾スル從前ノ諸式ハ廢止ス

內務報告例

凡例

第一條 報告例ハ警視廳北海道廳府縣廳及憲兵本部集治監假留監ニ於テ法律命令ヲ執行シ或ハ權内ノ事務ヲ處分シタル事項ニ就キ緩急輕重ニ從ヒ報告スヘキ順序ヲ示スモノナリ

第二條 從前本省各局長ノ名ヲ以テ報告ヲ求メ來タリシ者アリト雖モ自今ハ一切本例ノ式ニ循ヒ本省ニ報告スヘシ

第三條 報告ヲ分テ豫報即報月報季報半年報年報ノ六種トス但事倉卒ニ起リ瞬間モ聞ク可キ者ハ固ヨリ此例外トス

第四條 豫報ハ將來日月ヲ期シテ舉行スヘキ者又ハ事變ノ兆候ヲ偵知シタル時之ヲ未然ニ報スル者月報ハ每月季報ハ每三箇月半年報ハ每半年(會計年度ニ關スル者)ハ上下半年度ニ分ツ年報ハ一箇年(會計年度ニ關スル者)ハ一周年度ニ係ル事項ヲ報告スル者トス

第五條 例目中部門ヲ分テ從前ノ即報ヲ月報ニ月報ヲ半年報若クハ年報ニ改ムル者アリ又之ニ反スルアリ各其定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 報告書差出期限從前定期アル者ト否トヲ問ハス總テ例目ノ下欄ニ於テ指定シタル時日ニ於テ各地ヲ發送スル者トス但即報ハ即時即日若クハ事ヲ了シタル日ヨリ三日以内ニ發送スヘシ

第七條 報告ノ料紙ハ(表式)ノ料紙ハ(第八條ニ依ル)他ノ文書ト混同セザルニ爲メ左ノ雛形ノ通墨線ノ罫紙ヲ用ヰ六種ニ通用スヘシ

第八條 各報告ノ記載方一事件毎ニ紙頁ヲ改メ纏メテ一括トナシ目錄ヲ料紙ニ記シ添付スヘシ

第九條 諸表ノ様式ハ各項ニ因リ大小廣狹アリ豫メ一定シ難シト雖モ成ルニシテ美濃紙一葉ニ調製スルヲ要ス其短縮シ得ヘキ者ハ半葉ニ調製ス

ヘシ但諸表諸圖面共編綴ノ爲メ四隅ニ餘白ヲ存ス可シ  
第十條 様式ニハ横線ノミヲ示スモノト雖モ進達ノ表ニハ縦線ヲ加フヘ  
キ者トス又登記スヘキ事項ナキ空欄アラハ「」ヲ填寫シテ脱漏ニ非ラ  
サルヲ證ス可シ

第十一條 諸表様式ハ已ニ頒布ノ者ト雖モ執務者ノ便ヲ圖リ茲ニ彙集シ  
テ本例ニ編入ス若シ今後令訓ニ依リ原則ノ改正ニ係ルコトアル時ハ延  
テ本例ニ及フモノトス

第十二條 茲ニ示ス所ノ例目中従前ノ令訓ニ出ルモノ、外慣例ニ因リ或  
ハ特ニ報告ヲ要スルモノ等ニシテ其式ヲ設ケサルモノハ適宜調製ス可  
シ

第十三條 凡各廳ノ經費豫算決算等ニ關スル諸報告ハ別ニ定リタル規則  
ニ依準ス可シ

内務報告例目

豫報

第一 府縣會開設

適

用

發送期日

第二 府縣會ニ發付スヘキ議案

明治十七年十二月  
五日坤庶第九一六  
號訓示

即報

第一 管内布達諸件

第二 廳府縣分課廢置

第三 郡區長委任條件

第四 臨時府縣會及常置委員急  
施會決議諸件

第五 營業稅雜種稅課目課額

第六 府縣會閉場

第七 議長副議長改選

第八 府縣會開設中景况

第九 地方ニ於テ定メタル違警  
罪目

第十 火藥類賣買營業免許並火  
藥庫設置許可

第十一 銃砲賣買營業免許

第十二 囚人ノ特赦特典減等

第十三 集會條例違犯者處分

十三年第十七號布告  
第八條及十五年十二  
月乙第七三號內藏達  
十三年四月第十五號  
布告府縣會規則第十  
一條

十四年八月第七十七  
號公達  
十八年一月第一號公  
達第一項  
五年正月第二十八號  
布告  
十四年十月第八十一  
號公達監獄則第二十  
五條及第五十八條  
十三年五月六日番外達

○第一類○行政法○内務報告例

第十四	囚徒反獄越獄及逃走	十七年四月四日內達
第十五	假出獄停止	十八年九月司法省丙第七號
第十六	廳府縣ヨリ徒流刑禁獄及懲役終身囚徒收監濟警察署諸裁判所等ノ位置ノ圖面	十七年八月十五日假留監へ達
第十七	國庫ノ補助ヲ要スル土木工事落成	十五年二月乙第十號達
第十八	國縣道竣功	十八年三月土丁第三號達
第十九	傳染病流行ノ徵候	十九年五月省令第四號
第二十	避病院ノ開設	十九年三月省令第一號
第二十一	檢疫委員ノ設置	同上第十八項
第二十二	警察費警察廳舍建築修繕費豫算議決額	同上第十九項
第二十三	月報	十五年十月乙第五十六號達
第一	新聞紙(雜誌)發行高	十六年五月十日訓示
第二	在監人月末現在	十九年五月省令第七號
第三	官沒地	十八年二月外第一七三號及同年十二月發第三三七號地理局長通知

第一	土地增減	十九年三月省令第一號第五第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	四月七 月十日
第二	土地貸渡	十九年三月省令第一號第五十三項并八年五月乙第六十五號達第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第三	地種目變換	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第四	傳染病患者	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第五	同上在監人患者	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第一	半年報	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第二	新聞紙雜誌開廢業及定期變更	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第三	廳府縣官及郡區町村吏	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第四	地方事務並ニ管内ノ景況	十九年三月省令第一號第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百	同 上
第五	河川港灣土木竣功	十八年一月乙第四號達	同 上

第一類〇行政法〇內務報告例

第五	國縣道道幅取擴落成	十九年三月省令第一號	同	上
第六	中毒	十一年十二月乙第八十八號達	同	上
第七	社寺ノ改稱及移轉廢合	十一年九月乙第五十七號達	同	上
第八	官社社入金遺拂並豫備蓄積金處分	十八年五月甲第十六號達	同	上
第九	官社經費ヲ以テ常用器用品新調修繕處分	同	同	上
第十	官社不用ノ建物古材賣却處分	同	同	上
第十一	官社社營建物改造修繕處分	同	同	上
第十二	官社寄付物品處分	同	同	上
第十三	官社神官派出出京養病歸省處分	同	同	上
第十四	社寺廢合跡建物處分	同	同	上
第十五	社寺什物祠堂金處分	同	同	上
第十六	社寺官有地境內木竹伐採處分	同	同	上
第十七	社寺明細帳ノ異動	十二年六月乙第三十一號達取調心得第十一項	同	上
第十八	離末本寺換	十一年二月乙第八號達	同	上
第十九	社寺創立再興復舊建築火災	十五年十一月乙第五十九號達ノ後半	同	上

第二十 同上建設延期

十九年三月省令第一號第四項

第二十一 社寺由緒アル地所建物處分同上第三項

同 同 上 上

年報

第一	戶口表	十九年五月省令第三號	同	三月二十日
第二	人口出入表	同	同	上
第三	本籍人族別表	同	同	上
第四	本籍生年別人口表	同	同	上
第五	本籍出生死亡及婚姻表	同	同	上
第六	市街及島嶼現住人出生死亡表	同	同	上
第七	就除籍送入籍及逃亡失踪表	同	同	上
第八	耕作及捕魚採藻業戶數表	同	同	上
第九	賞與施行表	十八年十二月內農甲第三十八號達	同	每六年目
第十	死亡者年齡區分表	十八年十月甲第三十三號達	同	三月二十日
第十一	濟貧恤窮施行表	十五年十一月乙第六十二號達	同	四月二十日
第十二	行旅死亡人埋葬表	十五年十一月乙第六十一號達	同	二月二十日

第一類 ○ 行政法 ○ 內務報告例

第十三	棄兒並養育費	十六年五月乙第二十三號達	二月二十日
第十四	通常府縣會決議諸件	十三年第十六號布告	一月三十一日
第十五	地方稅一周年出納決算	第七條十五年十二月乙第七十二號達	十一月三十日
第十六	備荒貯蓄金總出納精算	十三年十一月內藏乙第三十八號達	二月二十日
第十七	區町村費收支取調	十八年九月甲第二十號達	翌年度末
第十八	府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者	十四年十二月乙第六十號達	四月二十日
第十九	地方稅ノ經濟ニ於テ土地建物ノ買上及拂下	十九年三月省令第一號第十四項	二月二十日
第二十	府縣官舎ノ内官宅警察署郡區役所等ノ建築	同上第二十二項	同上
第二十一	警察區畫及配置官吏	十九年五月省令第七號	同上
第二十二	盜難及盜難物	同上	同上
第二十三	盜贓物發見ノ事由及品目	同上	同上
第二十四	火災	同上	同上
第二十五	變死及棄兒	同上	同上
第二十六	自殺者ノ年齡及因由	同上	同上
第二十七	自殺者ノ所爲	同上	同上

第二十八	殺害セラレシ者ノ因由	十九年五月省令第七號	二月二十日
第二十九	賭博犯ノ件數及人員	同上	同上
第三十	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料	同上	同上
第三十一	賭博犯處罰人ノ犯數及年齡	同上	同上
第三十二	就捕犯罪人員	同上	同上
第三十三	救護	同上	同上
第三十四	監視人員	同上	同上
第三十五	取締ニ關スル諸營業	同上	同上
第三十六	娼妓貸座敷業及密賣淫者ノ處罰	同上	同上
第三十七	警察上ニ死傷セシ人員	同上	同上
第三十八	警察上ノ褒賞及給助	同上	同上
第三十九	監獄吏及雇	同上	同上
第四十	某(監獄署)在監有籍者ノ府縣別及無籍者ノ年齡	同上	同上
第四十一	未決者ノ出入及在監罹病延人員	同上	同上
第四十二	已決囚ノ出入及在監罹病延人員	同上	同上
第四十三	刑名ニ對スル已決囚出監時遷善ノ狀況	同上	同上

○第一類○行政法○內務報告例

第四十四	已決出監時遷善ノ狀況及年齡等ノ關係	同	上	同	上
第四十五	在監人ノ作業	同	上	同	上
第四十六	懲治者ノ出入及在場罹病延人員	同	上	同	上
第四十七	新入懲治者ノ入場度數及年齡等ノ關係	同	上	同	上
第四十八	懲治者出場時遷善ノ狀況及工技學藝ノ進否	同	上	同	上
第四十九	別房留置者及携帶乳兒ノ出入延人員	同	上	同	上
第五十	在監人ノ賞與及懲罰	同	上	同	上
第五十一	在監人ノ死亡	同	上	同	上
第五十二	在監人工錢ノ收入及給與	同	上	同	上
第五十三	請願巡查費用收支	十四年四月乙第二十二號達	上	五月二十日	十一月三十日
第五十四	火藥營業者ノ賣買シテ種類數量	十八年一月第一號公達第二項	上	一月二十日	一月二十日
第五十五	土木工費總計表	十九年二月甲第二號達九	上	二月二十日	二月二十日
第五十六	風水害表	十九年九月乙第四十九號達	上	十月二十日	十月二十日
第五十七	種痘明細表	十九年三月省令第二號四	上	二月二十日	二月二十日
第五十八	醫事及娼妓徵毒検査表	同	上	同	同
第五十九	阿片賣買特許藥舖鑑札	十九年三月省令第一號第十五項	上	同	同

第六十	阿片製造鑑札下付	同上第十六項	同	同	上
第六十一	劇藥配伍ノ賣藥許否	同上第十七項	同	同	上
第六十二	土地ニ關スル收入未收入	十四年二月乙第十一號達普通官有地ニ屬スル收入總計及十八年九月内農兩省第三十九號達	上	出納閉鎖後一月以内	上
第六十三	外國人賃地收入未收入	同	上	同	上
第六十四	神社并神官	十二年六月乙第三十三號及十八年七月甲第二十三號達	上	二月二十日	二月二十日
第六十五	寺院佛堂并住職	同	上	同	上
第六十六	社寺官有地境内木竹伐採數	同	上	同	上
第六十七	古社寺保存資金下付ノ監護	時々ノ訓令ニ依ル	上	十二月二十日	十二月二十日
第六十八	神佛敎務所説敎所現數	十七年十月乙第三十七號及十八年七月甲第二十三號達	上	二月二十日	二月二十日

(報告例諸表様式略ス)

▲明治三十年一月内務省訓令第五號

自今新ニ發スル所ノ省令訓令中ニ於テ期限ヲ定メ報告ヲ要スル旨ヲ記載シタルトキハ其報告ノ種類ニ依リ同時内務報告例目ニ追加シタル儀ト心得ヘシ

廳府縣 憲兵本部  
集治監 假留監

○第一類○行政法○内務報告例



▲明治二十年一月內務省訓令第四號

北海道廳 府縣

明治十二年六月內務省乙第三十三號達中社寺官有地境內木竹伐採員數表及同十九年九月內務省令第十七號內務報告例中年報第六十六項ノ事項ハ自今報告ニ及ハス

▲明治二十年五月內務省訓令第三十三號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

明治十九年九月內務省令第十七號內務報告例中半年報第八項第九項第十三項ハ自今報告ニ及ハス

▲明治二十年三月內務省訓令第十八號

官國幣社

各社ヨリ當省ヘノ稟申及報告之儀本年三月限り相廢ス同年四月以降渾テ其地方廳ヘ申出ヘシ

▲明治二十年三月內務省訓令第十九號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

官國幣社ヨリ當省ヘノ稟申及報告之儀本年三月限り相廢ス同年四月以降ハ渾テ其地方廳ニ於テ受理シ左ノ件々ハ當省ヘ報告スヘシ

即報

國幣社例祭異動

風火災

盜難

宮司死去

宮司除服

半年報

保存金受拂精算

社入金受拂精算

非常豫備金並蓄積金異動 同

參照 (明治十九年九月二十七日內務省令第十七號ヲ以テ內務報告例ヲ定メ左ノ諸達廢止セラレ)

▲明治十九年九月內務省令第十六號

廳府縣 集治監 假留監

明治八年九月當省乙第百十五號達府縣官員異動届○九年三月同乙第二十八號達十年七月同乙第六十一號達十七年四月同乙第二十二號達一般人民警察上賞

與施行表及ヒ警察吏員吊祭扶助療治料施行表及ヒ一般人民吊祭扶助療治料施行表○九年十二月同乙第百三十六號達但書官沒品取扱方ノ件○十年三月

同乙第三十四號達中人民所藏ノ軍用銃砲彈藥獻納處分擠届○十一年三月同乙第三十一號達警察署明細書○十二年一月內藏乙第六號達勸業委託金出納

當省ヘ報告ノ分○十二年六月當省乙第三十一號達末項十五年十一月同乙第五十九號達但書神官住職任免死亡○十三年四月同乙第十六號達祠官祠掌犯罪

○第一類○行政法○內務報告例

○十三年十一月內藏第三十八號達第十一條備荒儲蓄三箇月報當省へ報告ノ分○十三年十一月當省乙第四拾六號達巡查懲罰金賣淫罰金巡查還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分方○十五年三月同乙第拾七號達賣淫罰金支拂届出ノ内末項尤以下二十一字○十五年十一月同乙第六十四號達神社附屬ノ講社結集○十五年十一月同坤甲第三六二號達地方稅經濟ニ屬スル土地調及地方稅經濟中府縣廳官舎其他建物調及官舎倉庫將來使用ノ見込アル分人民へ貸渡願末○十六年三月同乙第三十三號達在監人中傳染病患者一周申報○十六年四月同乙第十三號達遺失物公賣金前年度分○十六年五月同乙第二十號達傳染病患者申報○十七年三月同訓示看守押丁賞與届○十七年五月同乙第二十六號達世書賭博犯過料金納付濟○十八年五月同甲第十五號達警察費及警察廳舎建築修繕費原案額○十九年二月同甲第四號及乙第一號達徒流刑禁獄及懲役終身等ノ囚徒變死以上二十件右廢止ス

○第二款 裁判官檢察官會同巡視規程

▲明治二十年一月司法省訓令第四號

裁判所

裁判官檢察官會同巡視規程左ノ通相定ム

第一章 裁判官及檢察官ノ會同

第一條 各裁判所

大審院控訴院始審裁判所ヲ包含ス

ノ長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ

爾後二年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ

第二條 會同裁判官ハ法律規則ノ實際適用上改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十一條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

第三條 司法大臣ハ法律規則草案ノ會議ヲ要ス可シト認ムルモノニ付會同裁判官ノ會議ヲ開カシムルコトアルヘシ

第四條 司法大臣ハ法律規則其他ノ事項ニ付書面若クハ口頭ヲ以テ會同裁判官ニ諮問シ其意見ヲ陳述セシムルコトアルヘシ

第五條 檢察長

大審院控訴院ヲ包含ス

及ヒ各始審裁判所上席檢察事ハ明治二十年

ヲ以テ初トシ爾後二年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ

第六條 會同檢察官ハ其主管事務ニ關スル法律規則ノ改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十五條ニ掲ケタル事項ニシテ報告書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス可シ

第七條 裁判官會同ニ付キ第三條第四條ニ定メタル規則ハ檢察官會同ニ

付テモ亦之ヲ適用ス

○第一類 ○行政法 ○裁判官檢察官會同巡視規程

第二章 裁判官及ヒ檢察官ノ巡視

第八條 各控訴院長ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

東京大阪ノ兩控訴院長ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ管内ヲ二區ニ分割シ其院ノ評定官一名ヲシテ一區ノ巡視ヲ分擔セシムルコトヲ得

第九條 各始審裁判所長ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十條 控訴院始審裁判所ノ會計主務官ハ院長所長ニ隨ヒ巡視ヲ爲スコトヲ得

第十一條 裁判官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス  
一 裁判事務

二 司法行政事務

三 會計事務

四 公證人ニ關スル事務

五 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項

始審裁判所長ハ前項ノ外登記事務ヲ視察ス可シ

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ巡視ヲ終リタル後二十日內ニ視察ノ

事項ヲ記載シタル報告書ヲ作り直チニ之ヲ司法大臣ニ送呈ス可シ

第十三條 各控訴院檢事長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十四條 各始審裁判所上席檢事ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十五條 檢察官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス  
一 檢察事務

二 未決囚監獄ノ狀況

三 司法警察事務

四 法律命令執行ノ利弊

五 代言人ニ關スル事務

六 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項  
第十六條 裁判官巡視ニ付第十二條ニ定メタル規則ハ檢察官巡視ニ付テモ亦之ヲ適用ス  
第十七條 第八條第九條第十三條及ヒ第十四條ニ記載シタル各官ハ司法

○第一類○行政法○裁判官檢察官會同巡視規程

大臣ノ認可ヲ經テ發應ノ定日ヲ變更スルコトヲ得

▲明治二十年三月司法省訓令第十一號

控訴院 始審裁判所 同支廳(上席判事) 上席檢事

各始審裁判所支廳上席判事ハ本廳長ノ代理ヲ爲シ上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フヲ以テ爾後上席判事ハ本廳長上席檢事ハ本廳上席檢事管内巡視ノ每翌年四月一日其廳ヲ發シ各支廳管内治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得但其規程ハ裁判官檢察官會同巡視規程第二章始審裁判所長及上席檢事ニ付定メタル條則ニ準シ報告書ハ本廳ヲ經由シテ司法大臣ニ送呈スル儀ト心得可シ

○第三款 判事登用規則

▲明治十九年八月司法省告示第三號

明治十七年太政官第百二號達第六條ニ依リ判事登用試驗科目ヲ定ムル左ノ如シ

日本刑法 日本治罪法 民事訴訟手續 財產法 契約法 賣買法 證據法

參照(明治十七年太政官第百二號達判事登用規則ハ續編第一類第廿八章

第十四款ニ掲出ス)

▲明治十九年十一月司法省訓令第二十七號 始審裁判所長 上席檢事

本年五月司法省訓令第四號筆記試驗ハ支廳上席判事檢事ニ分任ス可シ但本令ニ牴觸スル從前ノ指令ハ廢止ス

參照(明治十九年五月司法省訓令第四號ハ現任ノ判事補檢事補及書記筆記試驗ノ件)

○第四款 臨時建築局職制

▲明治十九年七月勅令第五十九號

朕茲ニ臨時建築局副總裁ヲ置クコトヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第五十九號

本年二月第十二號達臨時建築局職員總裁ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ

副總裁 一人 勅任

○第五款 土木監督區署位置

▲明治十九年七月內務省令第十四號

府 縣 沖繩縣 除ク

○第一類 ○行政法 ○判事登用規則 ○臨時建築局職制 ○土木監督區署位置

府縣土木監督區署位置左ノ通定ム

第一區 下總國東葛飾郡關宿

第二區 陸中國西磐井郡一ノ關

第三區 越後國中蒲原郡西鳥屋野島新田

第四區 攝津國大阪

第五區 阿波國名東郡德島

第六區 筑後國御井郡久留米

▲明治二十年五月內務省訓令第三十一號

府 縣 沖繩縣  
ヲ除ク

第五區土木監督區域內安藝備後周防長門出雲石見隱岐ノ七國ヲ當分ノ内  
第六區土木監督署ノ所轄ニ屬ス

○第六款 官國幣社神職待遇

▲明治二十年三月閣令第四號

官國幣社ノ神官ヲ廢シ更ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司  
禰宜  
注典

宮司ハ內務省ニ於テ之ヲ補シ禰宜主典ハ北海道廳府縣ニ於テ之ヲ補ス  
靖國神社宮司以下ハ陸軍省海軍省ニ於テ之ヲ補ス  
宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ク禰宜主典ハ判任ノ待遇ヲ受ク

○第七款 官國幣社保存金額

▲明治二十年三月內務省訓令第十五號

北海道廳 府縣 沖繩縣  
ヲ除ク

官國幣社保存金明治二十年度以降十五年間左ノ通配付ス地方廳ニ於テ其  
出納ヲ嚴查シ永久保存ノ方法ヲ設クヘシ

但從前ノ經費及官費營繕ハ十九年度限リ廢止ス

官國幣社保存金

官幣大社

金千六百七拾五圓 賀茂別雷神社	金千六百五拾五圓 賀茂御祖神社
金千五百九拾五圓 男山八幡宮	金千五百九拾五圓 松尾神社
金千五百九拾五圓 平野神社	金千五百九拾五圓 稻荷神社
金千五百七拾九圓 大神神社	金千五百九拾貳圓 大和神社
金千五百九拾四圓 石上神社	金千六百七拾九圓 春日神社
金千五百九拾六圓 廣瀨神社	金千五百九拾四圓 龍田神社

○第一類○行政法○官國幣社神職待遇○官國幣社保存金額 五百三十三

金千六百七拾九圓	丹生川上神社	金千五百八拾八圓	枚岡神社
金千五百八拾七圓	大鳥神社	金千五百七拾九圓	住吉神社
金千五百七拾九圓	生國魂神社	金千五百八拾六圓	廣田神社
金千五百五拾六圓	氷川神社	金千五百五拾六圓	安房神社
金千五百五拾六圓	香取神社	金千五百五拾六圓	鹿島神社
金千五百五拾六圓	三島神社	金千七百九拾六圓	熱田神社
金千六百五拾四圓	日吉神社	金千八百七拾五圓	兩神宮
金貳千八拾三圓	出雲大社	金千七百三拾壹圓	宇佐神社
金千五百五拾六圓	霧島神社	金千五百五拾六圓	伊弉諾神社
金千五百五拾六圓	香椎宮	金千五百五拾六圓	崎宮
官幣中社			
金千六拾三圓	八坂神社	金千百拾圓	鹿兒島神宮
金千六拾四圓	白峯宮	金千四拾壹圓	赤間宮
金千五拾貳圓	水無瀬宮	金千四拾壹圓	鎌倉宮
金千四拾壹圓	井伊谷宮	金千百七拾圓	八代宮
金千四拾八圓	梅宮神社	金千四拾壹圓	貴船神社
金千五拾圓	大原野神社	金千四拾壹圓	吉田神社

金千四拾壹圓	日枝神社	金千五拾九圓	北野神社
金千貳百拾貳圓	月山神社	金貳千八百六拾圓	宗像神社
金千四拾壹圓	金鑽神社	金千四拾壹圓	建部神社
金千四拾壹圓	多賀神社	金千四拾壹圓	竈山神社
金千四拾壹圓	宮崎宮		
官幣小社			
金千七百六拾八圓	札幌神社	金八百七拾三圓	鶴戶神宮
金八百五拾三圓	太宰府神社	金七百九拾七圓	生田神社
金七百九拾七圓	長田神社	金七百九拾七圓	大國魂神社
別格官幣社			
金八百八圓	談山神社	金七百九拾七圓	護王神社
金七百九拾七圓	小御門神社	金八百六拾六圓	菊池神社
金七百九拾七圓	湊川神社	金八百貳拾五圓	名和神社
金八百拾四圓	阿部野神社	金七百九拾八圓	藤島神社
金八百三圓	結城神社	金八百四拾九圓	豐榮神社
金七百九拾七圓	建勳神社	金千百貳拾貳圓	豐國神社
金八百六拾九圓	東照宮	金七百九拾七圓	常磐神社

○第一類○行政法○官國幣社保存金額

金八百八拾三圓 照國神社 金七百九拾七圓 靈山神社  
金八百拾四圓 梨木神社

國幣中社

金千四拾壹圓	取國神社	金千四拾壹圓	靜岡淺間神社
金千四拾壹圓	山梨淺間神社	金千四拾壹圓	寒川神社
金千四拾壹圓	鶴岡八幡宮	金千四拾壹圓	玉前神社
金千四拾壹圓	南宮神社	金千四百四拾貳圓	諏訪神社
金千四拾壹圓	貫前神社	金千百拾三圓	日光二荒山神社
金千四拾壹圓	宇都宮二荒山神社	金千三百七拾壹圓	都々古別神社
金千四拾壹圓	伊佐須美神社	金千貳百九拾九圓	志波彦神社
金千百拾三圓	大物忌神社	金千三百七拾三圓	若狹彦神社
金千四拾六圓	氣比神社	金千四拾壹圓	氣多神社
金千四拾壹圓	射水神社	金千四拾壹圓	彌彦神社
金千六拾四圓	出雲神社	金千八拾五圓	籠神社
金千八拾五圓	出石神社	金千四拾壹圓	宇倍神社
金千七拾八圓	熊野神社	金千四拾壹圓	水若酢神社
金千八拾五圓	海神社	金千四拾壹圓	中山神社

金千九拾六圓	安仁神社	金千九拾六圓	吉備津神社
金千百拾三圓	嚴島神社	金千四拾壹圓	山住吉神社
金千七拾九圓	熊野座神社	金千九拾圓	忌部神社
金千九拾圓	大麻比古神社	金千四拾壹圓	田村神社
金千四拾壹圓	大山祇神社	金千百拾七圓	土佐神社
金千四拾壹圓	高真神社	金千百三拾三圓	西塞多神社
金千百拾四圓	田島神社	金千百六拾八圓	阿蘇神社
金千百七拾五圓	長崎住吉神社	金千百七拾五圓	海神社
金千四拾壹圓	事比羅宮	千三百七拾壹圓	大洗磯前神社
金千四拾壹圓	美保神社	金千四拾壹圓	伊太祁曾神社
金千四拾壹圓	新田神社		

國幣小社

金八百六拾九圓	砥鹿神社	金八百六拾九圓	小國神社
金七百九拾七圓	水無神社	金七百九拾七圓	駒形神社
金八百貳圓	岩木神社	金百五拾九圓	湯殿山神社
金八百拾六圓	古四王神社	金八百七拾六圓	白山比咩神社
金七百九拾七圓	度津神社	金九百貳圓	天神山神社

○第一類○行政法○官國幣社保存金額

金八百貳拾五圓	日御碕神社	金八百四拾九圓	物部神社
金八百九圓	沼名前神社	金七百九拾七圓	玉祖神社
金七百九拾七圓	英彦山神社	金八百七拾三圓	都農神社
金七百九拾七圓	枚聞神社	金千拾四圓	函館八幡宮
金七百九拾七圓	眞清田神社	金七百九拾七圓	伊和神社

○第八款 本初子午線經度標準

▲明治十九年七月勅令第五拾壹號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五拾壹號

一英國グリニッチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本

初子午線トス

一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス

一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

○第九款 辭職官吏就職制限

▲明治二十年四月閣令第九號

各官廳

各官廳ニ奉仕スル官吏ニシテ辭職シタル者ハ辭職後滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ再ヒ就職スルヲ許サス且官等俸給共ニ前官ニ超越スルヲ得ス

▲明治二十年四月二十六日內閣訓令

各官廳

閣令第九號發布當日以前ニ辭職シタル官吏ハ本令ヲ適用スルノ限コアラ

○第十款 乘馬飼養令

▲明治十九年七月司法省訓令第十六號

裁判所

乘馬飼養令第五條ニ依リ陸軍省ニ納付スヘキ金員ハ本年度以後ハ毎月國庫金取扱所ニ預ケ入レ其預リ書ニ一人別飼養料ノ金額及官姓名俸給ヲ詳記シタル書面ヲ添第一調馬隊總町區ニ送付スヘシ但舊手續ニ據リ已ニ徵收濟ノ分ハ一旦下戻シ更ニ本文ノ手續ヲ爲ス可シ

○第一類 ○行政法 ○本初子午線經度標準 ○辭職官吏就職 五百三十九



○第十一欸 勸業諮問會心得條件

▲明治十九年十二月農商務省訓令第二十號 北海道廳 府縣

明治十六年七月當省第八號達中第十一項第一及七第十四項第二左ノ通更正

第十一 勸業委員ノ選舉

勸業委員ハ每郡區役所管轄部内ニ四名以内トス但一部内四名ヲ以テ積算シ其總人員内ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ増減スルハ妨ナシ

第十四 勸業委員費

勸業委員ニ月手當金ヲ給スヘキ必要アルトキハ之ヲ區町村費ヨリ支辨シ或ハ府縣會ノ決議ヲ經テ全部若シハ其幾分ヲ地方稅中勸業費ヨリ支出スルコトヲ得其月手當額ハ一名金五圓以内トス但第十一項第一ノ總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額内ニ於テ互ニ増減支給スルハ妨ナシ  
勸業上ニ關シ勸業委員ヲ北海道廳府縣廳ニ招喚スヘキ要用アルトキハ其旅費日當ハ地方稅中勸業費ヨリ支給スヘシ

○第十二欸 農事巡迴教師手當

▲明治二十年三月農商務省訓令第六號 府縣

明治十八年八月當省第三十三號達ニ據リ二十年度乙部農事巡迴教師巡迴地方左ノ通相定メ手當金一名ニ付金五拾圓ヲ支給ス

養蠶業ノ部

- |       |     |      |      |     |      |
|-------|-----|------|------|-----|------|
| 長崎縣   | 茨城縣 | 栃木縣  | 愛知縣  | 静岡縣 | 宮城縣  |
| 島根縣   | 鳥取縣 | 岡山縣  | 廣島縣  | 山口縣 | 和歌山縣 |
| 高知縣   | 德島縣 | 愛媛縣  | 福岡縣  | 大分縣 | 熊本縣  |
| 佐賀縣   | 宮崎縣 | 鹿兒島縣 |      |     |      |
| 製茶業ノ部 |     |      |      |     |      |
| 新潟縣   | 岐阜縣 | 石川縣  | 富山縣  | 福井縣 | 島根縣  |
| 岡山縣   | 廣島縣 | 山口縣  | 和歌山縣 | 高知縣 | 德島縣  |
| 愛媛縣   | 佐賀縣 |      |      |     |      |

○第十三欸 埋造物掘得届出方

▲明治十九年十月宮内省達第十三號 北海道 府縣

明治十年九月内務省甲第二十號布達ノ件ハ自今當省ニ届出ツヘシ

○第一類○行政法 ○勸業諮問會心得條件 ○農事巡迴教師 五百四十一

參照(明治十年九月內務省甲第二十號布達ハ埋造物掘得タル節届出方  
ノ件ナリ前編第一類第廿四章第二款ニ掲出ス)

### ○第十四款 三大節賀表書式

▲明治十九年十月宮内省達第十一號

自今京都御所新年參賀式及紀元節天長節ノ參賀ヲ廢ス

▲明治十九年十月宮内省達第十二號

新年紀元節天長節賀表書式左ノ通改正ス

賀表書式

- 一書式ヲ別テ四種トス其第一ハ准委任以上第二ハ非役有爵者同從六位以上同勳六等以上ノ賀表書式トス其第三ハ判任官准判任第四ハ非役正七位以下同勳七等以下ノ參賀言上書式トス其料紙ハ大奉書ヲ用ユ可シ但シ便宜ニ依リ美濃紙薄葉ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ
- 一賀表ハ新年ニ朝拜シ又ハ新年紀元節天長節ニ宮内省へ參賀シ得ヘキ身分ニシテ他所出張或ハ在勤在任ノ者ハ書式ノ通り認メ直ニ式部職ヲ經テ上ル可シ但シ奏任官並准委任ハ連名ヲ以テ上ルモ便宜タル可シ
- 一判任官准判任ハ所屬廳へ參賀ス可シ内閣省元老院廳府縣各廳ノ長官臨時

建築局ハ總裁内閣中會計ハ所轄判任官ノ參賀及出張若クハ各所在勤者  
檢査院鐵道局ハ其長官

ノ賀表ヲ受ケ參賀言上書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可シ其所屬廳

へ參賀又ハ賀表差出サセ方ハ各廳ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ但シ郵送ス

ル賀表ニ取纏ル爲メ時日ヲ要スル時ハ數日ノ後言上スルモ妨ケナシ

陸海軍兵卒生徒等ニシテ正七位以下勳七等以下ヲ有スル者ハ總テ本項

ノ例ニ准シ書式ノ通り認メ上ル可シ

一神官判任ハ其長官ニテ參賀ヲ受ケ書式ノ通り認メ式部職ヲ經テ上ル可

シ若シ長官不在ニシテ代理者判任ナル時ハ一同直ニ内務省へ賀表ヲ差

出シ同省ヨリ第三書式ニ准シ認メ上ル可シ

一北海道廳判任官在京ノ節ハ内閣へ地方判任官神官判任在京ノ節ハ内務

省へ參賀シ又判任官ニシテ其長官ニ從ヒ他所出張中ハ長官參賀ヲ受ケ

書式ノ通り認メ上ル可シ

一非役正七位以下同勳七等以下ノ者ハ所在地方廳へ參賀シ該廳懸隔ノ地

ニ在ル者ハ賀表ヲ差出ス可シ其賀表書式並差出サセ方ハ地方廳ノ適宜

ニ依ル尤其廳長官ヨリ書式ノ通り認メ上ル事第三項ノ例ニ准ス

一有爵者及從六位以上勳六等以上ニシテ判任官奉職ノ者ハ第二書式ニ依

リ認メ上ル可シ又正七位以下勳七等以下ニシテ等外或ハ雇等ノ名義ヲ

### ○第一類○行政法○三大節賀表書式

以テ官廳ニ使用セラル、者ハ所在地方廳ニ參賀ス可シ該廳懸隔ノ地ニ在ル者ハ第六項ニ准ス  
一祝節ニ當リ艦船ニ乗組又ハ航海中ノ者ハ賀表ヲ上ルニ及ハス

第一書式

年月日	官位勳爵苗字名	謹奉賀新年 紀元節 天長節
-----	---------	---------------------

第二書式

年月日	位勳爵苗字名	謹奉賀新年 、 、 、 、
-----	--------	---------------------------

第三書式

年月日	長官苗字名	新年 紀元節ニ付(内閣)(省)(院)(廳)(府)(縣) 天長節 (某神社)判任官准判任(在京北 判任、在京地方判任、在 京神官判任、隨從判任)一同之參 賀相受此段及言上候也
-----	-------	--

第四書式

年月日	長官苗字名	新年 紀元節ニ付(兵卒生徒等)(管内非役) 天長節 正七位以下勳七等以下ノ輩 一同之參賀相受此段及言上 候也
-----	-------	---

○第一類○行政法○三大節賀表書式○驛傳營業取締準則 五百四十五

○第十五款 驛傳營業取締準則

廳府縣

▲明治二十年四月遞信省訓令第二號

明治十七年<sup>十一月</sup>農商務省第三十五號達自今相廢止候條此旨心得ヘシ

參照(明治十七年<sup>十一月</sup>農商務省第三十五號達)

明治八年五月三十日陸運會社解社以後驛傳取締上一定ノ規則不相立候處旅行ノ不便運輸ノ不利不少候趣ニ付今般左ニ驛傳營業取締準則相示候條右準則ニ基キ驛傳營業取締規則取設ケ農商務卿へ届出ツヘシ此旨相達候事(準則略ス)

但該取締規則取設ケヲ要セスト認ムルキハ其事由詳細申出ツヘシ

○第二類 民法編

○第一章 戶籍

○第一款 戶籍取扱手續

▲明治十九年十月內務省令第二十二號

戶籍取扱手續左ノ通相定ム

戶籍取扱手續

戶籍

第一條 戶籍ハ戶籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戶ヲ別葉ニ登記シ一町村毎ニ帳簿ニ編製スヘシ但便宜ニ因リ一町村ヲ數冊ニ分綴シ又ハ數町村ヲ一冊ニ合綴スルコトヲ得

第二條 戶籍簿ハ副本ヲ造リ郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戶籍ヲ取扱フトキハ之ヲ管轄處ニ納メ置クヘシ

第三條 若シ登記ノ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ以テ其欄上ニ掛紙シ之ニ登記スヘシ但本紙ト掛紙トノ續目ニハ官印ヲ捺スヘシ

第四條 戶籍ハ字畫ヲ明瞭ニ記載シ謄ニ添削スルコトヲ得ス若シ錯誤脱漏ニ依リ添削スルトキハ之ニ認印ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

○第二類 ○民法編 ○戶籍取扱手續

第五條 戶籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ  
第六條 戶籍簿燒亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル  
副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戶籍簿ノ改製又ハ編製ヲ爲シタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出  
シ其檢査ヲ受クヘシ但改製ニ係ル原戶籍簿ハ少クモ五十年間之ヲ保存  
スヘシ

登記

第八條 戶籍ニ關スル屆書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期  
限アルモノハ其事項ノ年月日並届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届  
出ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ但本籍地外ニ在ル者ニ係ル事項ニ  
シテ届出期限アルモノハ屆書發送及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ  
第九條 登記目録ハ左ノ三種ニ分テ毎年一種毎ニ之ヲ編製スヘシ但一種  
中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分綴スルモ妨ナシ

一加籍目録

一除籍目録

一異動目録

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戶籍ニ届出ノ事項及届出期  
限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記

シ屆書ニハ受領ノ年月日及登記濟ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戶籍ニ入ル者アルトキハ其戶籍ノ末ニ登記スヘシ戶籍ヲ除ク  
者アルトキハ其事項ヲ朱ニテ登記シ且其氏名ニ朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戶入籍スル者アルトキハ直ニ戶籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戶除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戶籍ニ朱線ヲ畫シ  
便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戶主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戶主ノ續柄ヲ以テ戶籍ヲ改  
寫スヘシ但舊紙ハ官印ヲ以テ新紙ト割印シタル上除籍簿ニ移シ綴ツヘシ

第十五條 戶籍ニ登記シ諸届ニ記入シタルトキハ總テ之ニ認印ヲ捺スヘ  
シ又諸届ハ一箇月分ヲ類集分綴シ翌月中ニ郡役所區役所ニ送付スヘ  
シ但郡役所又ハ管轄廳ニ於テハ戶籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ  
送籍入籍

第十六條 送籍ヲ請求スル者アルトキハ戶籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直  
ニ入籍地ノ戶長區長ニ發送シ且其送籍ノ事項及發送ノ年月日ヲ登記目  
録ニ記入スヘシ

第十七條 人別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戶籍ニ登記シタル事項及戶主  
ノ氏名身分住所ヲ記載スヘシ

第十八條 全戸ノ送籍狀ニハ戶籍ニ登記シタル事項ヲ遺漏ナク記載スヘシ  
 第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戶長區長ヨリ送達シタル送籍狀ト  
 照査シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戶長へ發送ス  
 へシ原籍地戶長ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目  
 録送籍狀發送年月日ノ下ニ記入シ直ニ右入籍ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

寄留

第二十條 他府縣又ハ他郡區ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿  
 ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戶籍ノ例ニ依ル  
 第二十一條 入寄留簿ハ左ノ二種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ  
 一世帯ヲ爲ス者ト然ラサル者トチ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲サル  
 者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨ケナシ  
 一 他府縣人入寄留簿  
 一 他郡區人入寄留簿  
 第二十二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留  
 人名ニ朱線ヲ畫シ其別業ヲ爲スモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ  
 第二十三條 他府縣又ハ他郡區へ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出  
 寄留簿ニ列記スヘシ

第二十四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名  
 ニ朱線ヲ畫スヘシ

戶籍用紙離形第一

此欄内ニハ住所ヲ ノ事項アリトキハ 記ス	轉籍移居絶家廢家 ノ事項アリトキハ 記ス	此欄内ニハ前戶主ヲ記ス	此欄内ニハ身分ヲ記ス タルトキハ此 欄内ニ記ス	此欄内ニハ年月日及事項ヲ記ス以下同シ	此欄内ニハ父及長 男女タルコト又ハ夫ノ名ヲ 記ス以下同シ	此欄内ニハ主ノ氏名ヲ記ス 氏名ノ變換アリタルトキ ハ此欄内ニ記ス	此欄内ニハ生年月日ヲ記ス 以下同シ	此欄内ニハ本人ノ名ヲ記ス 以下同シ	此欄内ニハ主ノ氏名ヲ記ス 以下同シ	此欄内ニハ父及長 男女タルコト又ハ夫ノ名ヲ 記ス以下同シ	此欄内ニハ主ノ氏名ヲ記ス 氏名ノ變換アリタルトキ ハ此欄内ニ記ス	此欄内ニハ生年月日ヲ記ス 以下同シ	此欄内ニハ本人ノ名ヲ記ス 以下同シ
----------------------------	----------------------------	-------------	-------------------------------	--------------------	------------------------------------	--	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------------------	--	----------------------	----------------------

此用紙ハ美濃紙或ハ美濃ニ類ス紙ヲ用ユヘシ

○第二類○民法編○戶籍取扱手續



▲明治十九年十月内務省訓令第二拾壹號  
 北海道廳 府縣  
 省令第二十二號戶籍取扱手續第二條第十五條ニ依リ管轄廳又ハ郡役所ニ  
 納ムル所ノ戶籍簿副本及諸届ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スル  
 ニ及ハス又寄留ニ關スル届書ハ管轄廳又ハ郡役所ニ送付スルニ及ハサル  
 儀ト心得ヘシ

○第二款 戶籍登記書式

▲明治十九年十月内務省訓令第二拾號 北海道廳 府縣

戶籍登記書式等別冊ノ通相定候條此式ヲ比準參酌シ其當ニ適セシムヘシ  
 尤戶籍簿及副本調製ノ儀ハ管轄廳ニ於テ時期ヲ見計ヒ漸次着手セシムル  
 儀ト心得ヘシ

(別冊)  
 戶籍登記書式第一  
 書式中△印ハ朱字又ハ朱線

何年何月何日何十何番地ニ移ル印		△ 士族 何年何月何日華族ニ列セ タル印	
何縣何郡何村何番地 何年何月何日何府何區何町何番 地ニ轉籍印		前戶主 亡父氏名	
何年何月何日相續印何年何月何日願濟改名印	何年何月何日願濟復姓印	戶	亡父名長男 復姓號 漸名 △氏一△名一
何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ女入籍 ス印	何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍 ス印	主	亡父名妻 何年何月何日生
何年何月何日願濟廢嫡印		母	名 何年何月何日生
		妻	名 何年何月何日生
		長男	名 何年何月何日生
		長女	△名 何年何月何日生
		女	何年何月何日生

○第二款 ○民法編 ○戶籍登記書式



何年何月何日死亡印									
何年何月何日何縣何郡何町平民氏名養女トナル印									
何年何月何日同縣同郡同村何番地分家ス印									
何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女入籍ノ印何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス印									
何年何月何日同縣何郡何村何番地絕家何氏ヲ再興ス印									
何年何月何日同縣同郡何村平民氏名ニ嫁ス印									
二男	二女	弟	弟	妻	弟	弟	弟	弟	弟
何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生	何年何月何日生
△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名

何年何月何日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス印											
何年何月何日失踪印											
何年何月何日滿八十歳ニ付除籍印											
何年何月何日失踪印何年何月何日何縣何郡何村ニ現在印											
何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ死亡印											
何年何月何日何地某裁判所言瀕ニヨリ何縣何郡何町平民氏名妻離婚ニ付復歸印											
何縣何郡何町平民氏名二男何年何月何日母名離婚復歸ニ付願濟携帶印											
何年何月何日何縣何郡何町士族氏名長女入籍ス印											
何年何月何日何縣何郡何町士族氏名方ニ離婚復歸ス印											
大	叔伯	母	叔	父	叔	母	從	弟	婦	孫	
亡曾祖父名四女	何年何月何日生	亡祖父名三男	何年何月何日生	亡祖父名二女	何年何月何日生	叔母名二男	何年何月何日生	長男名妻	何年何月何日生	長男名長男	何年何月何日生
△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	△名	

○第二類○民法編○戶籍登記書式

何年何月何日何府何區何町平民氏名長男名妻  
 離婚ニ付復歸印何年何月何日養子名妻ト爲ル

何年何月何日同縣同郡何村平民氏名二男入籍  
 印

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又  
 ハ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡云々ト記スヘシ  
 朱線ハ除籍又ハ氏名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルトキニ盡ス  
 ルモノトス

養子名妻 名	長女 何年何月何日生	養子 名	養子 何年何月何日生
-----------	---------------	---------	---------------

戶籍登記書式第二

何府何郡何町

何年何月何日何町何番地地先ニ於テ拾上印  
 △何年何月何日何町平民氏名養子ト爲ル印

養子 △氏一名 推測何年何月生	棄兒
-----------------------	----

何年何月何日何町通何處ニ於テ拾上印  
 △何年何月何日何縣何郡何村平民氏名引受ト爲ル印

棄兒 △氏一名 推測何年何月生
-----------------------

入寄留簿登記書式第一

何縣何郡何町何番地持家寄留

何年何月何日全戶寄留届出印

本縣何郡何町何番地  
 士族

戶主 亡父名二男 氏名 何年何月何日生	母 亡父名妻 一名 何年何月何日生	妹 亡父名長女 名 何年何月何日生
------------------------------	----------------------------	----------------------------

○第二類○民法編○戶籍登記書式

何年何月何日寄留届出		何年何月何日出生何年何月何日届出	
妻		男 長	
名		名	
何年何月何日生		何年何月何日生	
備考 他府縣入寄留簿ノ本籍ハ何府縣何郡區何町村何番地ト記シ他郡區入寄留簿ノ本籍ハ何郡區何町村何番地ト記ス			
入寄留簿登記書式第二			
何府何區何町何番地借地寄留		本籍何縣何郡何村何番地	
何年何月何日退去届出		平民戶主氏名	
何年何月何日妻外一名携帶寄留届出		父名並男	
主帶世		名	
何年何月何日生		何年何月何日生	

○第二類○民法編○戶籍登記書式

何年何月何日退去届出		何年何月何日出生	
妻		女 長	
名		名	
何年何月何日生		何年何月何日生	
入寄留簿登記書式第三			
何年何月何日何町何番地平民氏名方ハ寄留届出			
何年何月何日改名願濟何月何日届出			
何縣何郡何村何番地土族		何縣何郡何村何番地土族	
氏名二男		氏名二男	
新名		新名	
何年何月何日生		何年何月何日生	

何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日死亡④	何府何郡何村何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地土族氏名方~寄留届出④ 何年何月何日退去届出④	何年何月何日生 何縣何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名
何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届出④ 何年何月何日何町何番地平民氏名方~寄留届替届出④	何年何月何日生 何府何區何町何番地平民 氏名 一名

出寄留簿書式第一  
出寄留簿  
他郡區之部

何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地平民氏名三女 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地土族氏名弟 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地平民氏名三女 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地土族氏名弟 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地平民氏名三女 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地土族氏名弟 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地平民氏名三女 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地土族氏名弟 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地平民氏名三女 名
何年何月何日何府何區何町何番地氏名方~寄留替 右何年何月何日日本縣何區何町何番地~寄留何月何日發送届書何月何日受領	何村何番地土族氏名弟 名

出寄留簿書式第二  
他府縣之部

○第二類○民法編○戶籍取扱手續